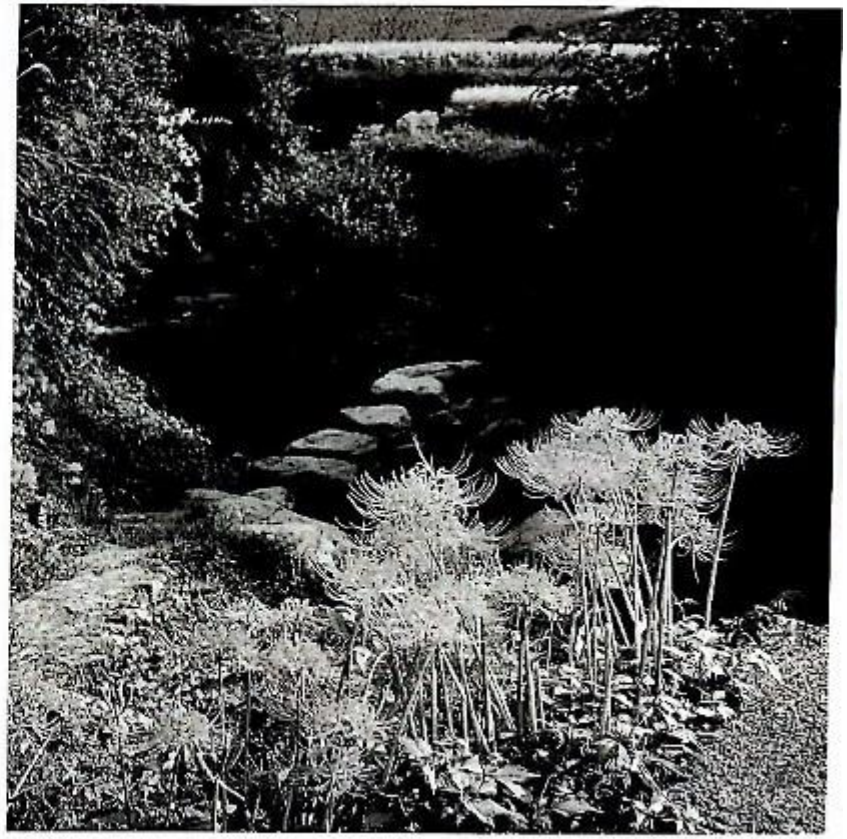
Photo essay

里の秋

題字　中田蘭石
撮影　由井　収
文　松永恵一



彼岸花（飛鳥川）

秋桜（喜光寺）

曼珠沙華　まんじゅしゃげ
すくっと伸びた茎に花をつける
紅と緑の鮮烈な色彩対比
反対色による彩度の昂揚
静かに音もなく燃え広がっている
秋桜　コスモス
花言葉は純潔　愛情
白　紅　淡紅　紅紫色　若葉
ゆうらりと揺れて踊っている
倒れたまま頭もたげて咲いている
萩　はぎ
整然と弧を描いてのびる枝
まるい形の葉　細かな粒ほどの花
美しい真紅の蝶形花
風と戯れる風情が美しい

萩（白毫寺）

季節の実景

初秋

撮影　武市通治

朝霧

秋雨

初秋の堤

夕暮れ

秋晴れ

山頂の朝（八経ケ岳頂上）（大峰）　　吉田　誠宏

縫ケ岳の岩場（鈴鹿）　　岩野　明

石鎚山の１・２・３の鎖場（天狗岳は左ガスの中）（四国）　　三浦　弘幸

石鎚山山頂から天狗岳を望む（四国）　　三浦　弘幸

●目次

新ハイキング 別冊 関西の山
'98年9・10月 初秋 第24号

表紙：松田敏男「夕焼けの甲斐駒・摩利支天峰」（南アルプス）

●作者プロフィール●1946年、京都市生まれ。京都市立芸術大学卒。1987年より山岳版画、山岳画の個展多数開催。（京都・安曇野、南アルプス山水小屋、東京ギャラリー百号、他）
京都山と野に親しむ会代表、日本山岳会会員、一等三角点研究会会員、天狗岳・刀の会会員

●グラビア
旦の秋……撮影 田井収文
季節の実景（初秋）……松永恩一
ジャガイモ岳（山のエッセイ）……生駒碧峰
つわものどもが夢の跡―黒谷青龍寺にて―……平野耕也
中央アルプス駒ケ岳と宝剣岳にて……鷲見守康 13 11 10

紀行
雷倉、花房山そして小津権現山……松田敏男 14
御木峠から猪川……前中一敏 18
［連載］日本霊山紀行22 妙高山……茂野孝一 22
雨の大山……尼野益大 25
大菩薩峠と大菩薩嶺……岩三喜久子 30
行仙岳から登拝山・地蔵岳・玉置山縦走……酒井賢治 34
近江朝から登る鈴鹿の山々……岩野明 44

エリア別研究
―鈴鹿の思い出・おもしろ話―（4）
⑭鈴鹿岳新ルートを行く……松永恵一 54
⑮幼城の御池岳南部・炎ノ平を行く……岩崎崇次 52
⑯ブナ林の尾根から御池岳南峰……立口宏巳 49
⑰天狗堂……稲葉益之 46

●京都北山やぶ漕ぎ熱快山行記（22）
北山の峠四つと桟敷山……京都北山グループ
●「記・紀」を歩く⑤ 北山の巡礼……中村敏文 56 41
●文学歴史探訪ハイク㉓
陶器山から天野山金剛寺へ……松永恵一 60

コースガイド
1 三国岳……出口崇次 64
2 替千山……稲葉益之 66
3 三峰岳と大御形山……山形敏之 68
4 矢筈山から鳥帽子・寒峰……上村操 70

●コラム「ハイキング」考……上田俊弘 73
●野の花・山歌（11）……市川正次郎 40
●連載 山岳紀行（第11回）水上に咲いた花花（六）・恋ヶ淵……小泉誓純 78

治線ハイキングガイド……
せせらぎ……
サービスチェーン……86 81 76
新ハイ関西山行計画と報告……
バス時刻（鈴鹿方面）……
編集後記・広告案内……94 86 96

巻頭言

「新ハイ関西の山」は、今号で24号になりました。一年間6号の発行ですから、四年が経過したことになります。各号にいろいろな思い出があり、あっという間に過ぎてしまいました。山が好きなので、編集や運営については楽しんでやっております。

最近思うことは「安全で楽しい山歩き」をどうして実践していくかということです。無理のない計画で、欲ばらず、一山一山ていねいに登っていくことは勿論のことですが、それだけでは山の事故防止にはなりません。

山行例会は、係（リーダー）の綿密な計画によって行うわけですが、それでも天候が急変したり、時間に追われたり、時には道を間違うことがあります。番外のことに出会って慌てたりもします。パーティはそれらに的確に対処して次の行動をとらねばなりません。

参加される人も、前もってコースの状況や山の情報を調べ、装備を点検し、ご自分の脚力や経験に合わせて参加下さい。みんなが安全に楽しく歩けるためにも、一人一人が考えながら、協力しながら、注意深く歩いて欲しいものです。

新ハイキング関西（代表）村田 智雄

《靴のチェックポイント》
◆問題は必ずとんなことでもスタッフにすること
◆履いてよく歩き回ってみること
◆靴下の厚さをよく考えること
◆しっかり靴紐を結ぶこと
◆両方の足を必ず測ること

山を快適に楽しむために、
大切なポイントとして
自分にあった靴を選ぶことが大事です。
みなさまの山行に応じた靴を
OD BOXでじっくりお選びください。

基本は靴です。

プロガイド 相岸 利夫
OD BOX
アドバイザースタッフ

「山靴を語る」
登山靴を選ぶときの大事なポイントは、ソールの堅さやねじれ具合を実際に試し履きし、その靴の特性をよく知ることです。
岩場や傾斜のきつい斜面を歩くときは、一般的にソールが堅く、しっかりと体重を預けられる靴を、また傾斜の比較的安定した山道では、ソールがある程度柔らかく軽量で、足裏に感覚が伝わってくる靴をおすすめします。

軽登山靴

キャラバン／GORE-TEX
ライト・ストーム
カラーフェルト・ブラック、ライムイエロー
定価 ¥14,500

シダス インナーソールのお勧め

登山靴

スカルパ／クランダーGTX
サイズ：23.0～30.0
カラー：ルスパーズ・ブルー、アシャ・ブルーノ、ブロッコ・オレンジ
定価¥25,000

OD BOX 大阪店
井上 一郎

シダスしようやくまの人々に知られ、喜んでいただいています。われわれがフィットさせるシダスは、登山靴と足裏を体上の密着度を高めることにより、より快適な山行をお約束します。いまひとつフィットしないと思われる山靴をお持ちください。また、靴の購入と同時にシダスを作れば、モデルサイズ調整が同時にできますので、より確かで、特別割引をいたしますのでお許ください。

OD BOXは、登山用からウォーキングシューズまでフルラインナップ!!
なお、一部商品により取扱商品が異なります。
ご会員様、新ハイキングメンバーズカードご提示のお客様は、OD BOXメンバーズ割引適用。

4F	MTB・ロードレーサー ランニングシューズ・ウェア
3F	テント・シュラフ・ザック 登山靴・山用品
2F	登山・アウトドアウェア
1F	スノーボード・インラインスケート アウトドアウェア・雑貨
B1	ダイビング・旅行センター

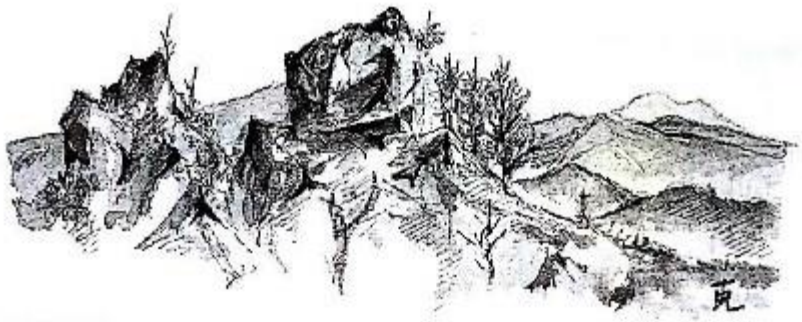
シダス特別割引券 各店へお持ち下さい。

大阪店
心斎橋アメリカ村三角公園東側
地下鉄心斎橋駅より徒歩5分

大阪市中央区西心斎橋2-10-34
☎06-212-9466 FAX 06-212-9411
営業時間 AM10:30～PM8:00
（年中無休）

通信販売でもお求めこれます。
お気軽にお問い合わせください。

アウトドアのトータルショップ
遊 衣 自然で暮らす。
登 食
CAMP 住
OD BOX
営業時間 AM10:00～PM8:00
（5・6月は10:30～PM7:00 年中無休）



ジャガイモ岳

生駒　碧峰

山頂に登りつくと、「ジャガイモ岳頂上」の大きな山名板が待っていた。ここは三重県白山町南家城。JR名松線の家城駅近くの山である。地図には山名が記入されてなく、わずか標高400㍍足らずの山だが、2等三角点が設置されている。

家城の村落を南に出て、林道「東山線」に車を走らせる。入り口から1・6㌔入ったコンクリートの橋を渡った所が登山口で、標示は何もない。

あたり一帯は植林された山で、両側が土手のようになった道に入ると数本の倒木が道を塞ぐ。滑ったり踏いだりして進んで行くと、傍らに道標が立ち「ジュラシックトンネル」と書かれていた。確かアメリカのSF映画の題名で、ジャングルの中を想定しているらしい。私はその映画を見ていないが、そのように感じられなくもない。

さらに進むと拳石の散らばる坂道に「石石道」。歩き難いのでつい右、右、と言いながら歩いた様子を思わせる。その次の粘土質の登りは「つるりん道」。全く的を得た、滑って登りにくい道だ。

次に出てきたのは「これ滝」。小さい沢の緩行のなめ滝。さて何故「これ滝」かとしばし考えたが、どうやら「これでも滝だ」らしい。それにしても何とユーモアいっぱいの表現であろう。

こうなると次は何が出てくるのかと楽しみになってくる。

そうして次は「グランド・キャニオン」ときた。これは又大きく出たものだ。アメリカの「グランド・キャニオン」は何百㍍にも続く大峡谷だが、このキャニオンは深さ2㍍にも満たない堆割れでほんの一跨ぎ。しかし両側の崩れは荒々しく、蟻の目から見れば「グランド・キャニオン」に見えることだろう。

まだまだ標示板は続き、落ち葉に埋まった道は「フワリン坂」。落ち葉がクッションになって、その上を歩くとからだが浮くように感じられる。

そうして最後に登りついた山頂は「ジャガイモ岳」となっていた。ところがこの最後の「ジャガイモ岳」だけは、いくら考えてもその意味が判らない。

山頂は植林の中のあまり広くない切り開きで、2等三角点が設置されているが、わずかに青山高原が望まれるだけで何の特徴もない山である。

これらの標示板は山麓の「家城小学校児童会」が立てたもので、卒業記念にこの山に登る行事があるらしい。山頂の一隅に各人の名前が書かれた小石が並べられていた。

随想（山のエッセイ）

それにしても登山道に立っている標示は、登ってみるとなるほどと納得できるものばかりで、ユーモアに富んだその表現に、思わずほほがゆるんだ。

軽い登山なので、機会がありましたら一度訪れて下さい。

地図は20万伊勢、5万・2万5千共に二木木で、点名は南家城山となっています。

JR名松線をさらに三駅程先の伊勢八知には「火の谷温泉」のレジャーランドもあり、登山後の一浴によいでしょう。

つわものどもが夢の跡

—黒谷青龍寺にて—

平野　耕也

5月9日、久しぶりにハイキングガイド片手に、比叡山に登った。「新ハイキング関西の山」第20号（96年1、2月号）の「玉体杉から西麓」（前中敏）の文に従って、「登山口」のバス停から元三大師道を青龍寺へ。

本堂には左手の受付に尼さんが一人だけ。

「静かですねえ」

「そう」と尼さんの大きな返事。

「つわものどもが夢の跡、です」

「えっ？」

「5月初めの連休には、この御堂こったがえしていましたのよ、朱印帳持った人達で」

二百人ほどの人達が、お堂の中で列をなして順番を待っていたと言う。

このところ朱印集めが流行で、宗派に関係なく車を駆ってお寺を巡っている。ある口の悪い友人が「すごろく遊びみたいだ」と言っていた。

それにしても自分の寺に来た人達を「つわども」とはまたなんとユーモアな……。よほど一人でする朱印帳の作業が大変だったのだろう。

まもなくやってきた老夫婦が朱印を押してもらった後、今まで集めてきたのを自慢している。

「これとこれは中国のものです。ベトナムではやってくれません」

「そう」と尼さんも感心して見ている。

いまや国際化は時代の流れ。朱印帳にもその波が押しよせている。

本堂を出て階段を登り、瑠璃堂への道を歩き始めてすぐの左手に、坊さん達の墓が並んでいる。いちだんと高い墓地に幽一列に十基ほどの墓が——。

それらの墓を60歳前後の背広姿のサラリーマン風の男性が一人竹ぼうきで掃除している。

ちょっと変わった光景なので声をかけてみる。

「それら、この青龍寺の坊さんのでしょう？」

「そうです」

待ってましたとばかり返事があって、そのあと興味ある話を小一時間ほど聞いた。

「これ、実はおやじの墓なんです」と一番左の墓を指す。

「戦後しばらく、この青龍寺が比叡山天台宗（今は浄土宗、智恩院の管轄）だった時、おやじがここの住職だったのです。終戦時の農地改革（解放）で田畑を無くした比叡山天台宗は貧乏していて、この寺もずいぶん荒れていました。おやじはこの寺や私達家族を守るために必死でした」

そう、あの当時日本人は皆そうだった。食べるもの、着るものも十分になかったが、時間だけは十分にあった。今はその逆だ。

「この黒谷は野鳥の多い所で、野鳥の会の人達などを泊めたりしたものです。」

あっ、思い出した。昭和30年前後のいつか、京都の大学生だった私は、先輩に連れられてこの寺に一泊している。

陸の孤島みたいなこの山奥の寺の薄暗い電灯の下で夜を徹して文学の話などしたっけ。（その先輩は今は建て替えられている）

このサラリーマン氏、三男で大学卒業後東京へ。今も一年に一回か二回、暇を見つけてあちこちと「おやじの墓」に参りにくると言う。

青龍寺が天台宗から浄土宗に変わったいきさつなども聞いた。

維持するのが大変だったこと、もともとこの黒谷が別所として叡山十六谷と区別されていたこと、法然ゆかりの寺だったということなどがその理由だと言う。

以後、この男性と青龍寺との関係は切れて、墓参りをすませた後は、寺に寄ることもなく帰ると言う。

それでも……

「あの本堂の裏き水の樋など私達が手伝って作ったものです。

樋達に言っているのです。私が死んだら灰をこの黒谷のどこかにまいてくれ、と」

「冗談とも本気ともつかぬ口ぶりであった。

ああ、もしもそれが実現するのであれば、それこそまさにこの黒谷が「つわものどもが夢の跡」ということになるのではないか……。

随想（山のエッセイ）

中央アルプス

駒ケ岳と宝剣岳にて

鷲見　守源

一昨年の9月下旬、日帰りで中央アルプス駒ケ岳と宝剣岳を歩きました。

案じていた天候も予想以上に良く、山行中のほとんどを青空に恵まれ、北アルプスや八ケ岳連峰などは雲に隠れていたものの、南アルプス、富士山、御岳、そして乗鞍岳や南駒ケ岳などの中央アルプス南部の山や恵那山などが望めました。

3000級の森林限界を超えた山岳の魅力には、このような大パノラマ展望とともに、山岳そのものの持つ美しさがあります。天空に屹立する白い峰々、緑濃いハイマツをはじめ紅葉に向け多彩な色合いを見せる植物、それらを包み込んで豊かな曲線を描くカール。千畳敷カールに降り立った誰もが息をのみ、目を見張ります。

この中央アルプスでは、中岳西面の景観も見逃せないと思います。露出した大きな花崗岩が頂上部分から剛ノ沢への斜面に、無数とも言える大小の芸術的なトア（石塔）を創出し、ハイマツとの色彩のコントラストを見せています。いつまで眺めていても飽きない景観で、どのガイドブックにも一言として紹介されていないのが不思議なくらいです。

私は中央アルプスは三度連続三回目ですが、いずれも高山植物が花の盛りを終えたこの時期の山行のため、今までは植物リストを作成していませんでした。けれども、中央アルプス駒ケ岳は高山植物の有数のメッカであり、特産種もいくつか存在することから、今回からリストアップすることにしました。幸い、夏の天候不順の影響で、紅葉への動きが始まったこの時期にも咲き残っていた花があり、実をつけ、あるいは色づいた木々とともにノートに記してきました。一度、花真っ盛りの夏本番に訪れてみたいと思います。

ところで、浄土兼越からの下山中に、段間節機能の障害を負った人と見られる娘さんとその家族が登って来るのに出会いました。そのもう少し下方では、知的障害の20代の息子さんを連れた父親にも出会いました。

職業柄気付くことが多いのでしょうか、夏から秋にかけ、私は高い山でしばしば障害者とその家族の登山パーティに出会うことがあります。肢体不自由の人に出会うのは珍しいのですが、知的障害の人にはよく出会います。敢えて声をかけたりはしませんが、心の中がぽっとあたたかくなるような気がします。

小津三山、三様の貌

雷倉、花房山そして小津権現山

奥美濃

松田敏男

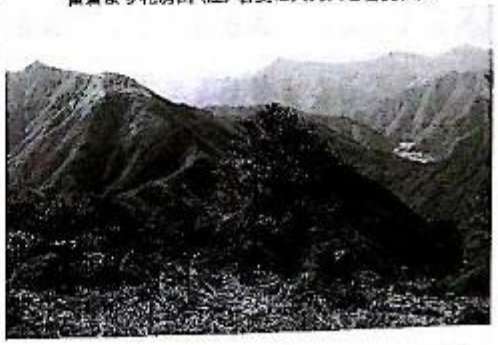
岐阜県の久瀬村は、揖斐川がその村を二分するように、北西から南東にかけて流れているのどかな山村である。その真ん中の役場のあるあたりに、西から日原川が流れこみ、北東からは小津川が合流している。日原川の奥には1234mという覚えやすい標高の月山があるが、登山口あたりにスキー場やゴルフ場が造られ、リゾート化してしまった。私のような登山者には縁遠くなりつつあるが、小津川流域は昔ながらの吹わいのある小津という集落がひっそりとあるばかりで、趣き深い旅情を感じさせている。

その小津川の源流から順に雷倉（1168・6m）、花房山（1189・5m）、そして小津権現山（1157・8m）が、ダム湖に水没する旧徳山村を併合した藤橋村と北西側を境にして、連峰のごとくに並んでいる。標高はいずれも1100m台で、それほど高くはないが、人里に近い山にしては自然が多く残っている山域だった。

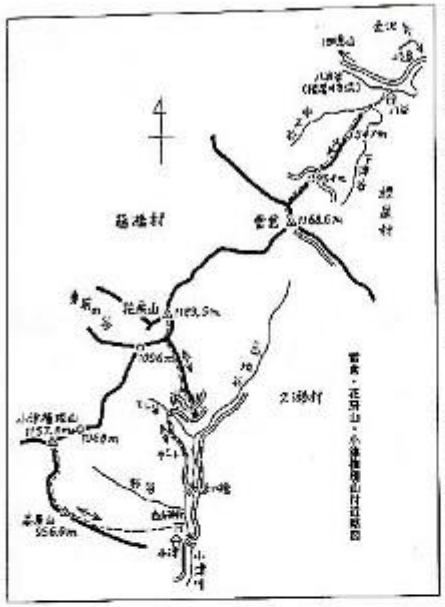
小津川と平行して三つの山が並んでいることから、仮に小津三山と名付けておこう。北東にある山が雷倉で、南より見ると三角錐の美しい形の山である。残念ながらこの山には林道が上がっていて、花房山から見ると痛々しい。中央の花房山は三山の中で最も標高が高い。山頂付近の藤橋村側の東前の谷源頭部の形が小津権現山から望むと、どうしてもその現場へ行きたくなるような魅力を放っている。いちばん南の小津権現山は最も低いのだが、小津白山神社が登山口にあり、信仰の山として山道がはっきりしている。林道が全くなくて、自然が良い状態で残っている山だ。

三山とも10月に登った。雷倉だけは5年前になるが、他の二山は昨秋の山行の印象だ。また、雷倉だけ小津からは登っていないので、文の表題から少しはずれぎみになるが……。

雷倉より花房山（左）右奥は天狗山と番匠松山



雷倉へは登頂した年の一年前に一度途中まで登っている。それは晩秋11月の冷たい雨あがりの日だった。根尾村の八谷で車を駐めた時、稜線の厚い雲がとれて、すぐ上の樹林まで新雪におおわれた思い出がけない光景に、いたく感動した思い出がある。その日は五人のメンバーの中には雪を予想していなかった人もいて、吹雪の中、装備不足により途中撤退した。晩秋の黄色を主体にした樹林が、登るにつれてだんだん真っ白の世界に変わっていった。その幻想的な道程が印象的だった。



さて今回も同じ場所に車を駐めた。前回と少しメンバーの入れ替えがあって、六人だ。心地よい秋晴れで落ち葉もかわき、前回の印象とはまるで別世界のような感じの道を登る。若むしの芽も、以前のような雪に埋れてしっとりとした深山の趣きにはほど遠かった。雪のために撤退した地点のすぐ上には林道が横切っていて、無残な明るさが広がっていた。その上の樹林も、野放図に荒れた感じとして思い出されるのは、高い所で林道に出合ったことが尾を引いていたのだろうか。頂上直下にも花房山側からの林道が上がっていた。頂上は刈り払われていて展望は良かった。頂上手前に日の高さから5度ぐらい上まで、ぴっしりと大きなキノコが群生している大木があった。倒れるのはもうすぐのように思われた。大量のキノコに命を与え続けている大木を見上げた時の、遠きとおるばかりの青い大空が哀しかった。

小津権現山はまだ紅葉には少し早い、10月初めに八人で行った。小津の古い白山神社の前に車を駐める。境内という境界がなく、神然と村の生活に溶け込んでいるような山里のお宮様だ。登山道も初めは民家に入って行くような感じで始まり、物干しの支柱に小津権現山の標識を取り付けてくださっているのが何ともほほえましい。すぐに山道となる。よく踏まれた、それでいてみだりに広がっていない、しっとりとした樹林の中の小径をたどる。紅葉も花もない時期なので少し単調な景色だが、何と言っても雑木林というのがうれしい。静かな樹林巻きが続いて西峯山を過ぎ、小さなコブに達すると、眼前に小津権現山が大きく現れた。緩やかな三角形の堂々とした姿は立派だ。広葉樹におおわれていて、あと半月程したら、さぞ美しい紅葉の山になっているだろう。頂上は木も低く、笹が周囲を埋め、展望抜群の山々がよく見渡せた。その中で、いちばん近くの花房山のたたずまいに心を奪われてしまった。西側からの谷が本

錦繍の花房山

林道は山腹を谷や尾根の形に合わせて大きく巻いているので、見えている距離ほど前進しない。左の山側へちょっとした道がいくつもあるので、どれを登ったものかと思案しながら、真南に下っている尾根の曲がり角に着いた。尾根の上は歩きやすそうな灌木に見えるので登ることにした。登るにつれ、木が密生してきて、少々戦闘ぎの様相を呈してきたが、秋も深まってきているので、雑木林の中は楽しい。峰を持ちぐいぐいと体を引っ張り上げて登る手の感触が、何とも心地よい。枝をかき分ける時の葉擦れの音や、香り立つ秋の匂いがたまらなく爽快だ。高くなるにつれて、黄色い世界が増していく。そしてはっきりした登山道に出た。

目のさめるような黄葉が、青空をバックにして光っていた。登山道に合流してしばらくで、花房山の全容が見渡せる場所に出た。まさに全山錦繍真っ只中。そのきらびやかな色彩の中を登って行くと、小津榧現山から見たあこがれの岡谷的な谷をとり囲んでいる尾根に出た。大きな樹々の間からそちら側を見れば、びっしりと一面の笹原だった。谷の下の方までは見えなかったが、冬には雪渓登りが出来るのではないかと、またの機会に思いを馳せたのだった。ブナ混交の美林の中をぐるりと平滑ほど回って、本峰へひと登り。花房山は登山道に味わい深い変化があり、とても好きになった。頂上は木が低く、能郷白山や冠山など、美濃美濃の山々を眺めて、ゆく秋を惜しんだ。

（留倉＝平成2年10月10日、小津榧現山＝平成6年10月3日、花房山＝平成6年10月30日歩く）

〈コースタイム〉

〈往路〉八谷（3時間）留倉（2時間20分）八谷

〈小津榧現山〉小津白山神社（3時間）小津榧現山（2時間20分）小津白山神社

〈花房山〉高地谷左岸林道ゲート前（3時間30分）花房山（2時間30分）ゲート前

〈地形図〉

2万5千＝樽見・美濃広瀬・谷汲

〈留倉の読み方について　山頂が久瀬村、根尾村、藤橋村の境界点にあり、各村役場に問い合わせたところ、それぞれ「らいくら」「かみなりくら」「らいそう」という回答を得た。また、小津榧現山は小津のある久瀬村の呼称と思われる。

山の専門店マウンテントラベル

今秋おすすめの海外の登頂・トレッキング

山と溪谷社創立65周年記念
「アジアの名峰・登頂の山旅」

■日峰親善　韓国の名峰ソラク山(1,708m)登頂5日間
出発日：9月24日(日)
東京・大阪・名古屋・福岡発着（添乗員同行）
¥148,000

■日華親善　台湾最高峰玉山(3,952m)登頂6日間
出発日：10月1日(日)
東京・大阪・名古屋・福岡発着（添乗員同行）
¥178,000

■日華親善　台湾の名山雪山(3,884m)登頂6日間
出発日：10月1日(日)
東京・大阪・名古屋・福岡発着（添乗員同行）
¥178,000

■東南アジア最高峰　マレーシア・キナバル山(4,101m)6日間
出発日：東京発/10月19日(木)　大阪発/10月16日(水)
¥168,000

東京発直行便で行くネパール
「JAZで飛ぶヒマラヤ」

昨年秋にご好評をいただいたJAZ直行便で行くネパール。創業26周年を迎え今年もベスト・シーズンのヒマラヤへご案内致します。

11月10日(金)出発　／　11月18日(土)帰国9日間
11月17日(金)出発　／　11月25日(土)帰国9日間
12月22日(金)出発　／　12月30日(土)帰国9日間
12月29日(金)出発　／　1月6日(土)帰国9日間

●世界最高峰とシェルパの里9日間
●ホテル・エベレスト・ビューとポカラ9日間
●アンナプルナ・ダウラギリ展望トレック9日間
●世界一美しい谷ランタン谷ヘリ・トレック9日間
●チベットの香りジョムソントレック9日間

この他にも全16コースを設定しております。

マウンテントラベルツアーデスク
主催 ヒマラヤ観光開発株式会社　大阪支店オープン
運輸大臣登録一般旅行業1014号
東京／〒105 東京都港区新橋3-26-3　☎03-3574-8880
大阪／〒530 大阪市北区梅田1-11-4-500　☎06-346-0360

叡山三塔十六谷 ③

仰木峠から横川

前中 毅

京都北山

叡山のお宝巡り山行も最終回で、今回は延暦寺最北のエリア、横川を訪れる。

横川とくれば元三大師だ。寛和二年（985）正月三日に入寂したことから元三大師と呼ばれている良源（正式には慈恵大師・18代天台座主）は、在世中に延暦寺の最隆盛期を築きあげ、叡山中興の祖として尊名だ。当時の修行者は、叡山三千坊といわれるほど堂塔伽藍や坊舎が可を競った。

横川における良源への信仰の篤さと人気の高さは、天台宗延暦寺の開創者最澄（伝教大師・767～822）と、横川の開祖円仁（慈覚大師・3代天台座主）の両先輩をも凌駕するほどで、この山では横川へ通じる全ての道を「元三大師道」と呼び、それを刻字した碑が山上、山麓にたくさん残っている。洛北大原の野村坂バス停を東へ上がった右手にもその碑があり、ここが仰木峠への登り口で、東北は東海自然歩道になっている。今回はこの峠道から登る。

登り始めは檜林の中を緩く登る石の多い道だ。墓地が見える辺りから登りきると平坦地に出た。谷を渡って5分ほどの所にある道標に、仰木峠へ1・1㌔とある。右へ急カーブの登山道は登るに従いいくらか狭くなり、谷を離れて尾根に取りつく。一帯は雑木の林になり、くっきりと掘れ込んだ道は由緒ある峠道の様相を呈してきた。後方に展望が開けるポイントで汗拭きの小休にする。そこからユリ状の快適な道が200㍍ほども続いたが、峠の直前では少し急になった。

仰木峠から仰木への道が左へ下っているが、私は直進する。すぐに、路肩に柵が設けてある展望地に着く。周辺は湖の群生地で、微風にゆれるその穂先や、琵琶湖の白っぽい湖面を眺めていると、深まりゆく秋が感じられた。

仰木峠の歴史は古い。延暦寺が開かれた初期の頃には穀馬寺と頻繁に往来があったので、おそらく最澄もこの峠には何度も立ったことだろう。また、源義経が牛若丸と呼ばれ鞍馬寺に預けられていた時期に、金売り吉次に手を引かれこの峠から近江へ下って、はるか奥州へ旅立ったとも伝えられる。

縦走路を南へとる。8分ほどで三種類の道標の立つ分岐に出る。左、横川方面へ進み上樵を離れ、丸太の階段道をちょっと登り、そこから谷底まで急下降した。木橋を渡った所から急な斜面を登り返すのだが、これがかなり長くてきつい。汗だくになってドライブウェーの横まで登り着きほっとしたのもつかの間、まだ130㍍もの丸太階段が待っていた。駐車場にある拝観受付料金所から、横川（六谷一別所）の本谷、般若谷へ入る。

六分ほどに色づいた紅葉林の小丘に振本如法塔が建っている。鮮やかな朱色の塔は、延暦寺のPR用のポスターやテレビでおなじみで、しかも横川中堂のすぐ近くだが、観光客はほとんど来ない。静かで落ち着くので、私は横川での昼食地に決めている。

朱塗りの横川中堂と周囲の紅葉が競い合って、一帯は繁華な彩りだ。横川の本堂であるこの大側盤は、幾度かの焼失の後に昭和になって復興されたもので、華麗な極彩色に目を見張らせられる。本尊は聖観音像（重文）だ。

横川を開いた円仁は、恩師最澄に次いで唐へ渡り密教学を修めた。10年にもおよんだ唐での波乱に満ちた滞在の様子は、彼の著書『入唐求法巡礼行記』に詳しい。元駐日アメリカ大使ライシャワー博士はこの書を高く評価した。いわく、「旅行記としての精密さにおいて、マルコ・ポーロの『東方見聞録』をもしのぐ」

帰国後の円仁はさらに研鑽を重ね、天台教学を完成させた。と同時に、全山に誇われて座主に就いた。この新しい天台座主の教えが、朝廷や貴族の絶大な支持を得たことから、叡山はライバルの高野山を圧倒して、時代の主役に躍り出た。その反面、恩恵深く温厚な性格の円仁は争い事を好まず、功名心とも無縁であった。そのため小ぜりあいの続く一山の中心部から離れることが多く、終生、横川の静かな樹林を愛した。

横川中堂から広い参道を進み、分岐を左折して北へ10分ほどで元三大師御廟に着く。叡山を代表する霊地の一つだ。

日蓮の旧跡へ向かう。ゆっくりと南へ向きを変えた参道から外れて北東へ下ると、叡山最北の谷、香芳谷の定光院に着いた。21歳で入山し、香芳谷の原生林で命がけの修行をした日蓮は独自の教学を築き、後に

横川中堂

日蓮宗を開いた（1222～83）。日蓮の銅像の前で、中年の女性が〝ざっこわ太鼓〟を乱打しながら、「南無妙法蓮華経」とお題目を絶叫していた。無信仰の私には理解できない世界だが、このすごい迫力には圧倒された。

参道に戻って行院と第塚弁天を訪ね、さらに四季講堂（重文）まで来た。良源が後進を育成するため講話などをした塾のような場所で、元三大師堂とも呼ばれている。

四季講堂からすぐ右の三差路を左へ登る。恵心院は樹林の中に建つお堂と、前庭の石塔とのコントラストが絵になる。日生宝塔を通り過ぎ、恵心廃まで足を延ばす。

横川の各地に足跡と伝説を残す源信（恵心僧都）は、師の良源と肩を並べるほどの宗教的天才で、日本の仏教史上不朽の名著との誉れ高い『往生要集』を著した。この仏典は法然や親鸞など浄土系仏教の始祖達に大きな影響を与えて、それまで貴族のものだった日本の仏教を大衆化させることに成功した。

日生宝塔の横まで戻る。細い道が下っているが、これが横川本坂（飯室坂）で、横川の中心地と、飯室不動や坂本の里を結ぶ。往時は高僧や修行僧が往来した道で、西教寺などを襲撃するために、僧兵達が血相を変えて駆け下ったこともあったのだろう。

僧兵は、延暦寺の広大な寺領（荘園）を守るために組織された、非正規僧と出世の見込みの無い最下級の僧侶達の武装集団だった。ところが、寺領守護の任務から逸脱した彼らは、国家権力に強訴するなど、あらゆる組織に対して圧力をかけた。円仁・円珍（智証大師・5代天台座主）の死後、両派の対立により百年にもおよんだ内部抗争で、肥大した僧兵達は次第に他宗の隆盛をねたむようになり、それらの本山や大寺院に凶暴な矛先を向けるようになった。時代を経ることにエスカレートする僧兵パワーに苛まれて、いつしか好戦的な風潮が全山に蔓延した。さらに年月を経て、織田信長の気性と実力を備った結果、叡山は一方的に蹂躙されて全滅した。その後、一度と僧兵を持つことはなかった。

横川本坂の降り口は草が生えこんでいて、いきなり急坂になるので足元に注意しながら下る。7、8分も歩くと荒れた道が落ち着き、古道の感触が伝わってきた。急坂がおさまればほぼ中間点で、〝酒り〟と呼ばれる間口の広い小屋があり、ここで一息入れる。右下から沢音が聞こえてくると石の多いジグザグ道になるが、やがて直降してT字路に飛び出した。左へ進み、〝浄刹結界跡〟の碑が見えてきたらいよいよ飯室谷だ。横川本坂の立派な石碑があり、飯室の諸堂が右上に見える。

古い道標に従って山道を登り、まず安楽谷へ向かう。安楽谷は西塔の黒谷とともに別所と呼ばれ、十六谷とは区別されている。小さな峠を越えて石段を下ると安楽律院の山門が見えた。山門をくぐって登ると大きなグランドほどもある草深い広場に出た。そこには数多くの堂跡の石組と、若干の堂宇が点在していた。無住になって久しいのだろう、動くものはなにも無く、音もしない。参詣する人も稀な安楽谷は、叡山三塔のさいはての谷であり、忘れられた聖地だ。往時はこの地にも堂塔が軒を連ねて隆盛をきわめていた。十六谷の大乗仏教に対し、小乗を唱えて学僧達が反骨の魂を燃やした谷は、孤高の谷ともいえるだろう。本堂には源信作と伝わる阿弥陀三尊が安置されているとのこと、ガラス戸ごしに堂内を見るが、暗くて何も見えない。

飯室谷へ戻って谷を巡る。拝殿の前まで来ると50足ほどの履物が揃えてあり、酒井雄哉師の法話がスピーカーを通して聞こえてきた。飯室谷の縁師で、千日回峰行を二度も達成した酒井雄哉大阿闍梨は、寂れていたこの地を十六谷でも屈指の谷の一つに復興させた功労者だ。その数奇な半生は、『生き仏になった落ちこぼれ』（長堂三郎著）に詳しい。

飯室谷

谷の主堂である不動堂の本尊に不動明王立像（重文）だが、秘仏ということで拝観できなかった。最後に慈忍廟へ足を運んだ。廟所の参道の両側に群立する巨大な杉は、大杉には滅かない叡山の山中でも最大級のものだ。廟に眠る尋禅（慈忍和尚・19代天台座主）は、今なお聖僧と仰がれる良源門下の逸材だった。

廟所から下って分岐を右へ奈良坂へ行くが、この道には人が入らないのか、道一面に緑の苔が貼りついていて、よく滑る。横川本坂と同じ樹相の森林だが、こちらは鳥が多い。傾斜が急になり、飯室谷から15分ほどで奈良坂は終わった。舗装路を右へ下ると交差点に出る。西教寺を右に見て信号を直進する。

間もなくゴール地の生源寺に着くが、ここで、若い日に横川で修行した指導者、山田恵諦師（2555代天台座主）の晩年について述べる。そして、これをもって三回にわたって歩いた『叡山三塔十六谷』の結びとしたい。

師は昨年（平成6年）の2月22日、数え年100歳の天寿を全うしたが、ローマ法王ヨハネ・パウロ二世が〝東洋の聖者〟と讃えたように、日本が世界に誇る宗教家だった。生前の数多くの功績の中でも、世界平和実現のために異宗教間の協力に情熱を注いだことは、特筆される偉業だろう。人種や宗教の垣根を越え、90歳を超えた最晩年まで世界を駆け巡ったが、クライマックスは全世界の宗教が揃って平和を祈るという、人類史上にかつてなかった集い、「比叡山宗教サミット」の開催（昭和62年）だ。内外で高く評価された大会の成功は、師の崇高な理念、若々しい情熱、そして懐の深い包容力によるところが大であった。

坂本の穴太積みの石垣に目を向けながらゆっくりと下って、最澄生誕の地と伝わる生源寺に着いた。踏切に建つ大きな石碑が示すように、この地も「元三大師道」の起点だった。

（平成6年10月27日歩く）

《コースタイム》
野村峠バス停（55分）仰木峠（45分）横川中堂（35分）定光院（20分）恵心廃（10分）日生宝塔（50分）安楽律院（10分）飯室不動（45分）生源寺（13分）JR比叡山坂本駅

《地形図》昭文社＝「47京都北山1」

※野村峠へは、JR京都・阪急河原町・京阪三条・地下鉄北大路の各駅付近から、京都バスか市バスの（大原行き）に乗車する。

連載

日本霊山紀行 22

妙高山

2445・90メートル

浅野孝一

妙高山は妙高火山群の主峰である。また巻山、火打山と共に頸城三山とも呼ばれている。

妙高山は複式火山であるので、山頂を囲んで外輪山として神奈山・太倉山・三田原山・赤倉山・前山等が聳えており、山麓には関温泉・燕温泉・赤倉温泉があり、冬はスキー場として多くの観光客をあつめている。

『日本山嶽志』は「妙高山（別称妙雪山、越後名寸志 越後國中頸城郡ノ座方ニアリ、開山村大字開山ヨリ西里三町、名寸山村大字妙高ナル赤倉温泉場ヨリ、二里ニシテ其山頂ニ達ス、標高八千九十八尺」と記している。

山頂に達するには東口の赤倉温泉、関温泉、燕温泉からの登山コースが分かれている。東からのコースとしては笹ケ峰から十二曲りを経て、途中の山小屋に一泊して登るのが楽のようである。

赤倉温泉からのコースは山麓が長い。関温泉からは神奈山を越えて外輪山を経由する。このコースは変化はあるがつらい。燕新道をたどり、途中関温泉からの登り口と一緒になり、妙高山の北斜面を大きく迂回し、大倉乗越経由の登山道と一緒になって山頂に達するもの、あるいは燕温泉から直接山頂を目指してゆくものなどがある。

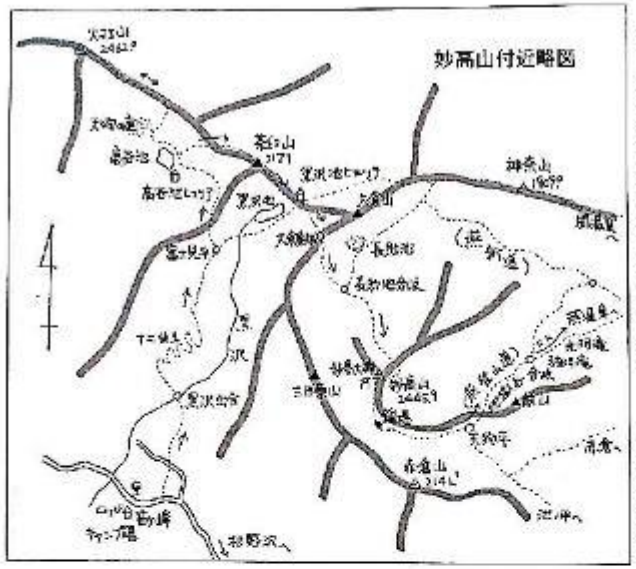
私達は山麓の民宿に一泊、さらに黒沢ヒュッテに一泊して妙高山頂に立った。

大倉乗越からの妙高山

第一日目は杉野沢の民宿に一泊した。その日の午後は苗名滝を見に行った。

二日目はバスで笹ケ峰へ、ここから歩き始めた。バス停からやや引き返し、左の笹の間につけられた登山道をゆくと林道を横断する。ここを過ぎるとゆるいブナ林の中を登ってゆき、下りとなると黒沢にでる。水はここで補給し、十二曲りの急坂に備えてしばらく休んだ。

黒沢を渡ると十二曲りが始まる。このコースは前年の秋にも登り、登山道の拡がり具合は知っていたので、さほどの苦痛はなかった。しかし本年は、春以来の残雪で、その上とても暑かった。前回は10月であり、途中から雪に降られ、高谷池ヒュッテに泊まり、登頂をあきらめて下山した。この付近から見る下界は紅葉されていて、全山くまなく紅葉に彩られて美しかった。



しかし今回は違う。雪は十日平でグループのしんがりとなり、ようやくの思いで高谷池ヒュッテに辿りついた。ヒュッテにザックを預けて火打山に登った。途中の高谷池や天狗ノ庭の湿地帯に水はなかった。本当山を越えて、この日は黒沢池ヒュッテに泊まったが、ヒュッテ前の黒沢池は水が干上がっていて、ヒュッテはわずかな天水がたよりだった。

この日、上空は雲が厚く、火打山や焼山からは妙高山の山頂は見られなかった。

三日目、いよいよ待望の妙高山登頂の日である。ある登山地図では黒沢池ヒュッテから大倉乗越まで20分とあるが、そうはいかない。又乗越から長助池分岐までも20分とあるが、そうはいかない、両方合わせても一時間以上にかかる。長助池分岐のかたわらの小さな流れに助けられた感が強かった。

分岐から山頂までは急坂の連続であった。しかし太陽光は山頂にかくされていて、涼しい。登山道の斜面に咲く花々を見ながら登ってゆく。途中で昨夜同宿した大学生三の一団に追い越された。団体が通り過ぎると再び山中の静けさが戻ってきた。右手に見えていた三田原山とほぼ同じ高度になった。辺りが明るくなると登山道はかわいた赤色の小石に変わり、山頂が近いことがわかった。先発隊の一人が遅れた私を迎えにきてくれた。

山頂付近は大小の岩塊が累積している。その一角の上に三角点があった。きのう登った火打山や、南方に黒姿山や戸隠山が見えてきた。最高峰は山頂の南で、そこに妙高大神がまつられてあった。小さな祠と霊神碑があった。

志賀重昂の『日本風景論』は「絶頂同嶺陀堂の側に泉水あり、寒冽にして一飲齒牙爲めに冷、欽後四方を眺望せんか、東南に

妙高山頂の霊神碑

後間、富士あり、南には黒姫の尖峰聳立し、其間より飯綱山を望み、南々西に鍋ノ峰、西北西に焼山の頭頂を看る」と記している。

霊山としての妙高山の歴史にふれてみる。伝説によると妙高山は、和銅元年（708）泉形上人によって開山された。養和三年（1183）木曽義仲により山頂に妙高三尊阿弥陀如来が安置されたという。その妙高三尊は、東側の山麓にある関山神社境内の妙高堂に安置されている。

さて、燕温泉へ下ってゆく登山道は登り以上にけわしい。登山道は岩場の間を下ってゆく。そのせいか展望がよい。途中二ケ所の鎖場を通り、ようやく樹林帯に入ってから天狗平に下る。赤倉温泉分岐を過ぎ、左へ歩きづらい登山道を地獄谷へ下る。付近には噴気口があって水蒸気が出ているが、冷たい沢があってゆっくり休むことができた。

ここで二分する登山道は右に入る。称明滝、光明滝を左下に見ながら下って燕温泉上部のスキー場に出る。露天風呂を通ぎると温泉街に入る。私達はバスの出発時間に合わせて旅館内の温泉に入り、湯上がりのビールを楽しんだ。午後のバスに乗り妙高高原駅に戻った。

（平成6年8月7日～9日歩く）

△参考タイム▽

黒沢池ヒュッテ6・15—大倉乗越6・45—長助池分岐7・45～50—妙高山9・35～45—天狗平11・30—地獄谷分岐12・45～13・00—燕温泉14・30

△地形図▽　2万5千＝妙高山・赤倉

低山登山～本格トレッキングまで、
登山用品のことならおまかせ下さい。

新ハイの会員証で更に割引します。

とスキーのヨシミ

〒543 大阪市天王寺区南河堀4-70
TEL06(772)7231

JR天王寺駅
北出口右へ
歩道橋渡ってスグ

西日本の名峰

雨の大山（だいせん）

山陰

尾野益大

富士と別称が与えられている山は、数る楽しみはもちろんだが、三角錐の形に峙っている姿を遠目に眺めるのもまた格別だ。

昨年、本邦最果ての孤立峰、利尻富士をフェリーから遠望した時の感銘は、今もって忘れ難い。雨を予感させるミルク色のベールが突如ちぎりとなり、海面から夢のように現れた端麗な山容は、僕をひとときの恍惚とさせ、無言の鑑賞者にしてしまったのだった。

故郷の四国にも阿波富士（剣山）や讃岐富士（飯野山）などがあり、それらは決して高くはないが、その名に負けない威風堂々とした山々である。

それまで「何々富士」なんて、どうせ本家本元の富士山の亜流にすぎない駄だし、まるで富士山のチェーン店みたいに思え、好んで巡り歩く気持ちなどさらさら起こらなかった。登りたい山があれば、名前など別段どうでもよい時期があった。しかし富士塾山岳の魅力を知った今では、そう呼ばれる一座一座へ少しでも多く登りたいと思っている。

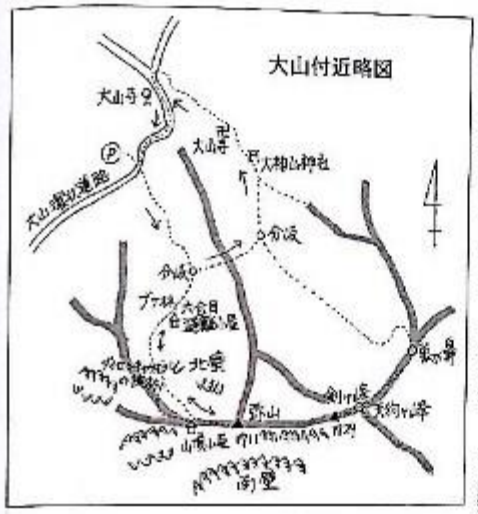
今回、大山へ行くにあたり、そう言えばこの山も「伯耆富士」「出雲富士」と呼ばれ、全国に知れ渡る西日本の名峰であることを思い起こし、一刻も早くその勇姿にお目にかかり、ブナやミズナラなどの落葉広葉樹が洋々と広がる樹海へ分け入ってみたくなった。

六合目避難小屋付近（大勢の登山者が行き交う）

ところが当日は、はるばる瀬戸内海を渡って岡山に入り、さらに鳥取へと中国山地を越えた頃から雪行きがあやしくなり、あれほど待ち焦がれていた壮麗でピラミダルな大山の遠景には出会えず、登山口に着いた途端、とうとう降りだしてしまった。このところの災害からはまったく予想もできなかった事態となった。「しかしせっかく遠方から来たのだから」と四人の意見が一致

して、気分はやや滅入りつつも身仕度を整えることになった。

階段状の登行は始めからきつかった。「ガイドブックの通りなら、このまま3時間近くも我慢しなければならない。耐えられるだろうか」と、アゴを出した者は真剣に心配した。まだ午前中なのに、大勢下ってきていた。駐車場の下でテントを張って一夜を過ごし、早朝に発った人たちに違いないと思われた。彼らの前後にも数多くの老若男女が天辺を目指していた。「大山登頂」という志を持った目知らぬ者たちの数珠のような列だった。深くえぐられた登山道は大山のはかり知れぬ人気を窺わせ、古く奈良時代から修験道の山、あるいは山岳宗教の霊場として一部の人にしか開放されていなかった静かな往時など、偲ぶよすがもなかった。



中間木がなく、高いブナと低木で構成される大山独特のブナ林は、本来見通しが利いて明るいそうだが、降ったり止んだりという悪天候のせいで前方の数m先は濃厚な霧に煙っていた。

ゼーゼーと忙しく呼吸を乱しながら六合目まで来るとブナのような高木がなくなり、ヤマヤナギやオオカメノキなどの低木に林相が変わってきた。三か月ぶりの山行だと言って意をあげていたO氏や、ふだんのトレーニングは欠かさないものの実に4か月の空白をおいて山に挑戦するG氏も、さすがにここまで来ると測を取り戻し、本来のペースに戻っている様子だった。紅一点Mさんは「なによこれぐらい」と言わんばかりに、登り始めから男性顔負けの素晴らしい歩きっぷりを披露していた。

避難小屋の前で休憩をしている間に、雨はいよいよ本降りとなって雨具を着けざるを得なくなった。「山頂はもしかして晴れるか」といったわずかな望みもこなごなに打ち砕かれた。八合目を過ぎた辺りからハイマツを思わせるダイヤンキャラボクが木道の脇をびっしりと覆い始めた。この辺りは、運よく晴天に恵まれたなら、行者谷の吸い込まれそうな深くて広い大所の渓谷と、幽遠を極めた大パノラマ、それに白波立つ日本海が望まれたに相違なかった。そう思うと、去年のあの雨の利尻岳山行が思い出され「やれやれあの時の二の舞か」とあきらめたつもりながらも非常に悔しくなってきた。

高茎式の濡れた木道の上を、下山者とすれ違いざまに転ばないようヒヤヒヤしながら進み、まもなくで山頂避難小屋のある広場に到着した。中を覗くと、気紛れな雨に誰もが小屋を目るか目まいか考えあぐねている素振りだった。あまりにも混み合い、坐るスペースもないようなのでそのまま山頂へと向かった。桟敷が設けられた頂きも予想以上にたくさんの登山者があふれ、さすがにこれなら自然崩壊でなくても山の瑞

境は変わってしまうだろうと少し悲しい思いにさせられた。お陰で関西地方直撃のアルペン同員は、悲観的なイメージを膨らませるだけだった。

一時止んでいた雨が、弁当を食べているとまた容赦なくザーザーときた。「何ていやな雨だろう、大山に相当嫌われているに相違ない」と思わずにはいられなかった。記念撮影もそこそこに、引っ張り出したものを大急ぎで片付けて小屋に退散した。少し待ったが、上がりそうもないので下山することにした。「登りはこんなにもきつい傾斜だったのか」と急坂道を四人はずぶ濡れの団子になって転がるようにして下った。

五合目からは、登りとは違う道をと、北屋根コースをとった。この道もまた、爪先が痛くなるくらいに斜面の落ち込みは相当なものだった。まもなく元谷の大坂渠に出た。緑の鮮やかな夏道周辺とはうって変わり、そこには北壁へと続く岩と砂の殺伐とした風景が展開していた。灰色によどんだ重たい雲集の下のあまりにも静かすぎる谷間だった。その沈黙の琴線に触れると、背味を行びた岩群がまるで一斉に崩れ落ちるかのような気配さえした。

ダイヤンキャラボクの上に架けられている大山山頂直下の木道

大神山神社奥宮の前を過ぎて、長い参道を通るとやがて賑やかな門前町に着いた。大山登山者ばかりでなく、大神山神社や大山寺の宝物文化財を見学しようとする観光客が大半で、一気に暗々しい空気に包み込まれた。

休憩を兼ねて、食堂へ入った。軽食にとそばを食べてみたが、麺の粘りやだしの味にしても徳島の秘境平家の落人の里に伝わる「祖谷そば」には到底かなうまいと思われた。

店を出て大山寺横を渡っていると、雨日の差す一瞬の晴れ間に、五合目ぐらいだろうか、樹林に覆われた稜線が姿を見せた。近いわりに随分高く見えた。しかしまたすぐに閉ざされてしまった。「今日は一日こんな曖昧な天気だろう」と皆もすっかりあきらめて「また秋にでも紅葉狩りにこよう」と互いを慰め合った。『登ってよし、眺めてよし』だったはずの『伯耆富士』山行はこのようにして幕を閉じた。

家を出る時には晴れていても、登山口に着いた途端天候が急変したり、逆に雨の中をわざわざ出てきて、山頂では見事晴天になったということがしばしばある。近頃『富士』と呼ばれる山へ行くたびに、このようなどんでんがえしをくらわされている感じだ。しかもほとんど悪い結果にである。しかし山はそれも面白いと思う。『雨の山歩きが素晴らしい』と、まだ味わいはきれないがほんのちょっぴり『濡れ鼠』もまんざらでないな」と思えるようにはなってきた。

わずか半日の大山であったが、また来ることを心に誓って今夜の宿泊地、蒜山高原へと車を走らせた。

（平成6年8月21日歩く）

△コースタイム▽

夏山登山道登山口（1時間5分）六合目避難小屋（1時間）山頂避難小屋（3分）弥山山頂（30分）元谷分岐（35分）大神山神社

△地形図▽5万＝大山

明文社＝「60大山・蒜山高原」

コラム

「ハイキング」考

上田　倖弘

この雑誌は「新ハイキング」である。「新」は別として、「ハイキング」という言葉が、いつから日本語として定着したのか。『外来語辞典』（林知宏著・東京堂出版）によると、「㊱hiking　㊱歩き遠足、徒歩旅行。（昭和6年9月4日大阪朝日新聞の記事からひろまった）」、㊱「」とある。㊱とは、昭和の戦前に定着したということである。

また、角川書店『外来語辞典』第二版によると、ハイクの項に「来 hike　ハイキングをする・ハイキング、「小さな旅ハイク誕生」『大朝』1931・9・4」とある。

そこで、大阪朝日新聞、昭和6年9月4日付を、マイクロフィルムで検してみた。4月付にはなくて、3日にあった（第一万七千八百九十四号から九月四日と間違ったか？）。その11頁の「秋の明粧」という続き記事の中の「第三篇」に、

「自然の懐に抱かれて／徒歩熱の勃興／小さな旅・ハイクの誕生」という見出しで、

散歩の秋、旅行の秋、蝟集が人道楽に替はつて空が桔梗色に澄み渡ると山謡も古代、業に映えてはがらかに呼びかける、自然を楽する徒歩主義者たちは秋の空に改めてリュックサックの紐を結び直す－大阪にもこのごろハイキングの名が呼ばれだした

▼　▲

東區細工谷現約聖学園長の古田誠一郎氏、玉出の山口季次郎、帝塚山聖院の吉本寺龍氏、高津中學の先生中村知氏、西區貝町堀紙屋の若主人今田忠兵衛氏などその草分けだ、二、三年前あたりからM運動具店やD百貨店の運動具部で「ハイク」の名稱を使ひだしたのもおそらくこれらの人たちの入知恵らしい、東京には大先達の佐野伯爵、京都には五條大納言樂和流の中野忠八氏などがある

▼　▲

ハイクとは散歩の延長で所定めず野や森をさまよふ小さな旅だ、ザンツにリュックリックの軽装、小さなハイクテントの一つも用意して途すがら自然をなつかしみ人を愛し、清い泉を得て月明の一夜をそのほとりに送るこゝろよさ、土曜日の午後からの週末ハイク、まる一日を限つた二十四時間ハイクなどその最も好ましいもので、疲れに疲れた都會人の耳にはいとも快適な言葉だ

▼　▲

「人でよし、二人でよし、数人でよし、男はもちろん、婦人も行く、少年も行く、老人も行く　大阪を中心としては六甲、金剛、吉野から鞍馬、比叡の山々、近くは武庫川堤の松林なども悪くはない、しかしまだ新らしいスポーツとして公然とハイクの名を冠したクラブも會も大阪にはない　－以下　略－

これで、昭和5年9月3日の記事のおよそは分かる。他の文献（『ことば昭和史・昭和世相流行語辞典』講談社文庫・昭文社）によると、ハイキングは「昭和10年頃、都市近郊を走る私鉄が乗客誘致のために用いた言葉で、親しいグループが休日などを利用して郊外を逍遥することが流行した」と昭和10年のページにある。

一

ところが、先日、夢を求めて、信貴山中を歩いていて思わぬものを発見した（写真①）。

「左／信貴山／奥之院／ハイキング／道」（傍点筆者）とある道しるべである。高さ105㎝、25・5×23・5㎝角　少々北東へ傾いているが、信貴山奥の院（楽邑山多聞院といい、「平群郡史」によると「境内の浄域から焼米が出ることで有名」とある）へ下って行く（字誌に立って・Y字路）

写真①

写真②

非公認の遊所を集めて遊郭が出来た。その松島の遊郭の主人でもあった（？）岩倉氏は仲々ハイカラさんであったようだ。何せ、明治32年にハイキングと刻ましているのだから……。

信貴山は「花柳界や実業家などに厚い信仰家が多い」（『大和路の年中行事』）。読売新聞・奈良版『大和風物誌・第三部「山とくらし」』（信貴山③④＝昭和36年12月21、22日）によると、

○…日華事変が突発した昭和十二年二月二十六日、大阪西撫花街（現大阪市南区宝石通町）の芸者総数六十余人が、ウメのほころぶ信貴山上に繰り出した。（中略）同寺玉蔵院、三井亮智師（当時三二）は感慨にふけりながら参道を歩いていると、顔なじみの信者、大阪西地鶴の家のおかみ、安藤トミさんが「きょうから泊めておくれやす」と緊張した表情で呼びかけた。

「ようこそお参り、何人です」

「何人かわからしまへん」

というが早いか、高級芸者の芸者衆がぞくぞくとつづき、山門はにわかになまめかしい空気につつまれた。西地花街の繁栄を支えてきた芸者たちは、封建的搾取制度の打破をめざして立ち上がったわけで、いわば紅灯のちまたに咲く〝夜の花〟の人権闘争であった。

（中略）

○…芸難の大、辛酸の日が訪れた。満城して九日目、三月六日である。信貴山寺野沢（芸妓）北川（戒場）田中（千手）各院山主、当時の富田府警察部長らのあっせんがあったわけだが「こうなっては新検番をつくる以外、方法はない」という主張が入れられて、新検番が許可された。（中略）こうして千余人の芸者のうち、三百余人が新検番に加入、南地の花街に新風を吹きこみ、株式組織による中間搾取を排除、相互組織として芸者－お茶屋－客の直接連携による経営の合理化が実現した。（後略）

このように〝夜の花〟の人権闘争の舞台になったことからしても、いかに信貴山と花柳界との関係が深かったかがしのばれよう。そして、朝護孫子寺（信貴山寺）へお参りして、さらに2㎞あまり奥の院まで足をのばした女性達は何を祈ったことであろう。その径は彼女らにとって、得難い自然に触れる徒歩旅行であり、ハイキングの名で呼ばれるにふさわしい道であったろう。

大菩薩登山口から丸川峠へ

大菩薩峠と大菩薩嶺

岩田　喜久子

甲州

以前から行ってみたいと思っていた大菩薩嶺を計画する。いつも一緒の植野女史と二人旅。交通、宿泊と予約準備する。大菩薩峠からの富士山の展望は素晴らしいと聞いていたのでお天気が一番気になる。

10月20日、仕事を終えて、23時10分京都駅発八王子行きの高速夜行バスに乗る。

21日5時30分、八王子着。雨だ。しかし空はほのかに明るいので、晴天を期待する。バス停からJR八王子駅まで徒歩10分、中央本線甲府行き6時56分発を待つ。駅舎に鳩が十数羽いたが、どうしたことか足指がほとんどまともでない。どうしてだろうと話し合う。

八王子から塩山まで一時間余、8時22分塩山駅着。晴天だ。塩山駅前から山梨交通バスの大菩薩峠登山口行きに乗る。しかしバスは2時間に一本で、次は9時25分発。約1時間あるので早くも暖房のある待ち合い室で持参のお弁当を広げる。バスは男性八人の登山者と我々二人を乗せて登山口9時55分着。甲州裏街道といわれる大菩薩峠に期待感が満ちてくる。

お寺に寄ってからと思ったが、見上げるばかりの200段ほどもありそうな階段で、最初からくたびれると困るのではと拝殿反応が起こり、帰りに寄ることにして登山口より「千蛾寺」の前の車道を登って行く。地図を見ると30分程緩い登りを行く。左手に地蔵のある地蔵峠で車道と別れ、右手の橋を渡る。アシクラ沢というらしい。「千石茶屋」は閉まっていた。ここから山道になる。

大菩薩峠にて

沢を左下に見ながら登る。急な登りが続く。一ケ所、二ケ所と展望の良い所を通り過ぎる。かなりきつい登りだ。目標は、上日川峠の「長兵衛山荘」。裂石からの車道の白いガードレールが上の方に見えるが、なかなか車道に出られない。ガードレールが見えたり、隠れたり。道は石が多くえぐれている。暗い樹林帯の中を喘ぎながら登る。途中二回程休む。

12時50分、やっとのことで車道に出られた。登山口から2時間かかった。「長兵衛山荘」で休憩する。何か買わねば悪いのでウーロン茶を一缶ずつ買って飲む。130円、20円は高所価格だろう。「長兵衛山荘」の左手の道を進み、車道からはずれて山道に入る。緩い登りの普通だ。間もなく地図の通り「福ちゃん荘」の前に出た。外で山荘の親父さんらしい人が里芋を洗っている。「こんにちは！」と挨拶して通る。車道はずっと続いている。マイクロバスから十人程女性ハイカーが降りて来た。

「あの人達、ここまでの2時間少々の登山を経験しなくてはもったいないね」と植野女史と話し合う。「福ちゃん荘」から車道を行くと大菩薩峠に早く着けるらしいが、私達は左手の山道に入り、「カラマツ尾根」ルートをたどることにした。

樹林帯の道はすぐ急登に変わった。しんどい、本当に急な登りだ。アップダウンがあるとすこしは楽なのだが、ひたすらの登りだ。少し展望のきく所で休み、パンを出してお昼がわりにする。このあたりは黄葉の多い雑木林のようだ。落ち葉が登山道を埋め尽くしている。標識が適当にあるので助かる。20分ほど登った所で下山してくる人に出会った。「草原はまだですか」と聞くと、「ここからは胸突き八丁で、石ころだらけの大変な登りになります。コースを変えたほうがよろしいですよ」と心配してくれたが、礼だけ言って又登る。植野女史と「なめとるな！」「京都のおばちゃんパワーを知らんな」と、しんどさをまぎらわすようにぼやきながら登る。本当に疲れた。やっとこさで草原に出た。

見上げると笹原がずっと続いている。遥か上に山稜が見える。「うわあ！」と言いながら登り出す。これが又しんどい。なまじ上まで見通せるため、登っても、登っても稜線が近づかない。踏み跡をたどって右に、左に、蛇登しても稜線はまだ上にある。しまいには稜線に着くまでは絶対に上は見まいと決心した。

やっとの思いで雷岩にたどり着く。「樹林帯の登りは高度が分からないけど、見通しのきく登りは精神衛生上悪いね」とぼやき合う。雷岩の上で写真を撮る。ここまでの間、カメラを手にする余裕がなかった。

15時、ガスが出てきた。雷岩から左に登ると大菩薩嶺、右に稜線をたどると大菩薩峠に出る。ガスもだいぶ出てきたし、時間から判断して、頂上は明日踏むことにして、右に峠への尾根を進む。

富士見初道の分岐・妙見の頭、ここまで来るとガスで下は全然見えない。少し心配になってくるが、視界が丁寧なので心強い。賽の河原に着いた時には、視界は四、五m くらいになっていた。ぼやっとした中に、小石があちらこちらと積み上げてある。実

界とはこんなのだろうかと思うと、背筋がぞくっとしてきた。衣服も髪も濡れている。山小屋までたどりつけるかいささか心配になってきた。少し登り、熊木知の頭を登りきった所に、「左　大菩薩峠」の道標と「大河ドラマ武田信玄タイトル撮影の地」の立て看板がある。ガスがなければここから峠が見え、「介山荘」も見えることになっている。左に回り込んで進むと左手に、未完の小説『大菩薩峠』の作者、中里介山の文学碑があった。なぜか涙が出てくる。道に迷わず来られた感激か、若い時読んだ小説や映画が思い出されたせいなのか。感動に浸っている場合ではない。そろそろ16時になる。早く「介山荘」を見つけなければ。

道は岩や石ころだらけ、岩を乗り越え、尾根道を進むと、人の話し声がする。すぐそばに近付くまで見えなかったが、五、六人が休んでいた。「こんにちは！」と声をかけ、ふと右を見ると小屋の屋根が見えた。何と「介山荘」に着いていたのだ。15時50分、熊野女史と顔を見合わせ、にっこりする。言葉は要らない、嬉しかった。

「介山荘」は100人位収容できそうな山小屋だ。現在の持ち主のお祖父さんが中里介山のために草庵を作ったそうだ。介山は「三界庵」と名付け、そこで『大菩薩峠』を執筆したそうだ。驚いたことに今夜の宿泊客は私達二人だけ。若いお兄さんが介山荘の法統を継ぎ、きびきびと世話してくれる。部屋に入るとすぐお湯の入ったポットと茶道具、石油ストーブを運んでくれた。

夕食はたっぷりのカレーと煮もの、雑炊がたくさん出た。建物は古いが頑丈そうでお掃除も行き届き、気持ちが良い。夕食後、広間で「大菩薩峠の四季」と題したビデオを見る。立松和平さんの「大菩薩紀行」もそのビデオに入っていた。ここの経営は家族だけで、宿泊人数によっては家族総出でお世話するそうだ。日の出の時刻の5時に目覚し時計をセットして、20時前に布団に入る。夜行バスと今日の疲れですぐ寝入ってしまった。

22日、早朝5時過ぎに起きる。寒い。着られるだけ着て、登山靴の紐をしっかり結ぶ。外はうす明るい。お天気のようだ。昨夕はガスで分からなかったが、峠から銀不知の頭まで見通しが良い。峠から見ると、西の空に富士山がもやの中から姿を出している。とうとう大菩薩からの富士山に会えた。雲海の上に雪を被ってどっしりとしていた。しかし寒い。尾踏みをしたり、動き回って日の出を待つ。東の空が海色に染まり始め、茜色の幅がだんだん広がってゆく。ぱっと朱色の豆粒が見えた。5時52分、日の出だ。カメラのシャッターをたて続けに切る。雲海の上すべての方向に茜色の線が飛び、太陽の豆粒が大きく膨らんできた。

山頂で日の出を見るのはこれで三度目。富士山頂の日の出も美しかった。雪の茅ケ岳で見た日の出も忘れられない。日の出の瞬間は本当に感激する。この感激があと何回味わえるだろうか。山稜を少し歩き回ってから宿へ帰る。

ストーブに火が入って、お茶が用意してあった。山荘のお兄さんも、今日の日の出はことのほか見事だったと、一緒に喜んでくれる。お天気が良いので、大菩薩でも一番富士山が美しく見える後方の山へ登るようにすすめてくれた。

朝食をたっぷりいただいて、後ろの熊沢山に登る。お兄さんの説明では、熊沢山から下った「石丸峠」道から富士が一番良く見えるとのこと。本当だ、富士山が真正面に見える。峠の尾根からでは、熊沢山が右手に迫り出していたが、ここからは遮るものもなく、雪を頂いて美しく、どっしりとした姿も良く、まさに日本人の山だ。山の

斜面に坐り込んでしばらく富士と対峙する。

介山荘に戻って熱いコーヒーを飲む。売店で少しお土産を買い、お世話になったお兄さんにお礼を言って9時10分、出発する。

富士見新道分岐の山稜は笹と石ころの道、西方にはいつも富士が姿を見せていてくれる。朝日の中では賽の河原も静かな小石の山だ。雲取から大菩薩嶺へ向かう。道が北側にあるため、樹林帯の中は霜柱がいっぱいで、歩くとざくざくと音がする。

9時55分大菩薩嶺（2057m）に着く。ピークの中央に三角点がある。まわりは樹林帯で展望はない。山頂で下山ルートを話し合う。カラマツ尾根を下るか、それとも北尾根ルートをとって丸川峠から裂石へ下ろうかと、地図と案内書を調べる。往路とは違う道を経験したいと意見が一致し、北尾根コースから下山することになった。

北尾根はさすが北面、落ち葉がいっぱいでひんやりと湿気た感じの山道だ。人手が入っていないらしく、木の切り株は全然見当たらない。朽ちて倒れた大きな木が何年もそのままになっているらしく、びっしりと苔が付いている。二人で鼻歌を歌いながら、「こんな下山道楽しいね」と歩く。それもつかの間、だんだん道が荒れてきて、石がごろごろ、大きな岩が道をふさぐ。

途中二回程水分補給の休憩をとり、丸川峠に着く。南に回り込んで来たようだ。下山道から急な坂の遥か下に丸川荘の緑の屋根が見える。丸川荘のある場所は谷底のような地形、向かい側の南斜面の樹木が華やかで、大菩薩に入って初めて見る秋の彩りのように思えた。丸川荘は避難小屋のようで、猟人の親父さんが山仕事の合間に木彫りの仏様を刻んでおられた。

裂石への道を確認して歩き出す。真正面に富士山が雄大な姿を現した。12時50分ミソギ川に出る。これで山道終了。川沿いの林道を20分程歩き13時15分、地蔵峠の車道に着く。

「裂石山雲峰寺」は武田信玄公縁のお寺で一風林火山の旗「信玄公の馬印旗」その他武田家の品々が寺宝となっている。

私達はいつもザックに朱印帳を持っているので、ここでも御朱印を戴く。帰りのバスも私達二人だけ、又貸し切りや、と笑い合う。

一つ一つ経験を積み重ね、楽しい山旅ができるようになったことに満足している。

「大菩薩嶺」は、関西から少し遠いが登る価値のある山だった。

美しき　富士に逢いたさ　喘ぎつつ
思いかなえし　大菩薩稜

熊笹の　道いし山稜　峠道
次の峰頂を　富士と語らう

峰に立ち　寒さに震え　日の出待つ
遥紅色の　遥かな雲海

天空を　茜に染めて　万物に
うるおい満たす　日輪いづる
（平成6年10月20夜～22日歩く）

△コースタイム▽

八王子駅（中央本線1時間20分）塩山駅（山梨交通バス30分）裂石（大菩薩登山口）（30分）千石茶屋（40分）第一展望台（15分）第二展望台（30分）上日川峠（15分）福ちゃん荘（カラマツ尾根分岐）（1時間）雷岩（40分）大菩薩峠（50分）大菩薩嶺（1時間）丸川峠（1時間30分）裂石

△地形図▽5万＝丹波

△宿泊▽介山荘　0428（74）7542
1泊2食付　6300円

錦繡の大峰山脈南部主稜線を歩く

行仙岳から笠捨山・地蔵岳・玉置山縦走

大峰

酒井賢治

北の吉野山から南の熊野まで直線距離にして約70キロ、延々と連なる近畿の背稜・大峰山脈……。その南部に端正な双耳峰で一際高く聳える笠捨山と険しい岩峰の地蔵岳が、あたかも独立峰のごとく一つの山塊を成している。

以前、「大台山の家」に宿泊したとき、誰もいない相部屋の窓から南西方向遠く、夕映えに輝く暮色の笠捨山を見て、私はなぜか感傷的な気持ちになり、それが夕闇に消えるまで見惚れていたことを思い出す。暮れゆく山を見て感傷的な気分になるのは私だけであろうか。

これらの山の主稜線は、「奥駈」と呼ばれ、大峰全山の縦走コースになっているが、全山縦走する人はごく少ないようだ。近年は山麓からの登山道や山小屋が整備されたこともあり、上葛川や浦向から直接これらの山に登る人が多くなったようだ。

一方、玉置山は太平洋が遠望できることから別名神見岳とも呼ばれ、頂上直下に古代崇神天皇の御代に創建されたといわれる玉置神社が鎮座する。1等三角点の名山だ。

10月下旬の週末、錦繡を求めて行仙岳に登り、笠捨山・地蔵岳を縦走。上葛川の民宿で一泊し、玉置山へ登り返して折立に下山、2日間の山旅を満喫し、リフレッシュした。

10月29日、今朝も息子の自動車の世話になり、6時30分自宅出発。国道169号線を南へ走る。釈迦ヶ岳への登山口でもある前鬼口から南は初めての道だ。池原貯水湖の巨大なダムを左に見て、上池原から425号線に入り浦向に出る。村の雑貨店で買物をして、右へ下北山村と十津川村を結ぶ奥地川に沿った山越えの425号線を走る。進むにつれて高度が上がり、前面に行仙岳から倶利迦羅岳にかけての山稜が、随所に白い露岩を刺き出しにしてそそり立っている。さらにヘアピンカーブで高度を上げ、10時過ぎに白谷隧道東山口手前の行仙岳登山口に着いた。ここで標高は約850㍍、東側に大台山系の雄大な展望が広がっていた。息子と写真を撮り、自動車を見送る。車はみるみる小さくなって谷沿いの道を下っていった。

吞精山から見た笠捨山南面

NTTの無線鉄塔巡視路の鉄の階段を上がって行仙岳への山道に取りつく。この道は随所にアルミ製の柵子が付けられ、とても登りやすかった。右に小さな物置小屋を二つ見て、樹林を抜けると明るく開けた支稜の尾根道となり、右側近くに風利迦羅岳から転法輪岳にかけて、樹林におおわれた山稜が悠然としたカーブを描いていた。さらに巌岩混じりの道を登って奥駈道に出合い、分岐を右へ一登りして11時過ぎに行仙岳（1237㍍）山頂に着いた。

行仙岳・笠捨山・地蔵岳・玉置山付近略図

雑木が邪魔して展望は思うにまかせない。西側直下のNTT無線鉄塔の立つ台地に下ると、北西方向に芦廼瀬川の深い大きな谷を隔てて十八人山方面の山々、南に美しい双耳峰の笠捨山と、その右の稜線上に地蔵岳が望めた。

11時20分、行仙岳出発。分岐に戻り、佐田辻への奥駈道を下る。尾根西側の樹林を巻き、鹿よけ網の張られた道を沙るやかに下り、15分程で行仙宿山小屋の建つ佐田辻に着く。小屋前で浦向から佐田辻への登山道が出合っている。「新宮山びこグループ」の男性二人が小屋の土間の手入れをされていたので雑談をする。

佐田辻から奥駈道は真っ直ぐ南へ延びるが、途中で道標に従い、左へ笠捨山への尾根道に入る。直進して笠捨山の山腹を巻く葛川辻への旧道は、現在廃道になっているようだ。少しで送電鉄塔の立つピークを通過するが、ここからも右に中八人山方面の雄大な展望が広がっていた。下って樹林帯の鞍部を過ぎ、登り返して進むと、神の大木の前に大峰八大金剛童子の石碑が祭られている。木に沢山の碑伝（山伏が峰入り修行を終えたしるしとして携行路の宿・行場などに建てる墓標……『広辞苑』）が打ちつけてあり、辺りはいかにも修験道らしくなる。二、三の雑木のピークを上下してしだいに高度を上げると、紅葉し始めた美しいブナ林を横に見て、露岩のある1246㍍の頂に着く。岩角に南無八大童子の石碑が祭られていた。前面に笠捨山が大きく立ちはだかり、東方遠く大台山系の山々が幾重にも山並みを重ねていた。足元は岩壁がスッパリと切れ落

ち、四の川義明の山と谷が複雑な地形で広がっていた。

小休後、左の四の川側の断崖に注意しながら鞍部に下り、いよいよ笠捨山北面の急斜面に取りつく。自然林の山肌に幅広い道がつけられ、あちこちに熊の爪がころがっていた。やがて東西に延びる笠捨山稜に登り、左へ踏み跡を辿って12時50分、東峰山頂に着く。反射板鉄塔の立つこの山頂は鉄塔工事のためか広く開けた平頂で、南と北に展望が広がる。南には緑い山稜の玉置山を近くに望み、その後ろに熊野の山々が薄青い山並みを重ねている。北は大峰主稜線上の山が縦に続き、東方にかけて台高や大台山系の山々を遠望する。釈迦ケ岳は笠状の雲で頭を隠していた。私一人の長閑な山頂で昼食をとる。

13時半東峰出発。先程登りついた分岐を直進し、わずかで西峰へ登る。2等三角点が埋設された狭い笠捨山（1352m）の頂上は、囲りに潅木が茂り、展望はいまひとつで、三角点に手を触れ、そのまますぐ西面の急坂を下った。左右の色づき始めた落葉樹が青空に映えていた。薄暗い植林帯に入るとすぐ高川辻の鞍部に下り、左へ上高川への道を岐けるが、直進して地蔵岳への廃駐道を登り返す。植林や潅林帯を登り、小さなコブを巻くと近りが明るくなり、切り開かれた送電鉄塔の立つ鞍部に着く。北に証誠殿堂から行仙岳、さらに今日歩いてきた笠捨山への稜線が間近に見える。頭の上は雲一つない快晴だが、遠か彼方の釈迦ケ岳は相変わらず頂上部が雲でおおわれている。今月、岳友のM氏とK氏は「毎日登山の会」で弥山に登っているはずだが、はたして天候はどうであろうか。

ここから地蔵岳へは、岩場の混じる急峻なヤセ尾根の登りで、露出や木の根、鎖を掴んで登る。途中で岩峰を巻き、さらに険しい岩稜を攀じ登る。けっこうスリルのある岩登りを楽しんで、14時過ぎに地蔵岳（1256m）の頂上に立つ。樹木に囲まれた岩峰の頂上は、大きな展望こそないが、近くに灰色の岩壁を配した支尾根が眼間より望まれて印象的であった。頂上から南へ曲り込むように下ると、岩陰に小さな石地蔵が、玉置山を望むように祭られていた。

石地蔵の前から鎖や梯子を伝って岩場をこなし、石楠花の茂るヤセ尾根を慎重に下る。難所から降般され、後ろを振り返ると樹林に岩肌を覗かせた地蔵岳が青空にそそり立っていた。

玉置山より熊野の山々と遠く太平洋を望む

縦走路はさらに西に向かって続き、緩やかに登って森の中の四阿宰跡に着いた。先程の地蔵岳とは対照的な森閑とした植林の中で、10分程休息して南へ尾根を下る。大日如来が祭られた菊ガ池付近は雰囲気漂う陰気な所で、某ガイド誌によると、この辺りは熊が出没するということだったので足早に通過した。小さなコブを越え、高川側に張り出た小尾根を巻いて下ると、鞍部に送電鉄塔が立ち、巡視路が交叉している。直進して明るく開けた香精山への登りにかかると再び素晴らしい展望が広がった。東には西日を浴びた山肌に紅葉の映える笠捨山が聳え、左へ地蔵岳や東屋岳の稜線が連なる。そして北方遠くに望える中八人山、石仏山など大峰支稜の山々の展望に思わず地図を広げて立ちつくした。

香精山を越え、なおも植林の奥駐道を南へ縦走する。時々右側に展望が開け、十津川方面の山々が霞んで見えた。緩やかに下ってゆくと釜市で右へ尾根西側を巻き、日吹野へ下る道を岐けるが、私は展望のよい尾根道を縦走する。秋の日はすでに高川の谷を日陰にしているが、向かい側の笠捨山から蛇崩山に至る大きな尾根は、西日を受け照り映えていた。

尾根端から右へ潅林帯の急坂をぐんぐん下り、山肌に大岩張りつく貝吹野に着くと右から先程の巻き道が出合う。さらに植林帯を下り、16時過ぎに薄暗い植林中の貝吹金剛（孫の谷峠）に着いた。玉置山への奥駐縦走路が直進するが、私は左へ上高川への塔の谷に沿った植林中の道を下る。もう日の届かない道を40分程下って、民家の横を通り抜け、上高川の車道にとび出る。左へ高川の渓谷に沿った車道を歩き、17時過ぎ、今夜の宿、民宿「うらしま」に着いた。

バス・トイレ付きの離れ棟の静かな部屋。夕食はアマゴの甘露煮や山菜づくしで一泊6000円は安かった。河内長野市の五人グループが同宿、マイカー登山で明日は笠捨山と地蔵岳に登るとのことだった。寝るのはやはりテントより畳の上がよい。朝まで熟睡した。

翌朝5時30分、弁当持参で民宿を出る。バス停上高川口より右へ425号線に通じる車道をゆき、高川隧道の手前右側の導標に従い奥駐道への山道に取りつく。登るにつれて潅林には濃い霧が漂い、幻想的な雰囲気に包まれる。30分程で奥駐道・沿の口分岐に着く。朝の光が霧に遮られ黄金色に染まって見えた。左へ緩斜を緩やかに登る。

石地蔵を祭る小川分岐、たくさんのTVアンテナの立つ稚児の森を過ぎると下りとなり、少しで小川から玉置山に通じる幅広い林道に出た。辺り一面はまだ薄い霧に包まれていた。林道を進み高度を上げてゆくと霧は徐々に薄くなり、横峰分岐から西へ張り出す尾根に曲り込むころには完全に解消し、北方に大展望が広がった。

芦廻瀬川一帯の谷は限なく雲海に埋めつくされ、その向こうに中八人山や石仏山の山塊が淡紫色に浮き上がっていた。まるでアルプス級のような景観だった。

林道を西へ大きく迂回し、尾根を巻いて元の主稜線下に戻り、南進して高度を上げる。今度は中の俣谷から十津川の谷が雲海に閉ざされ、山が島のようにあちこちに浮かんでいた。林道から奥駈道への入り口で朝食をとる。熱いみそ汁をつくり、民宿のおにぎりをパクついた。

小笹と樹林の気持ちの良い緩やかな道を登り、導標に従い林道支線を横断し、少し登って8時20分、花折塚に着いた。

樹間の小広い平坦地で、南北朝時代、南朝の武士で北条氏打倒の挙兵の折に病死した日野八郎の大碑が立っている。ここから右に折立への道が下っているが、樹間の道を直進すると再び明るく開けた林道に出た。林道開発により旧奥駈道が所どころで寸断されるのは何とも惜しいかぎりだ。前回を樹林におおわれた玉置山頂上部を初めて見る。西方に行仙岳（大峰の行仙岳とは別）など十津川の山々、さらに奥高野や果無山脈の山々を展望する。そして薄くなった雲海の下に十津川の蛇行が見えた。立派な案内板の立つ横から林道を離れ、頂上への最後の登り・餓坂に入る。ブナ林の中のクマ笹をかきわけ、15分程登ると広い地道に出て、パラボラアンテナの横を通り、9時前に芝生におおわれた丘状の玉置山（1076.6m）の山頂に着いた。

東南方向にワイドな展望が広がり、幾重にも重なる熊野の山々の向こうに太平洋が鉛色に輝いていた。私だけの山頂で、芝生に寝っころがって青い空を仰ぎ、至福のひとときを過ごした。

9時半頂上を出発し、樹齢千年とも言われる杉の大木を見ながら、静寂の玉置神社に立ち寄り、駐車場への樹間の参道を歩く。マイカーによる参拝者と出会う。駐車場の展望所からは2年半前に登った果無山脈東部の山々が間近に望めた。公衆トイレの裏から、よく踏まれた旧参道を下る。樹間のとても歩きやすい道だった。車道を横断し、階段を登り返してすぐの分岐で右折立への道へ入り、植林帯を滑光形にぐんぐん下る。植林を抜け出ると眼下に十津川に沿って点在する折立の集落が俯瞰できた。谷を隔てて見える花折塚から折立に下る大きな尾根は、緑色の植林帯と紅葉の自然林を明瞭に色分けしていた。

車道に出て下り、八大龍王社を祭る渓谷で汗をふき、簡単な昼食をとり、11時50分に折立のバス停につく。バス発時刻まで20分余、河原に降りてしばし渓流と戯れた。

（平成6年10月29日～30日歩く）

△コースタイム▽

〈1日目〉行仙岳登山口（50分）行仙岳（1時間30分）笠捨山東峰（50分）地蔵岳（30分）四阿宿跡（40分）香精山（40分）貝吹金剛（40分）上葛川（泊）

〈2日目〉上葛川（50分）奥駈道岩の口（1時間30分）花折塚（50分）玉置山（2時間30分）折立

△地形図▽昭文社『56大峰山脈』

中高年・女性のための山旅

日帰りから本格的な縦走コースまで、全コース経験豊富なツアーリーダーが同行します。
お一人でもお気軽にご参加下さい。

★他にもたくさんコースあります。資料をご請求下さい。
★現地集合・解散もできます。ご相談下さい。

羅臼岳と斜里岳と雌阿寒岳

道東の日本百名山三座めぐりのコースです。知床連峰最高峰の羅臼岳、連続する小峰の残雪が春さき忘れがたくなる美人山の斜里岳、阿寒湖を挟んで、雄阿寒岳と対峙する活火山の雌阿寒岳。どの山頂からも、すばらしい展望が自慢です。また、紅葉登山とは違う秋色の美しさが見事です。

（期 日）9月22日(木)～25日(月)（3泊4日）
（代 金）大阪・名古屋 145,000円 東京 138,000円

屋久島宮之浦岳と縄文杉

大和盆地最高峰の国見は眺望が抜群。花と江河など大自然の魅力が溢れる山です。また日本一7200年と言われる縄文杉の大木はもと言葉の迫力に圧倒される思いです。

（期 日）①9月14日(木)～17日(日)（3泊4日）
②11月2日(木)～5日(日)
（代 金）大阪・名古屋 139,000円 東京 129,000円
①は9,000円増し

奥穂高岳と涸沢カール

奥穂高岳は槍穂連峰の中心で、雄大な容姿と展望の良さは第1級です。また涸沢カールの紅葉の美麗さしさは一度の価値があります。

（期 日）9月28日(水)～10月1日(日)（3泊4日）
（代 金）大阪 52,000円 東京 49,000円
名古屋 46,000円

黒部峡谷「下の廊下」

黒部川下ノ廊下は日本の代表的な峡谷で、切り立った絶壁が谷底のように続き、幽玄的な雰囲気を醸している。ボトンネル式に切り抜いた狭い歩道をスリルと迫力を楽しみながら谷の紅葉の美しさを味わって、思い出深い山旅となります。

（期 日）①10月8日(土)～10日(火)（2泊3日）
②10月13日(木)～15日(日)
（代 金）大阪 57,000円 東京 69,000円
①は2,000円増し

安達太良山・盤梯山・吾妻山4日間
10/7～10 大阪 113,000円 東京 92,000円

岩木山と白神岳と藤里駒ヶ岳4日間
10/12～15 大阪 114,000円 東京 93,000円

尾瀬・至仏山と燧ヶ岳4日間
10/7～10 大阪 84,000円 東京 84,000円

谷川岳と武尊山3日間
10/8～10 大阪 77,000円 東京 59,000円

皇海山と日光白根山と男体山4日間
10/12～15 大阪 71,000円 東京 58,000円

立山三山縦走3日間
9/22～24 大阪 88,000円 東京 72,000円

奥穂高岳から前穂高岳へ縦走4日間
9/7～10 大阪 56,000円 東京 54,000円

大杉谷と大台ヶ原3日間
11/3～5 大阪 67,000円 東京 72,000円

石鎚山から瓶が森縦走3日間
10/13～15 大阪 88,000円 名古屋 80,000円 東京 75,000円

伯耆大山と蒜山三座縦走3日間
10/27～29 大阪 54,000円 東京 73,000円

阿蘇高岳と祖母山・傾山3日間
10/20～22 大阪 72,000円 東京 78,000円 名古屋 74,000円

アミューズトラベル株式会社
〒541 大阪市中央区本町4-1-3 本町三井ビル2号館9F
お問い合わせ フリーダイヤル 0120-802514（オマニスイ）
FAX 06-265-3306
福岡 ☎092-414-5566 大阪 ☎06-265-3303

野の花讃歌（11）

市川　正次朗

農家の庭先で

コスモス

「あなたの一番思い出に残る花は？」人それぞれ、思いさまざま。学舎を去る日の校庭に見事に咲いていたその花、ある人に秘かに思いを寄せていた頃に見た道端のスミレ、大切な人を訪ねた折の病室のバラの花などなど、けっこう思い出の花はあるものです。

そんな花たちの中で、誰にも何がしかの思い出があり、嫌いという人がめったにいない花がコスモス。明治時代に中南米から渡来したそうですが、秋風の吹く頃、か細い枝先に赤やピンク、白色の花の揺れる様は、いかにも日本の風土にぴったりという感じ。時には甘酸っぱい郷愁さえ覚えるのです。

そんな私ですから、コスモスを訪ねてあちこち出かけました。コスモス寺として有名なのは奈良の般若寺。ご住職の丹精で9月下旬になると境内は一面のコスモス、たくさんの石仏や重文の十三重石塔、古びた伽藍と非常によく似合っています。

休耕田などを利用してコスモスを植える農家も増えました。近くでは京都の静原、能勢の山間部、そして最近では柳生の里にびっくりするほど広大なコスモス畑ができました。まさにコスモスの海、色とりどりの大輪の花が波のようにうねっています。

それはそれできれいだけれど、どうも私の心にぴったりきません。たとえ数輪でも、農家の庭先に咲くコスモスを好みます。茅葺き屋根、秋空に鰯雲が浮かんでいれば、もう何もいうことはありません。

人に迷惑をかけたくない

トリカブト

昨年の夏は猛暑を通り越して酷暑、おまけに西日本では深刻な水不足で大変でした。9月に入っても真夏日が続き、もううんざりして、ひと足早い秋の気配を探しに鈴鹿・霊仙山へ出かけました。新ハイ誌で紹介の上丹生～山頂～樽ケ畑～醒ケ井のメインルート。

この山、その年2月の大寒波到来の時、中高年グループの遭難事故で一躍有名に。マスコミで連日報道され、霊仙を「れいせん」でなく「りょうぜん」と読む知識や、たとえ近場の1000㍍そこそこの山でも侮ってはいけない、まして怖さを知らない"とにかく山が好き"な中高年に数々の教訓を与えてくれた功績は大なるものでありました。

そんな厳しい冬のイメージとは大違い、谷筋にはツリフネソウ、キンミズヒキ、ゲンノショウコなどが咲き、谷をつめて尾根に出ると青紫色のトリカブトの群落が、アキノキリンソウの黄色、トラノオの白色に彩られて、それはそれはきれいでした。

トリカブトといえば、やはりマスコミを賑わせた事件で一躍有名に。高山の登山道で私たちの目を楽しませてくれる独特の風貌を持つ花なのですが、悪者のイメージが定着してかわいそうです。

下り道の山小屋で小鳥。そこにたまたまおられた地元の人たち、冬の遭難事故で救助活動をされたのですが、向こう見ずな中高年の登山、無事下山したあと、ひとことの挨拶もないという苦言に、他人ごとながら身の縮む思いで頭を下げていました。

京都北山　やぶ漕ぎ痛快山行記（22）

北山の峠四つと桟敷岳

狼峠・石仏峠・祖父谷峠・ナベクロ峠を巡る

京都北山グループ

今年の天候は異常だ。四国・九州ではダムの水が底をつき、給水制限の始末。伊丹市では一晩の集中豪雨で大阪空港の地下電気室が水没し、管制塔をはじめ空港施設が使用不能の始末。関西国際空港が9月4日に開港していたので、なんとかなったが……。それにしても北山や琵琶湖にも雨がほしい。今、琵琶湖の水位はマイナス1.22㍍とか。

今日の例会は少し降ってくれそうな天気予報。全天候対応装備で集合地の北大路烏丸総資銀行前に集合する。リーダーTさんらの四台の車に参加者16名が分乗し、賀茂川源頭の雲ケ畑岩屋峠への府道を走る。京都バスの便も岩屋橋まであるが、バス終点から車調なお祖父谷林道を4㌔、約1時間の歩程を省くためマイカー山行とした。

オウメ谷分岐の先、桟敷岳への関電巡視路入り口手前に車を駐め、出発する。昨夜半降ったのか、笹や木々がしっぽり濡れ、山口の気温もひと頃からくらべると峠を越したようで、秋を感じさせてくれる涼風がほほをなでる。祖父谷林道は昨年から石仏峠下の方にまで工事で延びている。錆びた鉄柵柱を通り抜け、右岸沿いに地道林道を進む。天空の桟敷へ延びる送電線を見送ると、右側の杉の巨木下に広場がある。

ここが狼峠への分岐になっている。岩肌びで対岸へ渡り、この広場で小休止する。

桟敷尾根関電鉄塔下のピークにて

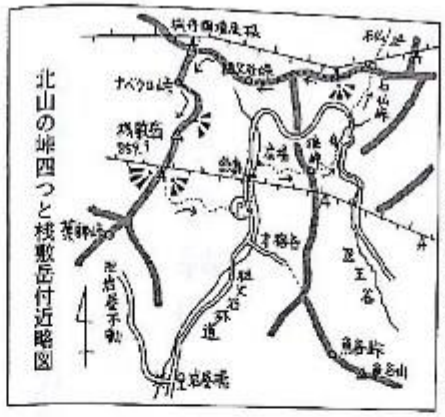
広場の隅に湧水が湧き、美味しい銘水を水筒に入れる。

一番目の峠・狼峠へは杉植林下のジグザグ山道の登り、15分あまりで笹の茂る峠（標高737㍍）に着く。道標があり、右の尾根道は魚谷峠を示している。

峠から下る道に分岐あり、左へのトラバース道をとる。医王谷へ下り、古い作業小屋の前にでる。小屋の右上に猟長工事された

先程の祖父谷林道が、P840㍍の下を迂回してこの谷主谷まで延びている。林道に上がり、林道を進むと、右側二つ目の谷が石仏峠への取りつきで、ガンの端にテープがある。杉植林下の道は下生えもなく、20分程で、稜線鞍部の二番目の峠・石仏峠（標高855㍍）に登り着く。

城丹尾根の北側には京北町丹波高原の山並みが広がる。峠から200㍍程北側に下った所の、右斜面杉巨木下に二体の石地蔵さんがあり、お参りする人がいるのか、シキミが供えられ、お賽銭が散らばっていた。



北山の峠四つと桟敷岳付近略図

この谷筋を下ると、イモジ谷下流で林道となり、やがて井戸祖父谷林道と合して京北町井戸へ出るが、我々は元の峠まで戻り、峠から尾根を西へ進む。イモジ谷源頭部はカール状でカエデ・リョウブ・ミズナラ・クリなど広葉樹の二次林が美しい。

関電の鉄塔巡視路も兼ねているだけあってよく手入れされ、尾根歩きを楽しませてくれる。道左の鉄塔広場は小休止場所によい。南側は比叡山塊から魚谷山が見え、その右側には釜西の山々が眺められ、まさに北山歩きの醍醐味を味わう。

眼下の広葉樹海に背景く杉巨木の梢が見えだすと急な下りで三番目の峠・祖父谷峠（標高762㍍）の鞍部に下り着く。道端に樹齢二百年以上の杉巨木が四本あり、静かな峠を支えてくれている。五本あったうち一本落雷で枯れたとのこと。

ここから桟敷岳への稜走路は、少し京都側（祖父谷側）に入り、右の雑木林下の笹の道を登り進む。この登りも関電巡視路を兼ねているので、次の鉄塔広場まではひとりでに進んでくれる。鉄塔下は10㍍四方の草付き広場になっている。北側大堰川を隔てて丹波から続く若狭の山々までが遠望できる八体止場所だ。

白馬から花だより

9～10月を歩く（ミニ山行）

秋の風吹大池、白馬大池、雨飾山、金山、火打山、白馬岳等から低山まで脚力に合わせて御案内します。

お問い合せ　長野県北安曇郡白馬村おちくら北源まで（テントキーパー）
TEL・FAX 0261-72-2151

広場から西へ雑木林の間に尾根道が延びるが、これは城丹国境縦走路。今日は桟敷岳へのコースをとる。最後の四番目の峠・ナベクロ峠へは、左の背丈程のササ藪道に突入する。踏み跡は笹の下に判然とあり、両側に雑木が出てきて尾根道にのり、モミの巨木が立つナベクロ峠（標高855㍍）の鞍部に着く。視界は望めないが京都北山では一番標高の高い所に位置する峠だ。これで北山四つの峠は終わり。

右の暗い植林下の道は長谷を下る大滝への道、我々は左の尾根道を進む。S字状の

下り尾根は迷いやすい。テープを見逃さないように、左側ナベクロ谷と離れずに進む。ナベクロ谷源頭の杉植林を抜けると、祖父谷筋乱伐採直後の明るい尾根にでた。石仏峠のP840㍍から狼峠へと今朝から歩いたU字形のコースが望め、魚谷尾根を隔てて遠くかすむ比叡山系が広がる好展望地だ。

小休止後雑木林の尾根道に入り南進、前方が小高くなり、背丈程のクマ笹が現れると桟敷岳（895・9㍍）の頂上、2等三角点標石の立つ広場に着く。東、北面の展望は先程の伐採直後の尾根で見た山並みと変わらない。山頂は灌木も疎ら、無風状態で暑苦しい。展望もよく、頂の通る送電鉄塔広場までお昼は辛抱、と足を延ばすことにする。10分程の笹道下りで送電鉄塔広場の鞍部に着く。

ここは西側・東側ともに好展望。また大森側から吹き上げてくる風は天然クーラー、食事をとりながら「あれは愛宕山・地蔵山・三つ頭。近くに東俣山・天童山・熊森山や」と展望を楽しむ。午後のコースはここから左の巡視路を車の駐車地まで50分降りるだけなので、展望もできるほどの大休止をとる。

西方の雲行きがあやしくなってきたので下山にかかる。鉄塔からすぐ左の笹の切り開き道が祖父谷林道へ下るコース、急勾配の所は丸太で階段状に手入れされ、道も以前より良くなっていてありがたい。中間付近に清水の湧く水場があり、小休止をとった後、イッキ急降りで杉植林帯に入ると祖父谷川の水音が聞こえる。ポンと林道の車の前に飛び出た。時間はまだ15時前、今日の山歩きは早く終わった。やはり四台のマイカー山行のお陰、出発点の北大路烏丸の盛賀銀行前まで乗せていただく。16時過ぎには帰宅できた。

（平成6年9月11日歩く）

◇コースタイム◇

地下鉄北大路駅（マイカー40分）祖父谷林道舗装終点（30分）狼峠（1時間）石仏峠（30分）祖父谷峠（20分）城丹尾根鉄塔広場（10分）ナベクロ峠（40分）桟敷岳（15分）鉄塔鞍部広場（50分）祖父谷林道舗装終点

乗出町柳駅から京都バスで終点の岩屋橋で下車し、林道を歩く場合は往復2時間程加算すること。地下鉄北大路駅からタクシー利用が賢明。

◇地形図◇昭文社『47京都北山』

（記録　出口　寛次）

（この花・この草）

ヒガンバナ（Lycoris radiata）

ヒガンバナ科

秋の彼岸の頃に花が開くことからこの名が付きました。また、「（花が）先ず咲く」→「マンズリク」→「マンジュシャゲ」の名が起こったとも言われ、これの別名はなんとその数、九百以上とか。

中国原産で古くからの帰化植物ですが、順応性が高く、道端等に群生しています。

この鱗茎を秋に掘り洗浄したものの生または陰干しを生薬では石蒜といいます。全草に有効成分のリコリンというアルカロイドを含みますが、強い毒性を持っています。薬用としては、去痰・利尿・解毒・催吐作用がある一方、多量に摂取すると吐き気・下痢、更に進むと中枢神経の麻痺を起こして死に至ります。

民間薬としては、生の鱗茎をすり潰し、腫れ物・乳腺炎の初期に古くから外用していますが、かぶれを起こすこともあり、あまりお勧めは出来ません。

また地上部が枯死にとてもよく似ていますので、しばしば事故の原因になります。昔から家中に入れると火事が起こると言いますが、これはむやみに触れるなという戒めなのかもしれません。

エリア別徹底研究

近江側から登る鈴鹿の山々

――鈴鹿の思い出・おもしろ話――（4）

岩野　明

⑭ 鹿・清水ノ頭の思い出

平成4年1月、初めて清水ケ平谷林道から雨乞岳に登った。その時、清水ノ頭の南の草原で、三頭の鹿に出会った。その後も2月・3月・5月・9月と登ったが、3月には六頭に増えていた。広々とした緩やかな草原の東側が鹿の棚まり場になっていた。草原のけもの道をゆっくり歩いていると、ピューと鋭い声がして一団となった鹿が目の前の稜線をドドドドドッと横切り、西の谷に下って行った。下から見上げていると、空を跳んでいるようですごい迫力だ。平成5年の冬は東雲乞岳に移動していた。

7月、梅雨の時期に登ると、清水ノ頭に一頭いた。そして緩い下りにかかると、広い笹原の藪部に、鹿が集まっていた。全部で七頭、寝そべっている鹿もいる。雌ばかりだ。背を低くして笹の中を静かに近づく。ザックを置いて頭が出ないように腰溜いになって進む。鹿はまだ気づかない。約30㍍手前で頭を出し、カメラをとり出していると、匂づかれたらしく、すぐ近くでピューと鋭い声がしてあっと言う間に両斜面に跳びおりて行った。藪部に下ると笹の陰にまだ二頭いたが、これもすぐ逃げた。中央が湿地で池になっている。梅雨の季節にはこの池の回りに鹿が集まっているようだ。

高い山はガスに覆われていて、稜線には無数のトンボが乱舞していた。野洲川の流域から上昇気流に乗って、ガスと一緒に羽化したばかりのトンボの大群がゆっくりと上がってくる。次から次へとすごい数だ。稜線を越え、ガスに覆われた雨乞岳の山頂に向かって消えてゆく。高い山で夏を過ごし、秋には里に下ってくるアキアカネだ。

9月に夏草の茂る笹原に登ると、ススキは穂の出る前の膨らんだ部分を、ほとんど鹿に食べられていた。藪はなく、けもの道を辿るとススキの根に群生するナンバンギセルが咲き乱れていた。

平成6年度は奥ノ畑谷流気を何回も歩いた。この谷では、雄鹿に何回も出会った。餌が豊富で安全な場所に雌と小鹿が棲み、雄はその周りの谷にいるようだ。

⑮ 猪狩り・冬の御池岳

冬の鈴鹿に入るとよく猟師に出会う。現在は無線で連絡をとりながらの猟だから動物達も大変だ。

平成5年の冬、大君ケ畑の奥に車を駐めて、雪の306号線を歩いていると、ライトバンと軽トラックに犬を四、五匹乗せた車が追い越して行った。嫩の後をついて行くと、鞍掛橋の手前の右斜面で犬がしきりに吠えている。猪を追っているようだ。鞍掛橋では地元の猟師が無線機を片手に、山に入った仲間と連絡をとっていた。私も追いたてられているようで、急いで御射谷の林道を登り、鞍掛尾根に登ってやっと落ち着けた。尾根の雪原を登っていると、右下の谷で銃声がした。鈴北岳には誰も登っていない。日本庭園に下って樹氷の中をストレートに丸山に登った。

丸山は人でいっぱい、中には「もしもしこちら御池岳丸山の山頂です。樹氷の花に囲まれて食事中です。どうぞ」と、無線の仲間と無線で交信している人もいた。

ボタンブチに下ると、ここには誰もいない。ゆっくり昼食をとっていると、若者二人が上の尾根を奥ノ平に向かって行く。そして奥ノ平から急斜面をストレートにボタンブチに下ってきたが、途中でザックを放り投げて又登って行き、斜面を滑って遊びだした。丸山からも14～15名が一列になってボタンブチに下ってきて、急ににぎやかになり、話がはずんだ。全員三重県側からの登山者だった。

鞍掛尾根から下る山腹には、到る所に犬と猪の足跡があった。林道に降りると、猪がすきすった跡が続き、鮮血が純白の雪の上に花びらのように点々とどこまでも続いていた。

鞍掛橋に着くと、猟が終わり、仕留めた猪をちょうど車に積み込むところだった。一頭はかなり大きく親のようだ。聞くと、他に3年もの一頭、2年もの三頭、計五頭仕留めたということだった。そして大きな一頭を追い込んだが、鞍掛尾根に逃がしてしまったが、出会わなかったかと尋ねられた。危なかった、もう少し早かったら猟の真っ只中を下るところだった。

⑯ カモシカ

鈴鹿山系を歩いていると、カモシカによく出会う。佐目小谷から銚子ケ口に登る際は、小峠周辺で何回も出会った。そのうち顔馴染みになり又来たなという感じで、ゆっくりと逃さかっていった。

水舟ノ池の下のガン場でもよく見かけた。稜線をイブネ方向に辿ると右のガレ場、約5㍍先の岩の上にカモシカがいた。キョトンとして逃げない。ザックを下ろし、カメラを出していると、斜めに移動して20㍍先の岩場でこちらの様子をうかがっていたので、何とか写真に撮ることができた。真ノ谷から河倉峠に向かう道でカモシカに出会うと、斜めに登り岩の上から見下ろしている。近づくが逃げない。その下8㍍の所を通り過ぎたがいつまでも見つめられていた。

三池岳の稜線では、左斜面からカモシカが登ってきて目の前に現れた。出会い頭だったので驚いていると、こんな所にどうして人が居るのかという目で私を見ていたが、向きを変えドドドドドッと下っていった。

そして今年、野洲川ダムの横の道路脇にカモシカが出ていた。車でゆっくり近づいても逃げない。カメラは後のトランクの中だ。すぐ横をゆっくり進み、約70㍍先で車を停め、カメラを出してUターンして近づくと、ゆっくり斜面を登りだした。そして約10㍍先で向きを変えこちらを見ている。うまく写真を撮ることができた。

一人で歩いているといろいろな動物たちに出会うが、他の動物はすぐ逃げてしまう。しかしカモシカは好奇心が強いのかワンテンポ逃げ足が遅い。逃げていてもある程度の距離になると止まり、こちらの様子をうかがう習性があるらしい。そのためか一時急速に数が減り、保護されるようになったようだ。

エリア別徹底研究

近江側から登る鈴鹿の山々 ⑰

藤原岳新ルートを行く

近江側から藤原岳へは、奥深くて登る人はあまりいない。以前は君ケ畑の奥、小又谷林道からノタノ坂を越え、茨川を基点に治田峠・蛇谷・西尾根のコースを登っていた。茶屋川の林道が延びるとともに、頭陀ケ平に鉄塔が立ち、十倉尾根に延びて、尾根上に踏跡ができ、多くの人が動いていた。この時期、御池岳南端に登ったが、その時に真ノ谷から鉄塔に登る巡視路はなかったが、電話線を引くため何回か人が往復しているので登れると聞いた。早速真ノ谷からそれを頼りに急登して、藤原岳に登り治田峠に下ったことがある。このルートを見つけたことで、案外楽に近江側からも藤原岳を楽しめるようになった。特に藤原岳一帯は植物の宝庫で、四季を通じて種々の草花が鑑賞できる。

茶屋川林道を終点茨川まで車で入る。9時30分出発。川を渡ると広場の奥に道標がある。作業小屋の横を通り、伊勢谷の道を進む。谷が荒れ、はっきりしない所もあるが、踏み跡を追うと道が現れる。歩きだして約30分で谷の分岐に着く。この谷で水を確保して左の支流をつめ、左斜面の急坂を登ると普通になり、治田峠の広場に着いた。

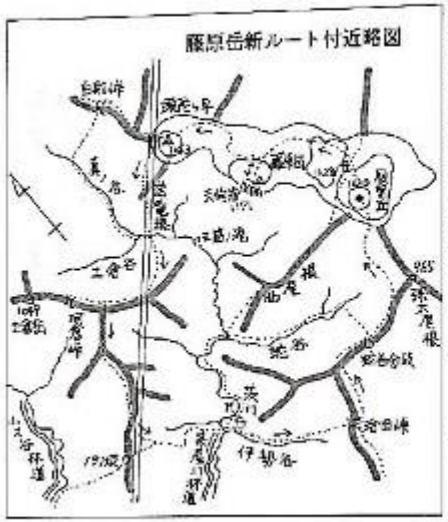
峠から先は縦走路で道はしっかりしている。以前は2時近い歩のトンネルで苦労したが、近年は刈り込まれている。稜線からは、正面に藤原岳と孫太郎根から名古屋方面、後ろは鎌ケ岳と竜ケ岳が眺められる。天気が良く、全山紅葉して最高の一日が楽しめそうだ。遠くに近くに小鳥の声を聞きながら紅葉を楽しみ、登り下りを繰り返しているうちに蛇谷の分岐に着いた。小休止。

前方でカサカサ音がする。リスだ。素早い動作で木に登り、いなくなってしまった。落ち着いた樹林帯がどこまでも続き、カサカサと落ち葉を踏んで進むと、稜線の道は山腹を巻きながら藤原岳に向かう。このあたりから上は紅葉も終わり、道が消えるほどに深く落ち葉が積もっている。明るい樹林の中、あちこちにマムシ草の赤い実が彩りをそえている。展望丘を真上に見て、最後の急坂が続く。途中小休止して登りつめると、右前方が笹と潅木に変わり、展望が急に開けた。眼下に伊勢平野から名古屋方

天狗岩から見た藤原岳展望丘

面が遠望できた。しかし藤原鉱山の採石場がすぐ下までできているようなので気になる。2時近い笹をかき分けて進むと、前方に展望丘が見えた。かなりの人が登っている。12時前、展望丘に着いた。辺りにマユミの木がかなりあり、ピンクの赤い実をいっぱいつけていた。

リュックを下ろし、まず360度の大パノラマを楽しむ。伊勢湾と名古屋方面、そして南鈴鹿の稜線、全山紅葉している中で竜ケ岳の笹の緑が何とも言えない美しさだ。



日本コバ・天狗岩・伊吹山・御池岳、ぐるり見渡すと、遥かかなたの山の上に雪を頂いた木曽の御岳が白く浮き上がって見えた。眺望を楽しみながら昼食。しかし次から次へと登山者が増える。食後、早々に避難小屋に下るが、小屋も人でいっぱい。稜線を天狗岩に向かう。

開放感あふれる高原にはススキの穂が白く揺れている。散策しながら写真を撮っていると、雲一つない真っ青の空を西の方からジェット機が、音もなくゆっくりと二筋の白い線をトレースしながら東に消えた。

樹木から樹林帯に変わると天狗岩の分岐に着いた。左に進み、広場の手前で樹木の中を行くと、石灰岩が露出した中に、藤原岳展望丘・天狗岩の標識が立っていた。突端に出て展望を楽しみながら小休止。すぐ横にナデシコが五、六輪咲いていた。こんな岩場に、しかも今の時期に咲いているとは驚きだ。鈴鹿の山でナデシコの花を見たのは、9月初旬霊仙山に登った時が初めてだった。今では、藤でも見ることができなくなった。野草の中でも一番好きな花に出会えて感謝感激。三、四人も来るとすぐ踏まれてしまいそうなこんな狭い突端に、しっかり花を咲かせていた。正面には十倉尾根から貫和田に延びる尾根に送電線の鉄塔が続いている。あの尾根を下ることになるのだ。

引き返すと、広場の奥に青い紐の印がある。近道かと思い辿ると、突端の草地に出た。ここもすばらしい所だ。眼前に御池岳の全貌が眺められる。V字形に切れ込んだ真ノ谷と十倉谷は見事に紅葉している。今年御池岳南端に何回も登ったが、その思い出のルートが再確認できた。

分岐まで引き返して頭陀ケ平に向かう。笹がかなり生え込んでいる所もあるが、いったん下って登りつめると、鉄塔下の頭陀ケ平に着いた。正面に巨大な御池岳の山塊を望み、次の鉄塔から左、真ノ谷に下っている巡視路を下る。藪をすべて落とした斜面は、明るくて気分爽快だ。青の紐がよい目印になる。鉄塔の手前を左に行くと、浅い谷に出た。ヌタ場がある。紐は谷に沿って真ノ谷にストレートに下っている。浅い谷は石灰岩の小石で真っ白、以前よりかなり

荒れている。急斜面を注意しながら一気に下ると、谷が深くなった。右の支尾根を下ると土倉岳分出合に着いた。

真ノ谷からの登り口の木に、「鉄塔登り道」の表示があった。谷の斜面にワサビが自生していたので、新鮮な葉を少し摘んで、土倉尾根の鉄塔に登る。道ははっきりしないがテープの印がある。鉄塔の下の古木にツチアケビがからみついていた。夏の終わりに花を見つけていたのだが、少し遅かったようだ。少し倒れて実の表面が黒くなっていた。東側は独特な赤い色をしている。鉄塔の下で小休止。周囲の山々は全山紅葉している。特に真ノ谷全体は西日を受け、燃えている感じだ。

ここから土倉岳分岐までの尾根は、私の一番好きなルートで、ブナを主にした雑林が続く。樹林の中のシロモジが全部色づいて、黄葉のトンネルを歩いているようだ。分岐から左に下る。杉植林の尾根道からの展望を楽しみながら進むと、天狗堂の下に君ケ畑の集落が確認できた。さらに進み、尾根の鉄塔下で小休止。左に藤原岳から銚子岳に続く稜線が眺望できる。今日歩いて来たコースを再確認する。すぐ下が茨川だ。

ノタノ坂の分岐で左の尾根道を下り、鉄塔の下から左端を下ると、ノタノ坂からの道に出た。茨川には16時10分に着いた。

なお、茶屋川と御池川にはワサビが自生している。御池川にはクレソンが自生している谷もある。早春には白い花が咲き、ワサビ谷に一変する谷もある。しかし最近は少なくなった。この山域を歩く時は、ワサビの新鮮な葉を摘んで帰ることにしている。根の大きなワサビはまず無いので、根から引き抜かないように願いたい。食べ方は簡単、塩もみしてから根を抜き、ゴマ醤油等で食べる。歯ごたえがありぴりっときて、酒の肴には最高である。山の水を水筒に入れて持ち帰り、ワサビの葉を肴にウイスキーの水割りを飲むのが最高の楽しみになっている。

（平成5年11月3日歩く）

△コースタイム▽

茨川（40分）治田峠（45分）蛇谷分岐（1時間）展望台（35分）天狗岩（25分）頭陀ケ平（25分）真ノ谷（40分）土倉尾根分岐（1時間）茨川

△地形図▽2万5千＝竜ケ岳

昭文社＝「44洋仙・伊吹・藤原」

（岩野　明）

新刊

霧の山
―続　ふくいの山・四季―

増永　迪男　著

四六判・二〇〇〇円

大好評『霧の森』に続く、福井の山岳フォトエッセイ。鯖街道完歩や焼畑作りを通して魅力を語り、能郷白山のダケカンバ、貴節滝など名樹も多数紹介。

新刊

関西　山越の古道（中）

中庄谷　直　著

四六判・二〇〇〇円

叡山越、高野七口、西国三十三所巡礼、熊野古道、伊勢街道から全26コースを日帰りハイクにまとめ、中辺路・小辺路など泊まりがけの完歩「コースも掲載。

ナカニシヤ出版

京都市左京区吉田二本松町2
☎京都　075-751-1211　〒606

エリア別徹底研究　近江側から登る鈴鹿の山々⑱

秘境の御池岳南部・奥ノ平を行く

御池岳の奥ノ平から南は、笹原が海のように広がり、未知の山域で空白地帯になっている。初冬、友人と二人で一倉岳に登り、雪の笹原を強引にボタンブチまで突っ込み、真ノ谷に下ったが、くされ雪の笹原は始末が悪く、ずぶ濡れになって震えあがった。残雪期には毎年登っているが、ある時ボタンブチの南のV字形の深い沸から鳥が飛び立った。近づくと、雪の中からカモシカの前足が出ていた。少し掘ると頭部が出てきた。かなり大きく毛並みも黒々としてまだ生きている感じだったが、どうにもしようがなく埋め戻した。その他思い出はいっぱい、私の一番好きなルートだ。雪の無い時期はテープルランドの南端に登り展望を楽しんだ。

平成5年の春、同端を真ノ谷方向に回り込んだ時、カモシカに出会い、素晴らしい展望台を発見した。そしてその年の秋に四回アタックして、奥ノ平の南に全然人が入っていない南峰を発見した。

今回紹介するルートは、まだ人に知られていないとっておきの素晴らしい新ルートである。

滋賀県野洲町箱望ケ丘の「青年の城」の玄関に、伊吹山麓産の「さざれ石」が展示してある。「君が代」に出てくるこの「さざれ石」は、真ノ谷にもある。特に真ノ谷のさざれ石は、巨岩になって草や木がしっかりと根を張っている。石灰岩が長い年月の間に雨水によって溶かされ、その時生じた粘着力の強い乳液が、回りの小石や岩石の破片を凝結して次第に大きくなり、巨岩になるところから「さざれ石の巌となりて……」と歌われている。

茨川の林道を終点茨川まで車で入り、広場に車を駐める。川に沿って行くと道標があり、左にノタノ坂に向かう。杉木立の中に道が続き、谷で水を確保して左斜面を折り返しながら登ると鉄塔が見えてくる。道は山腹を巻いてノタノ坂に向かうが、鉄塔に続く切り開きをストレートに登る。鉄塔からは土倉尾根分岐まで整備された巡視路が続いていた。登りきった尾根からは杉の植林に

南峰より御池岳南部の笹原

変わるが、随所で展望が開けた。正面の士倉岳の奥には巨大な御池岳が聳たわり、左はサンヤリと大鈴堂、その麓に君ケ畑の集落、その先は日本コバだ。右には樫原岳から鈴子岳へと続く主稜線、道筋にはリンドウが咲いていた。茨川から一時間10分で士倉尾根分岐に着いた。落ち着ける樹林の中で小休止。左折して士倉岳に向かう。緩い登りが続き、植林の生え込みを過ぎると河倉峠に着いた。五、六年前までは、真ノ谷から河倉峠を経え、池ノ谷に下る道も何とか通れたが、現在は完全に消えてしまい、通れないのが残念だ。緩い登りを辿ると笹が現れ、士倉岳に着いた。展望はない。

疎林の中の笹をかき分け南に進み、三角点を確認してから御池岳に向かう。この尾根には、びっくりする程沢山の雪が積もるため、樹林は倒れている。正面には御池岳が圧倒的な迫力で聳えている。テープと紐の印を辿ると、前方が開け士倉谷の源頭のやせ尾根に出た。右側に士倉谷が続い落ち込みを見せていた。笹原の手前で左の樹林に入り、けもの道を左斜めに登ると、大きく茂る樹林帯に変わった。急斜面を一気に登り、頂上直下で右に回り込むと展望が開け、南端の草原に着いた。

左に伊勢平野と名古屋方面、藤原岳から南に延々と続く鈴鹿の山並み、笹原の緑の雲ケ岳・御在所岳・雨乞岳・綿河山・日本コバ・大鈴堂と続いている。その先は霞の中、湖東平野と琵琶湖が広がっていた。足元の草原にはリュウノウギクの白い花が咲き乱れ、眼下は士倉谷から真ノ谷へと続く渓谷の眺望をゆっくり楽しんだ。

歩きだすとすぐ、岩場と潅木の藪に変わり進めない。左折して疎林の中、笹原を進むと笹が切れ、背の低い薬明らしい樹林に変わり南端のピークに着いた。北側は広大な笹原が続き、その上に1194㍍ピークが望めた。南側に出ると、潅木の中岩場が続き、南に大きく展望が開けた。

真ノ谷方向に潅木が続き、その中を斜めに下って疎林の中に入ると、中は動物たちの溜まり場になっているようだ。広場があり、けもの道が四方八方に延びている。笹と樹林の境目を辿り、浅い谷を渡ると右下にヌタ場が現れた。左に回り込みながら辿ると、潅木と笹に阻まれ進めない。正面に1194㍍のピークが望めたので、笹原をストレートにトラバースする。笹がほとんど倒れているので案外楽に突破できた。樹林に入ると水苔に覆われたカレンフェルトが続き、ブナの大木も現れた。

山頂はかなり広く、疎林でトリカブトの群落があった。花は終わりに近く木陰に五、六輪咲いているだけだった。青紫の花が咲き乱れる時期に是非登ってみたい山頂だ。残雪期に二回登ったが、見覚えのあるクロウメモドキが、背は低いが異様十分で、刈をもって黒々と茂っていた。展望は南に開け、藤原岳が望めた。

奥ノ平に向かって下った所に赤紐の印があった。奥ノ平から南に下っているようだ。紐を辿ると、笹原には紐をストレートに伸ばして巻きつけてあり、よい目印になった。紐の目印は続き、樹林から樹林へと笹原を進むと、奥ノ平の南の南峰の腹を巻いて奥ノ平へと続いていた。

南峰の北斜面に回り込んで山頂に登ると、すごい。カレンフェルトと潅木の山頂は水苔に覆われ、マユミの大木が三本、ピンクの実をいっぱい付けていた。そして南に大パノラマが展開した。名古屋方面から藤原岳、特に御池岳連峰の広大な山域には、樹林の中に笹原が海のように広がり、逆光に明るく輝いていた。この南峰には人が全然入っていないようだ。薬師らしい所だ。場所を確保してゆっくり昼食。食後、マユミ

の木に登って奥ノ平を確認する。約150㍍先が奥ノ平だ。南斜面は広大な深い笹原に覆われ、残雪期以外は近づけないそうだ。

復路は南端のヌタ場まで引き返す。登った時、この樹林でカモシカに出会い、美味らしい展望台を発見した。緩い下りを左に回り込むと、真ノ谷に下る分岐に着いた。右折して潅木の中を回り込むと、岩場に変わり先端の岩の上に出た。300度に近い大パノラマが展開した。今までに鈴鹿の山をかなり歩いているが、これだけの展望を楽しめる場所はほかにない。第一に高度感が全然違う。左に伊勢湾、右は琵琶湖だ。眼下には深く落ち込んだ真ノ谷、藤原岳から南西に延びるなりあいながら延々と続く鈴鹿山系、誰も知らない「東のボタンブチ」は、これからは秘境の指定席だ。腰を下ろしてゆっくり楽しんでいると、天下を取ったような気分になれる。

分岐まで引き返して、大きく茂る樹林の中を真ノ谷に向かって下る。急斜面は滑りやすい、木や潅木をしっかり掴んでゆっくり下る。急な下りは横向きや後向きになって下る。登、この斜面には、オウシダの中にヤマシャクヤクやバイケイソウの群落が続く。谷に近くなると石の斜面に変わり、下り終わると河倉峠に向かう道に出た。左に下り真ノ谷に着く。白い石灰岩の溜まった谷を下り、水溜まりから流れに変わるあたりにさざれ石の岩が現れた。谷にあるさざれ石の岩にはジンジソウ（人字草）の白い可憐な花がびっしり咲いていた。他の岩には咲いていない、さざれ石の岩は水持ちがよく植物も根づきやすいようだ。

谷に急な下りが続き、滝の右を高巻きして下ると士倉谷の出合に着いた。深く落ち込んだ谷底は、大きな樹林が覆さり監視の渓谷美を見せていた。出合を過ぎると左斜面に大きなさざれ岩が続き、木や草がしっかりと根を下ろしていた。真、この谷を遡行した時には、斜面にキッネノカミソリが咲き誇っていたが今は跡形もない。前方が明るくなり、左斜面の支谷から大量の土砂が流れ込んでいる所を過ぎると、三筋ノ滝に着いた。右に巻いて滝下に下る。水量が少なく一筋になっていた。明るい滝を眺めて一服の後、沢右岸谷を左に見て下り、蛇谷の出合に着いた。何回か流れを渡るが石伝いに渡れた。左岸に道が続き河原に下るが、すぐ又左斜面に道は続き、そのうち茨川に着いた。（平成5年10月11日歩く）

△コースタイム▽

茨川（1時間10分）士倉岳分岐（25分）士倉岳（30分）南端（10分）南端ピーク（40分）1194㍍山頂（35分）南峰（50分）カモシカ展望台（「東のボタンブチ」）（25分）真ノ谷（30分）士倉谷出合（25分）三筋ノ滝（30分）蛇谷出合（45分）茨川

△地形図▽2万5千分の1　御在所・藤原

△参考文献▽『44・霊峰・伊吹・藤原』（岩野　明）

エリア別徹底研究

近江側から登る鈴鹿の山々 ⑲

ブナ林の尾根から御池岳南峰

（最短コース）

毎年、残雪の御池岳にノタノ坂・土倉岳ルートから登っている。この道筋から北に見える尾根がある。土倉岳の北から西に派生している尾根で、918㍍のピークで南北に分かれる。南に向かう尾根は878㍍のピークから高度を下げ、小又谷林道の分岐で消える。

平成6年の早春、友人と両から登り、南峰・奥ノ平・ボタンブチと回り、復路にこの尾根を下ったが、鈴鹿では考えられないほど素晴らしいブナ林の稜線が続いた。878㍍から南は植林の尾根に変わり、藪がひどく、途中で左斜面を下って小又谷林道の上部に出たが、そこは崖で林道に降りられず苦労した。

この尾根から南峰に登るルートは、御池岳への最短コースで素晴らしいルートだ。ブナの林が続く尾根が忘れられず、御池谷林道から二回アタックして、案外楽に登れる新ルートを発見した。

御池川林道が小又谷林道の分岐を過ぎ、橋を渡ると坂道に変わる。支尾根を回り込み、次の支尾根の左側の広場に駐車する。山側の斜面は伐採され、植林したばかりで、その中を斜めに登る細道があった。この急斜面を登りつめると広い台地に変わり、道は消えるが伐採したばかりなのでどこでも歩ける。正面の875㍍のピークに向かって登りつめ、雑木の尾根に変わるとすぐ578㍍のピークに着いた。樹林に覆われ展望はない。

稜線を918㍍のピークに向かう。緩い下りと登りが続き、左斜面は檜の植林、右の自然林の中にブナの木が次第に増えてきた。右斜面が植林に変わるが、ブナの木だけは切らずに残してある。緩い登りを辿ると、右に岩が突き出して窓になっていた。この岩盤に出ると一気に展望が開けた。右に大きく回り込んだ稜線の先に、檜に覆われた967㍍のピーク、その右は天狗岳だ。長々と続く御池岳の西端には、天狗の鼻とボタンブチ、そしてボタン岩が望めた。一休みして918㍍のピークに向かう。台地状の広い尾根には次第にブナの木が増えてきて、やがてブナの森に変わった。これだけまとまったブナの森が鈴鹿の山に残っているとは驚きだ。青味をおびた独特の木肌がなんとも言えない、じっと見惚れている

ブナ林の続く稜線

と心が洗われるようだ。緩い登りを辿ると918㍍の山頂に着いた。この山頂で尾根が分かれ、北に向かう尾根にも素晴らしい樹林が続いていた。広い山頂は、ゆったりと大きく茂る樹林に覆われ展望はない。

下りにかかるとすぐ、理の溜桟があり、その中になんとワサビが大きく茂り、白い小さな花を咲かせていた。広い尾根を辿ると樹林の中にヌタ場が現れた。尾根は次第に細くなり岩稜に変わり、ピンク色をしたイワウチワの花が咲き乱れていた。ミツバツツジの芽葉の花も続き、咲きだしたばかりの石楠花も増えてきた。稜線には古い道が残っていた。ゴロ谷側は急角度で落ち込んでいる。破鄙からは967㍍ピークに向かって緩い登りが続いた。地を這って茂る石楠花の岩稜を辿ると、右斜面が檜の林に変わり967㍍の山頂に着いたが展望はない。少し進むと左に展望が開けた。

左真上に御池岳の西端が続いている。その中でも特にボタン岩は白い石灰岩が明るく輝き、巨大な岩壁はすごい迫力だ。下り終わった鞍部からは広い尾根に変わり、左斜面にブナ林が続いた。登るにつれ、急斜面に変わり、笹が現れると尾根が消えた。すぐ上が山頂だ。笹や木を掴んでよじ登る。山頂直下で左折して樹林の斜面を辿ると、灌木の斜面に変わり西に展望が開けた。歩いて来た稜線が目の前に展開する。その先は天狗岳だ。眼下には深く落ち込んだゴロ谷の渓谷。一休みして眺望を楽しむ。急斜面にはイチリンソウ・ニリンソウ・エンレイソウ・ミヤマカタバミの花が咲いていた。

前方右上に大岩が現れた。この岩の手前の笹の切れ目のけもの道を登ると笹原に変わり、奥ノ平の広大な笹原が眼前に展開した。正面には樹林に覆われた南峰が望め、この南峰に向かって疎林が続いていた。笹をかき分け疎林の中を行くと左下の窪地に池が現れた。池に下ると「東池　1990・11・25VA」の標示板が木に取り付けてあった。池撰しの名人・山田明男氏が発見された池だ。疎林から疎林へと辿ると南峰の南の尾根に出て、左にとると間もなく南峰に着いた。

なお、今年の3月残雪期にこのルートを登りボタンブチで昼食、山田氏と『鈴鹿樹林の山旅』の著者辻氏に出会った。辻氏と一緒に主稜線を北に辿り、丸池やお花ノ池を巡り、アザミ谷の源流に下って伊勢尾にトラバースして尾根を御池谷林道に下った。雪が消えた岩の斜面にフクジュソウが咲いていた。伊勢尾にはマンサクの花がどこまでも続いていた。左手には御池岳の急角度に落ち込んだ西斜面が続き、思わぬ景観を楽しむことができた。

（平成7年5月6日歩く）

△コースタイム▽

御池谷林道（35分）878㍍山頂（30分）918㍍山頂（25分）967㍍山頂（40分）山頂直下（40分）南峰（2時間10分）御池谷林道

△地形図▽2万5千＝篠立・菰ケ岳

昭文社＝「44霧仙・伊吹・藤原」

（宮野　明）

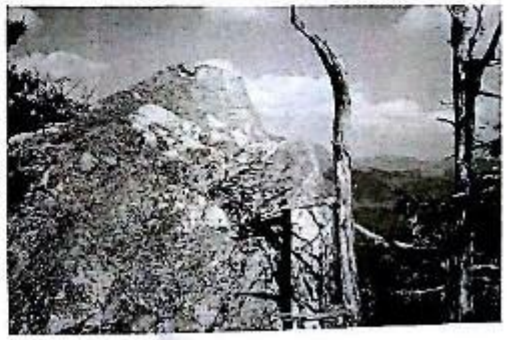
エリア別徹底研究

近江側から登る鈴鹿の山々 ⑳

天狗堂

君ケ畑の北に聳える富士山のような形をした綺麗で、鈴鹿を歩いていると結構目立つ山だが、はっきりした一般向きの登山道はない。山腹はかなり植林が進んでいるが、山頂部は自然林の中に大岩が点在している。以前に大ダムの坂ケ谷林道から登った時、地元の人に天狗堂の岩場には赤い蛾がいる、と聞いた。登ってみると、赤い蛾が出てきそうな岩場がかなりある。山頂の大岩に登ると、300度に近い大パノラマが展開する。特に眼前に聳える御池岳の眺望は圧巻だ。

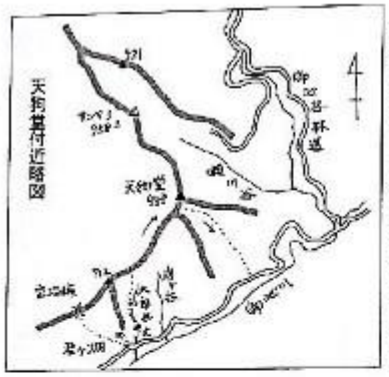
君ケ畑まで車で入り、小学校の三叉左側の広い駐車場に車をおく。歩きだすとすぐ左に、天狗堂登山口の道標が立っていた。左折してコンクリートで護岸した川の左の導を辿ると、小学校の裏を通り山に向かって緩い登りが続いた。左から太郎谷が山に向かって切れ込んでいる。谷の入り口には巨大な砂防ダムがあり、その上に天狗堂が望めた。ダムの右を登り谷に入ると、道は谷に沿って右に左に渡りながら続く。谷が荒れて消えている場所もあるが、注意して登ると道は続いている。滝が現れ、左を巻いて登ると、谷の左斜面の杉林にジグザグの急坂が続いた。この杣道には、木の階段が作ってあるが、ほとんど朽ちている。山腹を斜めに登り、急斜面に微かに残る古い道を喘ぎながら登ると、真上が明るくなり切り開きに出た。まわりは檜の植林に変わり、前方が開け天狗堂が望めた。植林と雑木の境目を登りつめると広い尾根に着いた。尾根に植林して間がなく綺麗に下刈りがしてあり、展望が大きく開けた。正面は天狗堂の山頂まで続く稜線、後方には鎖子岳・静ケ岳・竜ケ岳、そして南に続く鈴鹿の山並み、右には日本コバが眺望できた。


天狗堂山頂の大岩

緩い登りを辿るが次第に道が消え、正面に山頂が見える。下刈りされた植林の中を進むと、雑木と植林の境目から紐とテープの目印が現れた。植林帯を過ぎると雑木の中に赤い杭が山頂に向かってストレートに続いていた。急斜面の登りは益々急になり、木を掴み、体を引き上げるようにして登りつめると、岩が現れ山頂の南端に着いた。

岩の多い平坦部を辿ると登りになり、やっと天狗堂（988㍍）の山頂に着いた。

山頂に突き出た大岩に登ると感嘆するばかりの素晴らしい眺望が展開した。左に鈴ケ岳が、そして御池岳が巨大な空母のように長々と横たわっている。藤原岳から竜ケ岳へと続く鈴鹿の主稜線、そして近江側には綿雲にも重なりあって続く山並み、その先に雨乞岳と綿向山が頂きを見せていた。大岩の東側は20㍍ほどの切り立った絶壁、眼下は御池谷だ。あまり広くない岩の上に腰を下ろして、ゆっくりと眺望を楽しむ。



復路は南のピークから左斜面に続く切り開きにテープの印が続いている。赤い杭もあり、御池谷林道にストレートに下っている。大岩が左右に現れ、下るというより落ちて行くような感じだ。木や木の根を掴んだり、後向きになったりしてテープの印を追ってゆっくり慎重に下ると、急斜面に直立した岩壁がある。その頭に根を張り、幹と根が岩から大きく垂れ下がって、四、五本の幹に分かれて立ち上がっている檜の大木があった。

真下には谷が見え、谷に降りると緩い下りに変わるが道は荒れていて消えた。谷に沿った道は、うっそうと茂る杉林に変わった。谷の右岸を下ると、右斜面から道が現れ、薄暗い杉の林の中に緩い下りが続いている。辿ると御池谷林道に出た。

今回紹介したルートは、登山口の道標は一応あるが、道がかなり荒れていて、しかも急な登りと下りが続く。女性でも安全に登れるルートとしては、神社の右の支尾根を登る道がある。NHKのケーブルが埋設されている道で、白い杭が712㍍まで続く。その先の稜線は若干下刈りされたばかりで、当分は歩ける。天狗堂の先△サンヤリ（956・5㍍）までの稜線は、途中で植林に変わり、生え込みの強い藪があり、道が消えている。巻先の夏草がまだ茂らない時期にはなんとか歩けるだろう。瀬川谷の源流に延びている林道はかなり荒れていて、車は入れない。この林道終点から君ケ畑まで歩くと2時間以上かかる。

（平成6年11月2日歩く）

△コースタイム▽
君ケ畑（40分）稜線（50分）天狗堂（50分）御池谷林道（30分）君ケ畑

〈地形図〉2万5千＝「44・霊仙・伊吹・藤原」
昭文社＝「44・霊仙・伊吹・藤原」

（山野　明）

登山に必要なものは、
国産・舶来
すべて揃っています。
足にピッタリ！
登山靴のことならお任せ下さい。
（定休・火曜日）
〒604 京都市中京区丸太町通堀川東入
☎（075）211-5768
FAX（075）231-0318
山とスキーの専門店
京都 ムラカミ

稽古照今『記・紀』を歩く ⑤

北山の辺道（日本書紀　影媛の歌の道）

天理駅…（バス2分）徒歩4分①石上神宮から石上…（1時間20分）白河溜池周辺…（2・5キロ）⑩弘仁寺から日瑞寺…（3・5キロ）⑪八幡駅から高野橋…（1キロ）⑫白毫寺から新薬師寺…（2キロ）⑬春日大社・東大寺…（バス1分）徒歩3分奈良駅　2時間　バス利用は　徒歩15分

中村敏文

仁賢（顕宗）天皇十一年八月に天皇が狩御し、皇太子（武烈天皇）は物部大連の娘、影媛を召し入れんとして、御狩の場で言い寄るが、影媛は既に大臣平群真鳥臣の息子、鮪臣という恋人がいた。平群父子の無礼を怒った皇太子に相談された大伴金村連は、数千の兵を集めて鮪臣を乃楽山に追いつめ殺害する。鮪の最後を目撃した影媛は悲しみに溢れる涙を目に詠んだ歌。

石上　布留を過ぎて　高橋過ぎ　物多に　満ちたる　大宅過ぎ　磐垣　小佐保を過ぎ　春日を過ぎ　妻隠る　泉の　玉笥に　水さへ盛り　泣き　哭ちて　行くも　影媛あはれ

（日本書紀　巻第十六）

鮪の埋葬を終え、家に帰るときに心憂らせて影媛は詠んだ。

あおによし　乃楽の谷に　鹿じもの　水漬く　辺隠り　水潜く　鮪の若子を　漁り出な　猪の子

その冬十一月に平群真鳥は大伴金村軍に包囲され焼殺され、十二月に皇太子が泊瀬列城宮で即位して武烈天皇となる。

石上は布留川左岸の石上坐布都御魂神社（石上神宮）の鎮座地で、布留川の上流・中流域に広がる古くから開けた地である。

安康天皇の石上穴穂宮、武烈天皇の父君仁賢天皇の石上広高宮は、布留丘陵の石上神宮から平地部の石上市神社にかけて伝承されている。影媛の家は物部大連の娘ゆえ物部氏の支配地の石上の何処かだろう。書紀によれば石上の布留から高橋を通り、古代の山の辺道の大宅へとたどり春日に入り、小佐保から大和盆地北端の乃楽山に着いたと歌っている。

現在の「北山の辺道」を乃楽山までたどると曲折した20数キロの道だが、影媛が急いだ道は現在の上街道との中間、ほぼ直線に近い山麓の山の辺道のように思える。

①石上神宮から石上（天理市布留・石上）

石上神宮楼門

崇神天皇の治世に創建されたという石上の社は、日本書紀の垂仁天皇三九年条に、剣一千口を石上神宮に納めたと記載のある由緒深い古社である。影媛の歌にある石上の布留も石上神宮付近と推察され、北山の辺道の出発地にふさわしい場所である。

楼面の石上神宮の拝殿と西面の摂社出雲健雄神社の拝殿は国宝で、北山の辺道はこの両拝殿の間にある鎌倉時代建立の一間一戸の楼門（重文）前から東へ通じている。

薄暗い神社の森から東海自然歩道に入り、白河溜池への案内標識に導かれて天理市道に出て、弘仁寺・円照寺の道標に従い梅林を抜け、布留川の高橋に着く。現在の高橋は布留の高橋で有名な滝の上に新設された橋で、影媛の通り過ぎた高橋は高瀬川流域の地名であろう。

高橋を渡り豊井町の山道を行くと左手に豊日神社がある。祭神は大山祇命・菅原道真であるが、昔は火雷神か豊日神であったという説もある。

豊日神社から豊田城跡の説明板を通り石畳道の下りになる。豊田城は東方へ八丁（180㍍）ばかり行った山頂に本丸・二の丸跡などを残す。十五世紀の中頃から興福寺衆徒として活躍した約三千六百石の豊田氏の居城で、戦国時代末には筒井氏の傘下に入り、松永久秀に攻められ落城している。

豊山町の集落の東側で天理東インターへのバイパスに入り、2分ほど歩道を行くと左へ東海自然歩道の標識がある。小川沿いに丘陵へ延びるこの小道は、池の畔に出て坂道となり、ハイカーしか通らない熊笹の道になる。

堀道を登りつめた果樹園の入り口から南へ回ればウワナリ塚の標識があり、少し行くと竹藪の中の後円部南面に巨大な横穴式石室が開口している。

果樹園入り口へ戻って西へ行き、配水タンク手前の左への山道を上がると、石塚大塚古墳があるが横穴石室は崩壊している。

配水タンク付近は一面の須恵器が出土した地で、石上窯跡出土地の石碑がある。県道に出る途中にある平尾城丸神社付近が仁賢天皇の広高宮、市辺押磐皇子の石上市辺宮伝承地といわれるが遺跡はない。

②白河溜池周辺（櫟本町・岩屋町・和爾町）

石上地区から北への山の辺道も東海自然歩道と同じであるが、古代の山の辺道からは変遷しているので想定するしかない。

白河溜池付近の迂回路

名阪国道工事に伴う旧道の破壊と新道の敷設や緊急変更、櫟本東部丘陵地帯のシャープ総合開発センターの建設、白河溜池周辺の整備開発による大幅な自然改造の結果、当初の東海自然歩道は白河溜池の西側に通じていたが、工事の進捗につれて自然歩道の道筋も状況に応じて変更されるので注意がいる。

平群の鮪が逃走し、大伴金村軍数千が追跡、そのあとを影媛が追った山の辺道は、おそらく石上から高瀬川流域と推定される高橋を通り、櫟本・和爾の丘陵を通過して奈良市域の大宅・春日へと進んだと思われる。

東海自然歩道が櫟本・和爾地区に設定されれば石上から和爾下神社へでることになる。境内は東大寺山西麓にある前方後円墳の後円部にあたり、桃山時代建立の三間社

流造の本殿（国重文）がある。山王系二神を祭る俗に御室大宮社といわれ、古代は和爾氏一族によって祭られていたと思われる。境内には和爾氏系の新太郎跡や敦塚・柿本神社の小社がある。古代の山の辺道はこの辺りから東北方の和爾坐赤坂比古神社へ抜け、大宅の宗教地といわれる奈良市山町へ通じていたと思われる。

平成7年度現在、道は名阪国道を潜り、岩屋に入ると西へ向かい、案内標識をみて駐車場を横切りシャープ研究所の東側の舗装道路を北へ行く。クチナシ池を過ぎると地道へ入り、白河瀦池の工事現場が見え通行止めの看板がある。さいわい簡単な道しるべがあるので白河瀦池西側の竹藪を抜け、白河瀦池工事自学台の建物まで抜けられるが、案内のしるべと方向に細心の注意が必要である。

白河瀦池への道は通行止めなので北へ10分程歩き、虚空蔵町への道を東へ15分ほど行くと弘仁寺への案内板がある。石段を上がると4月13日の十二参りで有名な、高樋の虚空蔵さんと呼ばれている弘仁寺の境内へ着く。

③弘仁寺から円照寺（奈良市高樋・山町）

寺伝では聖徳天皇の勅願寺で弘仁五年創立の大寺だが松永久秀の兵火で焼け、現在の本堂・明王堂は江戸期の再建である。本尊は虚空蔵菩薩像、また平安期作の木造明王菩薩立像は国重文である。

不動尊を祭る奥の院を経て高樋の柳茶屋バス停まで下り、菩提仙川沿いに東へ登れば正暦寺だが寄らずに川沿いを西北へ下る。精華学院前バス停から300㍍の地点で右折して竹藪の中の山道に入る。竹藪から杉林の中を行く。弱の坂道は20分ほどかかり、禁煙札が目に付く急坂を下ると、正暦寺へのハイク道の分岐点に出る。

正暦寺に向かわず西へ約500㍍行くと竜王池がある。竜王池の北側から右折して山道を登りきり下り道になると、西国三十三ヶ所霊場の石仏が並び円照寺の山門前へ出る。

山村御殿とも呼ばれる円照寺は、法華寺・中宮寺と呼ぶ大和三両跡寺院の一つで格式が高く、拝観することはできない。後水尾天皇の第一皇女梅宮による江戸初期の開山で、京都の修学院に創建されたが、後にこの地に移されたという。本堂である円通殿と二十五菩薩の来迎その他の持物をかたどった石を配置した庭園がある。

④八嶋陵から鹿野園（八島町・鹿野園町）

円照寺参道から右折して地道を行くと前池の北側が崇道天皇八嶋陵である。光仁天皇の皇子早良親王は桓武天皇の皇太子となるが、藤原種継暗殺にくみしたとされ廃太子、乙訓寺に禁足されて後に淡路島へ配流となるが途中で死亡する。

桓武天皇は親王の霊に怯まされ、淡路の墓を山陵に改め、崇道天皇と追号し霊を慰めた。大和への改葬は何時か分からない。現在御陵前路上に破壊された横穴式石室の八ツ石という天井石などが残されている。

八嶋陵から東へ10分も行くと、式内の鳴田神社が八島山西山麓に鎮座する。明治初期に八嶋陵内の嶋田社・崇道天皇社を移し、八島神社・崇道天皇社ともいわれた。

嶋田神社から北へ藤原町の白山神社前を経てなおも北へ行き、自衛隊官舎北側の平尾池を半周するように行くと陸軍墓地の東側に出る。墓地前から北へ行くと鹿野園の新池の北側で名張街道を横切る。鉢伏峠・一台峠を越え大和高原を抜けて名張へ向かう古代の名張・奈良道である。

奈良時代の鹿野苑に貴族の遊猟地ともいわれている。現在の鹿野園の氏神八坂神社は山の辺の道筋に鎮座する。八坂神社から岩井川を渡り名張街道新道までは、1㌔足

らずの曲折した荒廃の道だが、道標に従えば迷わず通過できる。

⑤白毫寺・新薬師寺（白毫寺町・高畑町）

名張街道を横切り東山麓への急な坂道を登りつめて白毫寺へ下るのは、心地よいハイク道だ。忠実に道しるべ通りに歩いて15分はかかる。

白毫寺は志貴皇子の山荘を寺にした岩船寺十坊の一院だともいわれる古寺だが、現在は本堂と御影堂だけを残すもの寂しい寺である。萩の寺として聞こえ高く、秋は石段の両側の萩が心和ませ、春には珍しい五色椿の古木が色とりどりに咲き乱れ、一年を通じて拝観者が多い。

白毫寺から北へ宅春日神社を経て奈良市歴史の道の標識をたどれば、15分ほどで新薬師寺と神宮寺であった鏡神社へ着く。

新薬師寺は聖武天皇の眼病治癒を祈願して光明皇后が建立した大寺だが、奈良時代の建物は国宝の本殿だけで、地蔵堂・鐘楼・南門・東門は鎌倉期の再建である。

今回のコースは新薬師寺から高畑町を経て奈良駅へ直行する21㌔の道のりであるが、余力があれば2㌔延長して春日大社から東大寺へ回ってもよい。

⑥春日大社・東大寺（春日野町・雑司町）

奈良市の歴史の道は春日野町に入り、春日若宮・春日大社を過ぎ、雑司町の手向山八幡から東大寺を巡って噴水山の東部、般若寺へ行き、佐保・佐紀の丘陵を回っていて、西大寺駅まで10㌔と長い。

佐紀の歌の道筋は天理市城の高瀬川（俗に京街道）中流域の高橋（櫟本町）を過ぎ、奈良市域へ入り大宅（山町）を経て春日（春日野町）の野原を通り、小佐保（法華町）から九条山（佐保・佐紀の丘陵）に通っているが、九条山回遊となると30㌔を超える8時間コースになる。

山と高原地図シリーズ

定価 各700円(税込)

1 北アルプス総図
2 白馬岳
3 霧島・桜島
4 剱・立山
5 上高地・槍・穂高
6 乗鞍高原
7 御岳山
8 中央・南アルプス総図
9 木曽駒・空木岳
10 甲斐駒・北岳
11 塩見・赤石・聖岳
12 妙高・戸隠
13 志賀高原・白根
14 蓼科・霧ヶ峰
15 西上州・荒船
16 美ヶ原・霧ヶ峰
17 八ヶ岳・蓼科
18 富士・富士五湖
19 箱根
20 伊豆
21 丹沢
22 高尾・陣馬
23 大菩薩連峰
24 奥多摩
25 奥秩父・秩父
26 南秩父1 (両神山・四阿山)
27 奥秩父2 (金峰山・甲武信)
28 谷川岳 (巻機山・苗場山)
29 越後三山 (飯豯山・守門岳)
30 尾瀬
31 日光 (男体山・奥白根)
32 那須・塩原
33 磐梯・吾妻・安達太良
34 飯豯山
35 朝日・出羽三山
36 鳥海山
37 蔵王・月山・朝日山
38 栗駒・早池峰
39 八幡平・岩手山・秋田駒
40 十和田湖・奥入瀬
41 ニセコ・羊蹄山
42 大雪山・十勝岳
43 白山
44 霊峰・伊吹・鈴鹿
45 御在所・鎌ヶ岳
46 出雲山系
47 京都北山1
48 京都北山2
49 京都西山
50 北信の山々
51 六甲・摩耶・有馬
52 高槻高原・二上山
53 金剛山・岩湯山
54 紀泉高原
55 高野
56 大峰山脈
57 大台ヶ原・大杉谷・高見山
58 吉野・熊野奥高原
59 氷ノ山・扇ノ山・後山
60 大山・蒜山高原
61 四国剣山
62 石鎚山
63 祖母の山々
64 九重・阿蘇
65 祖母・傾
66 屋久島・宮之浮

※昭文社の「山と高原地図」は年度版として毎年春頃発行されます。ご山行の際はなるべく最新版をご使用くださいますようお願いいたします。
※昭文社の「山と高原地図」へのご質問・ご意見がございましたら、本社編集部「山と高原地図」担当までお気軽にお電話ください。また新情報等お教えいただければ幸です。

株式会社 昭文社

本社 東京都千代田区九段北4-2-11 電話03(3262)2141(代) 〒102
支社 大阪市淀川区西中島6-11-23 電話06(305)5721(代) 〒532
営業所 札幌・仙台・浦和・千葉・横浜・立川・名古屋・金沢・京都・広島・福岡

文学歴史探訪ハイク ㉔

陶器山から天野山金剛寺へ

松永恵一

行者の食事

鎌倉時代末頃までの伝説や縁起を集めた『高野山往生伝』は、行者の食事として松葉と水をあげ、次のように説明している。

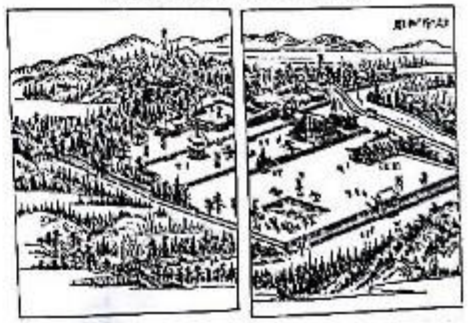
凡そ仏道修行には二種類あって、一つは難行苦行に挑むもので、いま一つは養生し、身を助けて仏道を行うものである。養生の秘術は松葉を服すことにある。処方書によると、地面から一丈（約3m）の高さで、春は東、夏は南、秋は西、冬は北の方の葉をとり、よく洗い細かに切り、粉にして一日三回、粥に入れて服用する。酒や水にまぜて飲むもよし。毎日続けると身は軽く無病長寿となる。

松葉を服する者の徳は十種ある。一に病少なく、二に不眠、三に力強く、四に髪黒く、五に音声好く、六に身軽く、七に延命、八に智慧すすみ、九に身香しく、十に色白し（色が白くなること）という効能がある。

松葉と食べ合わせしていけないものは小角豆・塩・若荷。一緒に食べてよいのは蕗・蓮根・薯芋・牛蒡・鮒。

また、粥にも十種の徳がある。一に色、二に力、三に寒、四に薬、五に調和らか、六に弁、七に宿食を除く、八に風を除く、九に酔を消す、十に渇を消す。特に粟粥は疲労を除く効能がある。黒豆一把と桑の枝は切り口が一寸で長さ三寸のものを細かくして豆と一緒に水に入れ、三升の水で煮る。塩を入れてはいけない。長時間煮ると薬になるが、性急に煮ては薬にならない。

天野山金剛寺（『河内名所図会』）



天野山の僧

『十訓抄』第三に次のような話が残る。

河内国金剛寺に、五穀を断って松葉のみを食べていると、仙人となって飛び歩けると聞いた僧がいた。二、三年の間松葉ばかり食べていると、ほんとうに身も少し軽くなったような心地がしたので、弟子たちに、「私は仙人になる」と言って、内々で飛ぶ稽古などをしていた。「いよいよ昇仙する時がきた」と言って、坊も何も弟子どもに

分から隠し、「仙境へ入れば仙衣を着るので衣服は不要」として腰に物を一重に巻きつけ、年頃秘蔵の小瓶だけを腰につけて、寺の近くの山の突き出た巌の上に登った。これを聞いた弟子や人々が、この僧の昇仙を見物しようと市をなして集まって来た。僧は、「一気に空へ昇ってしまおうと思ったが、先ず近いところで仙術を披露しよう」と思いついて、「巌の上から谷に生えている松の枝へ飛び移ろう」と言って飛んだ。ところが僧が思っていたより身体は重く、穀類を断っていたので力がなく、松の枝へ飛べないでそのままさっと谷底へ落ちてしまった。人々は仙術を身につけているから、落ちてもまた飛び上がれるのだろうと見ていたが、谷底の巌に当たって水瓶は割れ、身体を打ちつけて頓死状態になっていた。わずかに息があったので弟子たちによって坊内にかつぎこまれた。集まった人々は嘲笑して帰って行った。弟子たちは、いつまでも松葉だけでは生命がもたないので穀類を食べさせ、養生をさせた。僧は何とか一命をとりとめたが、手足や腰の骨を折って起居不自由になり、弟子たちに誘った坊も当も取り返して閉じこもるようになった。何とも忠実のない僧だ。

天野山金剛寺

天野山金剛寺は、印度の阿育王が仏教隆昌の地となることを予言して投げられた鉄塔が発掘された地という。

聖武天皇の勅願によって行基が草創し、のち弘海（弘法大師）の密教修行の霊場となったと伝える。いつしか寺運が衰微したが、河鯉が後白河法皇の厚い帰依と庇護をうけ、治承二年（一一七八）現存の金堂が竣工し、現在見る伽藍が整備された。その二年後には法皇長者と称せられたこの地の地頭源頼弘が、広大な山野田畑を寄進した。同年、皇族八条女院の祈願所となり、女人高野の名で世間に知られるようになった。この八条女院の所領はのちに大覚寺統に継がれ、当寺が南朝に由緒をもつようになる。

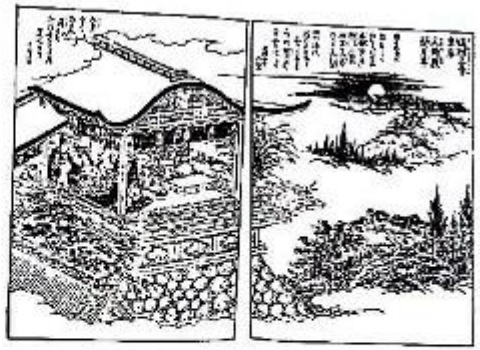
元弘の乱時、大塔宮護良親王の祈願所となる。延元元年（一三三六）十月一日後醍醐天皇は勅願寺とし、「皇統の長久を祈り奉るべし」との綸旨を下した。一時天下を一統した後村上天皇は、西吉野賀名生の行宮から、正平九年（一三五四）この交通至便な地に進出した。摩尼院に御座、金堂（天野殿）を政務所にあて、人質の北朝持明院統の光厳、光明、崇光の三上皇は親王院を行宮とした。

天野酒

室町・戦国時代、歴史の舞台を離れた金剛寺は僧坊酒「天野酒」を醸てた。15世紀前半、一般に出回るようになった天野酒は、京柳酒、奈良酒とともに高級な贈答用として支配階級の間で珍重された。河内国守護畠山氏は毎年天野酒を幕府に献上している。灰酒の名は遠く関東にも聞こえ、『結城家法度』には、客人の時以外に飲んではならないもっともぜいたくな酒の一つとして「あまの」の名があげられている。豊臣秀吉はことのほか天野酒を好み、金剛寺に朱印状を下して醸造に専念すべきことを命じている。

貝原益軒は『南遊紀事』に、「塔頭、酒を醸す。天野酒と云、名酒也」と記した。『河内名所図会』は、「天野名酒」の項に「天野酒。むかしは坊舎にて造り、高貴へ献ず。佳美也」と伝える。西欧で修道院が葡萄酒を造り、わが国では多量の年貢米、広大な僧坊、すぐれた醸造技術をもとにして、寺院が酒造の中心をなしていた。

現在販売されている天野酒は、長野町の西條合資会社が醸造している。さらりとして、ほどほどに甘い酒。「佳美也」と讃えられた酒を、歴史を偲びながら味わいたい。



天野殿観月亭（『河内名所図会』）

コース概観

今回のコースは、泉北ニュータウンの泉ケ丘から陶器山（149・5㍍）に登り、河内ふるさとの道を南進し、女人高野・天野行宮として名高い天野山金剛寺を訪ねる。河内ふるさとの道と名付けられて整備された道は、河内と和泉の国境に沿った天野街道。自然に親しむファミリーハイキングとしておすすめのコースである。

泉北高速鉄道の泉ケ丘駅で下車。南へ出る。バスターミナルの横を通り、陸橋を渡り高台に上がると、近代的な高層住宅群や落ち着いた静かな住宅地を歩きながら、町の息吹を感じながら、さまざまな思いが巡るが、泉北ニュータウンが造成される前の兎の跳ね回る丘陵地帯を想起するのは難しい。

『和泉の伝説』に、高倉寺の東に「梵字の形に凹みたる土塁があって、年を経れども埋もれず、また芝生芝ぜずといふ。これ、この地を、昔、行基菩薩の経を誦しながら、梵字に歩まれた跡といわれてゐる」と記す。

堺市南部の泉北丘陵一帯は、なだらかな起伏の多い地形や良質で豊富な粘土、燃料用の薪という自然条件が幸いし、『日本書紀』崇神天皇条に「茅渟県陶邑」と呼ばれた陶器の主たる生産地であった。その窯は、千基にのぼると考えられ、5世紀から10世紀までの我が国最古最大の須恵器生産地として、広く各地へその製品が流布していったものと考えられている。

陶器山に登る。「東窯跡」、「西陶器」、「窯室」などと、窯業との関連深い名が残るこの地では、時折須恵器の破片を見つけることがある。展望所で休憩。和泉、河内平野の町並み、生駒、和泉、六甲方面の展望を楽しむ。いつもならバスを使う距離を歩いてみると、見慣れたはずの街なのに今まで気が付かなかった小さな間を見つけたり、いわれのある建物やモニュメントが、ふいに現れる。ちょっとした冒険。再発見。歩きだせば今まで見えなかったものが見えてくる道である。

よく整備された遊歩道は、河内と和泉の国境に沿った天野街道。河内ふるさとの道と名付けられていて。とても歩きやすい。道標が完備し、休憩所が設けられ、きつい登りも危険な箇所もなく、ファミリーで森林浴を楽しみながら安心して歩ける。春のころは紅色のモチツツジが咲き乱れる。ゆっくりと休み休み歩こう。

ゆるやかな坂道を下ると大野の集落。牛小屋があり、乳牛が出迎えてくれ、のどかな郊外の里のイメージをもった景色が現れる。左にとり交差点を渡る。右に小さな池がある。家並みが途切れると前方に視界がひらける。岳山、金胎寺山、金剛、岩湧の山々が一望される。右手には堺カントリークラブのグリーンが広がる。

やがて道は山裾を縫うようになる。左に

天野川沿いの水田、右に山裾に開かれた果樹園を見るようになると、下里総合運動場に出る。この地には、かつて広大な養蚕団地が営まれていた。

運動場の南端から道は二つに分かれるがどちらも天野山に通じている。距離もほぼ同じぐらい。やがて天野山金剛寺の駐車場に到着。左に野外広場と鉄筋二階建の天野山会館を見る。歴史のたたずむ濃を楼門へと歩む。たとえ、この天野山金剛寺のいわれを知らずとも、その前に立つだけで私たちは敬虔な気持ちになることができる。先人たちが信仰の象徴とした、そのスケール、装飾に圧倒され、無言に流れる時に歴史の重みを感じてしまう。

どのくらいの志いが、どのくらいの願いが、この建物に寄せられたのであろうか。

陶器山から天野山金剛寺付近略図

そして移ろいゆく四季や年月を、どのように眺め、刻んでいったのだろうか。物言わぬものに問いかけ、反芻してみる。自分の目で確もれたものを探し出してみる。

楼門をくぐると金堂を中心にして多宝塔、食堂、薬師堂、五仏堂、御影堂、観月亭、鐘楼などが建ちならび、南北朝時代に後村上天皇の行在所でもった摩尼院、観音院、吉祥院が残る。豊臣秀頼によって大修理がなされた建物は、平安時代、天朝の息吹を伝え、重要文化財に指定されている。これらの建物は、うっそうとした古松老樹の樹海に包まれて、女人高野とよばれる寺院にふさわしく静かな境内によく調和している。

金剛寺の宝物は、運慶作と伝えられる金堂の本尊大日如来坐像、騎士不動明王坐像、陸二世明王坐像や天野山の自然のことくまことにすがすがしい日月山水図などを始めとする美術品類と、南朝関係の諸史料である。正成の文書をゆっくりと読んでみる。最初は読みづらいけれども読みならうほどに、故人と語ることく、味わい深いものである。

《コースタイム》

南海難波駅（電車30分）泉ケ丘駅（30分）高倉寺4丁（30分）陶器山（1時間）大野（45分）下里総合運動場（30分）天野山金剛寺・天野山バス停（バス15分）河内長野駅（電車30分）南海難波駅（近鉄河内長野駅）

〈費用〉

南海難波駅～泉ケ丘駅	450円
天野山～河内長野駅	300円
南海難波駅～河内長野駅	450円
近鉄阿倍野橋駅～河内長野駅	480円

〈地形図〉 2万5千＝富田林・吉市

〈問い合わせ先〉

天野山金剛寺	0721（52）2046
河内長野観光案内所	0721（55）0100
河内長野市環境経済商工観光課	0721（53）1111
南海総合案内所	06（643）1005

特選コースガイド 11　湖西

丹波高原 芦生原生林に接する
三国岳

初級コース（★　）

出口　憲次

滋賀県（近江の国）と隣接する山系・丹波・若狭・越前・美濃・伊勢・伊賀の国の境には三国と山名のつく峯が六つあり、岳が三つ、山が二つ、峠が一つ。このうちの三国岳、三国峠の二つが湖西、高島郡朽木村に座する。この朽木村の最高峰が三国岳で近江・山城・丹波の境に座す。京都市久多から、美山町由良川大谷からなどの登山コースがあるが、今回は朽木村からのコースを紹介したい。

バスの便が悪いのでマイカーで入る。朽木村市場から江若バス針畑線があるが、平日運行で市場発8時22分には JR安曇川駅からの連絡バスが無い。

朽木村針畑川沿いの古屋集落の秀尻橋の林道入口の広場に駐車し、鎖ゲートの横からこの保谷林道に入る。タニウツギのピンク色が迎えてくれ、しばらくは林道歩き。モチノキ谷へ延びる林道を右に見送り西進すると、谷の左に蔦ツルが巻きついたトチの大木が立っている。ここが林道の分岐点で、朽木村山行会建立の新しい道標が左のロクロベット谷へと導いてくれる。右上に古屋集落住民の飲み水である簡易水道の貯水槽の建物がある。取り入れ口を左に見て林道を南進、右にナメトコ谷を見送ると林道は終わる。水を汚さないようロクロベット谷筋を登ると、右斜面に又道標が立ち、ここで谷と離れる。標高は500㍍位。この先水場は無いのでここで補給しておくこと。雑木林の急斜面にジグザグに作られた道は、朽木村山行会の方が昨年秋から整備された山道で、迷うことなく支尾根の肩にのれ、道幅も広くなり、よく手入れされているありがたい道だ。

府県境の肩の手前に落ち葉の広場があり、右上隅に自然石の〝一石一宝塔〟が立つ。寛政九年七月吉日（1797）と刻まれている。これと同じ形の石塔は、叫び越えや コ坂越え・根来越えでも見かけた。ここが往時の岩谷越えの場所か？

叫び越えより三国岳国境稜線

樹間から日里ケ岳が見え、小休憩によい。ここから県境朽木村側のトラバース道はネマガリ竹も堀払いされ、東面の朽木の山々を眺ながら下るとブナ・ナラの立つ鞍部、笹の広場に出る。ここが岩谷峠らしい。

笹の中、右（西）下へけもの道らしき跡あり、由良川源頭、岩谷に落ちる谷筋と思われる。峠鞍部で標高780㍍位、左上へと県境尾根を登り進む。P941㍍へ入らないように県境尾根道をアップダウンで南進。右側は芦生の京大演習林、広葉原生林樹海の中に青黒く実生の芦生杉がそびえ、大自然の景観が素晴らしい。左は朽木村の植林の山々が展望でき、稜線歩きの醍醐味を満喫させてくれる。P950㍍位のコブを下ると朽木村山行会の道標が立つ下山道との分岐、三国岳へは右の鞍部に下る。この辺り由良川大谷の源頭、三ボケの谷ルートのつめらしく思われるが、笹の密集する藪だ。県境を離れ、最後の登りで2等三角点の標石が立つ三国岳（959㍍）頂上。草付き広場に飛びでる。三角点標石の三国岳は京都府側に座す。展望は東西二方が開け、東方面は長良山系が連なり、遠くかすかに伊吹山から鈴鹿山系が、西側は緑いっぱいの美山町・芦生原生樹海の上に、ブナノ木峠の峯らしきを望観する。食事場所によい。

前回の笹の間を下る道は、京都市久多からのルートでこれも良く降まれている。この久多側も岩屋谷と言われているが、岩畳谷（岩屋）が三つあり、岩屋谷と名づけられたという。谷の周囲は京都府立大学の演習林に組織されている。

下山は元の道標の立つ分岐まで戻り、県境尾根から外れ、植林したばかりの明るい支尾根をP686㍍方向へと東にとる。右の国境稜線が高く遠望かる。この下山道も朽木村山行会が手入れされた道、明るい支尾根の下りは足がひとりでに運んでくれる。

いつのまにP686㍍を通過したのか、針畑川が東西に広がり、その手前に白い林道が真下に見えアッという間に林道に飛びでた。下の林道はツボ谷林道と聞く。朽木村山行会の「三国岳登山口」の道標が立つ。

道標のお陰で気軽に歩けた。下のツボ谷林道は桑原橋から延びている林道。駐車地への近道として、朽木村山行会の方が、林道を横断した向かい側の、杉植林を通ぎた針畑川に丸木橋を架けてくださり、対岸の針畑県道に出られる。ここから駐車場所の秀尻橋までは歩行30分余の距離。桑原橋への林道を迂回すれば小1時間はかかる。40分も短縮でき、朽木村山行会の皆様に感謝あるのみ。うれしい近江側からの三国岳ルートであった。登山好季節は4・5・6月の新緑やシャクナゲの花ときか、10月・11月の黄・紅葉の時期をおすすめする。

朽木村では鳥はウグイス・花は山ユリ・木ではスギを村の象徴としている。

朽木村は二等三角点座の百里ケ岳を始め、2等三角点座では、蛇谷ケ峰・白倉岳・三国岳の三座があり、山屋にとっては味わい深い山村である。（平成7年5月28日歩く）

△コースタイム▽

古屋秀尻橋（1時間）簡易水道槽分岐（1時間30分）岩谷峠（1時間）三国岳頂上（1時間50分）ツボ谷林道登山口（30分）古屋秀尻橋（約5キロ）

△地形図▽2万5千＝久多・古屋

△問い合わせ先▽

朽木村山行会（中野　弘）　0740（38）2019

江若バス　0740（38）2331

朽木村観光協会　0740（38）2397

特選コースガイド㉑

京都北山

京都府の最高峰 皆子山（みなごやま）

中級コース（★★）

稲葉 克巳

山登りをするのにいろいろと目的をもって登るが、そのジャンルに「都道府県最高峰」があるのを知らなかった。

たまたま、山の高さを調べるのに、『日本の山岳標高一覧1003山』（建設省国土地理院発行）を見てそれを知り、京都府の最高峰「皆子山」にもいつか登ろうと考えていた。平成7年4月、目的を達したので、そのコースを紹介したいと思う。

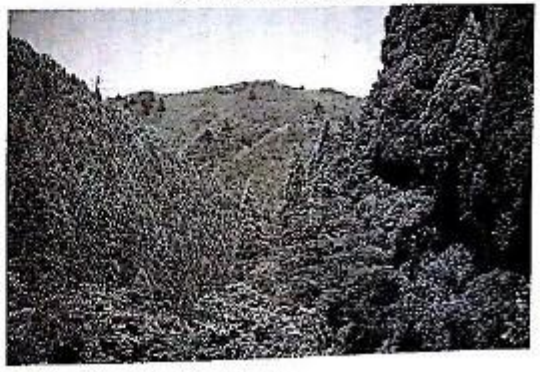
登山口のある集落「平」に入るには、京都市内からは国道367号線を北上する。登美園堅田方面からは国道477号線を西進して、「途中」という集落で367号線に合流する。

平バス停から京都の方へ少し戻って、右下に下る道に入ると、林道のゲートがある。安曇川に架かる橋を渡って林道を進むと、再び橋を渡る。橋から100㍍ほどの所に皆子山への寺谷の道標がある。いったん河原へ下り、手がかりのない岩を登って橋を渡る。橋を渡ると、のっけから3㍍ほどの急登と、左側が崖になっている所があるので、ちょと緊張させられる。そこから、寺谷沿いは「沢ぞいの道」と「まき道」の分岐まで10回ほどの徒渉と沢歩きがあるが、靴をぬらすようなことはない。途中、渡るには危ないような丸木橋（まき道がある）、こわれかかった梯子（背のほい人にはかしつらい）があった。小屋の下を通って少し行くと、「造林地」の看板が目にはいる。看板から1分ほどで、兵庫山岳会の案内図があって、二つのルートが説明されている。右は「沢すじルート」で1・3㌔、1時間。左は「まき道ルート」で2㌔、1時間と書かれている。

私は登りを「沢すじ」で、下りを「まき道」にしようと決め、沢すじルートに入った。「沢すじ」といわれる通り、20回ほどの徒渉と沢歩きがある。途中、沢の中に杉の木が倒れている所があるが、木の下をくぐり抜ければよい。大岩を右から巻いて沢を渡ると、林の中に入るがほどなく沢に下り、沢伝いに登る。所どころに赤と黒のテープがぶらさがっているので心配はない。二股では右の沢に入り、高巻きの道が見つかるまで約200㍍ほど沢の中を歩く。やがて高巻きに入ると、約30度の急登が頂上直下まで続く。登り終わると、クマザサのヤブの中で、「まき道ルート」と合流する。

頂上はちょっとした広場になっていて、

寺谷付近より皆子山



山名標板と3等三角点がある。

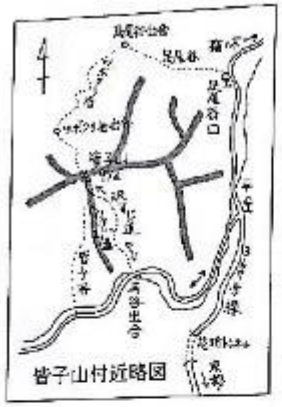
「まき道ルート」は下りに使ったが、ここでは登りとして説明したい。

山岳会の案内図のある分岐から急登すると沢を渡る。渡って10分ほどは沢沿いに登る。沢から離れると、つづら折りの急登と平らな道が交互に現れる。途中、三ケ所ほど歩きづらい所があるので、注意が必要だ。最後の急登が終わって尾根に出るとクマザサのヤブで、高いのは2㍍近くある。10分ほどで沢すじルートと合流する。

皆子山へのルートは四本ある。ここで紹介したのが二本、あと、足尾谷・ツボクリ谷のコースとがあるが、一般向きには寺谷出合からの「まき道コース」をピストンする、ここに紹介したコースがよいと思われる。同じ谷沿いのコースではあるが、足尾谷・ツボクリ谷や皆子谷は急峻で危険な所が多く一般向きではないと考えてよさそうだ。特に、岩や徒渉に弱い方には無理と思われる。

登山時期としては沢歩きで濡れるので、4月～11月くらいまでが良いのではないかと思われる。直射日光にさらされないのと、低山ではあるが沢歩きもあるので、夏も良いのではないだろうか。必携品はストック（急斜が多いので）、スパッツ、雨具（ヤブで濡れるので）などである。

（平成7年4月29日歩く）



皆子山付近略図

◇コースタイム◇

平（30分）寺谷登山口（40分）二股（沢すじ 1時間）皆子山（まき道 40分）二股（30分）寺谷登山口（30分）平

◇交通◇

平までのバスは1日2便しかない。そして、春分の日～11月30日は毎日運行だが、それ以外は土曜と休日のみの運行になる。

出町柳発 7・45（梅の木行き）平着 8・48
平発 17・24（出町柳行き）出町柳着 18・24

◇費用◇ 出町柳～平 740円

◇地形図◇ 2万5千＝花背 5万＝北小松

特選コースガイド③

湖北

2等三角点のある山
三重岳と大御影山

上級コース（★★★）

山形　歳之

三重岳

湖北の箱館山スキー場の奥にある三重岳は「近畿の名山150」（本誌第92号3・4月に収録）にもとり上げられた山だが、登山道はないに等しい。数少ない登頂記録を見ても、残雪期のものか沢をつめたもので、技術を持たない者では無理のようだ。無雪期に登った岳友達の話では、藪漕ぎはさけられないという。河内谷林道の本谷橋からのルートが一番短時間で登れそうなので、このコースを選んでみた。

今津町の箱館山スキー場から奥に延びる林道は工事中で車は通れない。東側の酒波谷の林道に入る。この谷の上部山稜一帯が開発され、公園や種々の施設が建設中で、林道も舗装されている。この林道は箱館山北側の処女湖を迂回し、やがて箱館山からの林道との合流点で舗装が切れる。石田川ダムへの角川林道も工事中で通行止めになっていた。河内谷の林道は未舗装で、道が悪いのでタクシーは入ってくれないだろう。

河内谷林道に入って行くと、林道が谷と離れて右の岸に急登して行く所の橋が、本谷橋である。橋の手前に二、三台なら駐車可能なスペースがある。

橋の所には、何一つ標示は無く、テープの一つもない。橋から上流を見ると沢の左岸に登山道が上流に向かって延びている。他に道が見あたらないので、この沢沿いを上流に辿ってみると、200㍍ばかりで沢に降りた。ここにテープが付けられていたので渡渉点らしいが、沢を渡った地点からは踏み跡も人の足跡さえ見つからない。もう一度橋まで引き返して山側を調べたが、登山道らしき道は見つけられなかった。

地図をよく見ると、先程の沢を渡った所からの尾根が山頂に一番近そうなので、その尾根を登ることにした。疎林の中、藪は無く歩きやすいし、所どころけもの道もあり、見通しも悪くないので尾根の稜線を外さぬように急登して行く。この日の天候は小雨が降ったり止んだり、山頂はすっぽりと霧に包まれていた。やがて山頂台地の東の一隅に登りつく。隠石を出して山頂の方向を確かめ、潅木が幹を大きく横に張る台地を木をまたいで進む。初めて赤いテープを目にする。帰り道を見失わぬよう確認しながら進むと、やがて稜線にはっきりとした登山道があった。

この道を北に辿って行き、少し高くなった小笹の切り開きが三重岳（977・1㍍）の山頂であった。

二、三坪の広さの中に2等の標石があるだけで、山名標示一つなく、人の気配が感じられない山頂であった。眺望は良さそうだが、今日は雨にけぶって何も見えない。

下山は稜線の道を辿ってみる。良い道なのでどこに通じているのか知りたかったのだが、道は南に下りだすといっしか不明瞭になり、潅木帯の中に消えてしまった。たくさんテープが見られたが、どうやら南の稜線を目指しているらしいので引き返す。もう一度別まで登り直して本谷橋に延びる尾根を急下降した。登った尾根の一つ南の尾根に入っていたが、こちらもけもの道が所どころあるくらいで藪はなく歩きやすい。ただただ尾根上を外さず下る。眼下に林道が見えてくると、最後は植林帯になり藪が現れる。藪の下に植林道の跡が認められ、何と本谷橋の橋際に降り立った。

このルートだと沢を渡らず橋も渡らず橋際から尾根に取りつくことができる。しかしこの登り口は藪に包まれているので、初めて行った人が取りつくのはむつかしいだろう。

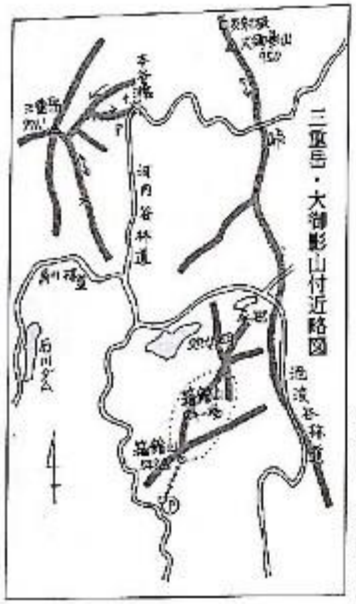
三重岳にやはり熟達の人以外は入れない山である。

大御影山

本谷橋からさらに林道を峠に登りついた所が大御影山の登山口になる。駐車場はないが道端に駐車できる。こちらは良い道がついていて稜線の道をだらだらと辿って行くと、1時間足らずで簡単に大御影山（950・0㍍）の山頂に立てた。何の特徴もない稜線の一角という所だが、3等三角点と山名標示板が設かれていた。周囲は潅木が茂り眺望はあまり良くないが、北には反射板が立ち、一面の笹が山を埋めていた。

登山口の林道の峠から南の尾根にも道が整備されていて、酒波谷からの林道を横断して箱館山に戻ることができる。

大御影山だけの場合は峠までタクシーが入らないかもしれないので、酒波谷林道の平流で下車して、東に分岐する新しい林道を100㍍ばかり入った所が登山口になる。



◇コースタイム◇

三重岳

本谷橋（1時間40分）三重岳（1時間30分）本谷橋

大御影山

平池口（1時間35分）峠登山口（40分）大御影山（35分）峠登山口（1時間15分）平池口

◇地形図◇2万5千＝熊川

5万＝熊川

近畿の山—七賀出版—

東海自然歩道30選【関西版】
大阪社会人山岳部 1,400円
京阪神さわやかハイキング
大阪社会人山岳部 1,400円
京阪神ベストハイク　渓谷を訪ねて
岩本義次　1,500円
京阪神　花の山旅
大阪社会人山岳部 1,500円
京阪神ベストハイク＆キャンプ30
友保孫雄　1,500円
京阪神ベストハイク　六甲の山
小林敏一郎 1,500円
近畿の山グレード別ベスト30
西村弘美　1,500円

〒530 大阪市北区堂島浜4-15-10 フニックスタワービル12F
TEL06-314-2366 FAX06-314-3025

三重岳の三角点

特選コースガイド㊹　四国

祖谷連山の展望コース
矢筈山から烏帽子・寒峰

中級コース（★★）

上村　操

宝塚神からは高速船で徳島に渡るほうが早くて便利であるが、早朝徳島着という、こちらの山行の都合にうまく合う便はない。ぎりぎりの時間と費用を優先して東神戸港発3時30分のフェリーで行く。（徳島港は大阪南港に寄港。出発時間は同じ）

5時40分には徳島港に着くのでタクシーで JR 徳島駅へ行く。6時14分発の池田行きに乗り換え貞光駅で下車。ゆ約しておいたタクシーで石の小屋まで入る。一宇村で剣山方面と分かれ、最奥の集落、大地区を通り抜けると、舗装が切れ砂利道となる。すぐ左に山頂に登山口の道標がある。小さな道標なので見落とさないよう注意すること。ここでタクシーを捨てる。

細い登山道はすぐ上の廃屋が目印である。心細いような草むらの登山道も次第にはっきりして植林の中となる。

やがてチョロチョロと流れる小さな沢筋になり、二、三軒の廃屋があり、集落時らしき所に出る。壊れかけた家の軒下に矢筈山登山道の道標がある。植林の中のしっかりした道を進んで行くとやがて石登神社に導かれる。神社は広い台地状の林の中にあり、村の人達の信仰の篤さを感じさせていた。登山口からここまで1時間弱。

登山道は神社の右横から登っており、一変して植林から自然林に変わる。始めは緩やかで歩きやすいが、ブナ林になってからは急登が続く。それも一段落した頃稜線に出る。ここで右、見返峠、火打山からの縦走路と合し、左をとって石室山に向かう。

気持ちの良い尾根近くからは、雲海の上に山また山が幾重にも重なって見え、巣絵のように美しい。矢筈山を見ながらのお気に入りコースだ。

剣塔石を通ぎると石室山（1836m）はすぐである。そのまま左の縦走路に進まずぜひ山頂に立ち寄ってほしい。広々として眺望も抜群でこつに気持ちの良い山頂である。

石室山からはいったん下るが、それもわずかで直の渡るコルに着く。西に水場がある。ここから矢筈山への道中は、笹天があったりして、歩きづらい所もあるが、一本道で迷う心配はない。植生がウラジロモミやツツジに変わると、急登をワンピッチでひょいと矢筈山（1848・5m）の山頂に飛び出る。

石室山から見た矢筈山

その先に西熊山や天狗塚が展望できる。そして西の落合峠方面は、明日の縦走路の行く手に烏帽子山、寒峰と、連なるもののない360度の大パノラマについ長居をしてしまう。

山頂から東方へは剣塔のマッターホルン・黒笹山への縦走路が分かれているが、次の機会にして今回は落合峠への道をとる。

ここからの下りは歩きやすいとは言えないが、しっかりした踏み跡があるので心配はいらない。頂上からすぐの岩は左側を巻き、急下降が終わると巻き道となり、深い笹の中を進む。赤いビニールテープもあり、安心して歩ける。

サガリハゲ山の分岐を過ぎ、しばらく進むとススキの原の広々とした明るい落合峠の平坦道に入る。ここから近いように見えるが、落合峠までは往復時間がかかる。

四国の中でもこの落合峠の人気は高く、車でここまで登って来る人が大勢いると聞く。今日の宿は平道をまたいで南へ5分程下った所の落合峠避難小屋である。水は小屋の前のパイプから流れている。ブロック造りの古い小屋だが、十分使用出来る。まず昼食をしてから寝場所を確保しよう。

ここで下山する人は、前もってタクシーを手配しておけばよい。落合峠から30分程下った祖谷のかずら橋付近には民宿や旅館がある。

さて落合峠では明日の縦走路を確認しておこう。広い峠なのでガスった時に迷いやすいので注意すること。

翌朝は早く出発したい。昨夜はずいぶん冷え込んだと思ったら、朝起きると薄暗らしい霜氷だった。

小屋から10分ほど登り返して落合峠に戻り、西の縦走路を行く。笹のスロープの広がりが何とも言えない。四国笹は丈が短く足首が埋まる程度で、道はきれいに刈り込んである。

40分で3等三角点の1683・0mピークに着く。振り返ると、夜が明けたばかりの雲海の上に昨日歩いた矢筈山をはじめ、祖谷の山々が黒く浮かび、何とも表現のし

登山用品専門店
汗対策のザックが
できました。
IMOCK
KOBE
神戸ザック
パンフレット希望の方は250円同封して下記まで。
神戸市長田区大橋町9丁目3－1
〒653　TEL（078）621－5851
FAX（078）621－3528

縦走路より前烏帽子を振り返り見る

ようのない美しさにしばし見とれる。

この先小さな登り下りが笹原の中に続くが、ここは一昨年風倒の山岳コースであったため、道が整備され、とても歩きやすくなっている。これもこの年ぐらいで又すぐに元の自然に戻ってしまうことであろう。急な下りでロープがあるあたりからブナ林が現れる。樹林が切れて再び笹原の急登を頑張って登りつめたピークが前烏帽子で道標が立っている。

ここにザックをデポして烏帽子山をピストンしてこよう。往復一時間半程かかる。

烏帽子山へは踏み跡程度の道となり、笹もかぶっているが、テープがしっかりあり迷うことはない。ブナ林も素晴らしく静かな山域で短いコースながら手ごたえのある山である。特に頂上西端は断崖絶壁で登れないため、回り込んで15分程は滑木につかまっての急登である。3等三角点（1669・9m）の頂上にはベニドウダンやミツバツツジ、カエデ等の紅葉が美しい。帰りは二ケ所、間違いやすい所があるので赤テープをしっかり確かめながら元へ戻ろう。

前烏帽子からは三、四のコブの先にラクダの背のような寒峰を眺める。先が長く感じられるが快適な道なのではかどる。前烏帽子から2時間もたたないうちに奥の井への分岐を過ぎ、5分程の緩やかな登りで寒峰（1604・6m）の頂上に達する。

縦走最後のピークで時間の許すかぎり楽しむとよい。きっと満足してもらえる豪華なコースであったと確信する。

奥の井への分岐まで戻り、稜線から離れ、植林の中の暗い道をじぐざぐに奥の井へ下る。道標に導かれて林道に出る。舗装道になって住吉神社の前を通り、下湯バス停へは集落の人に近道を尋ねながら下って行くほうが間違いもなく、時間のロスも少ないでしょう。

15時56分発の阿波池田行きのバスに乗れば、JRを乗り継ぎ新幹線新大阪駅に21時頃帰着出来る。

（平成5年1月と11月・平成6年10月歩く）

△コースタイム▽

（一日目）JR貞光駅（タクシー50分）石ノ小屋登山口（55分）石堂神社（1時間50分）石堂山（1時間35分）矢筈山（2時間30分）落合峠（5分）落合峠避難小屋（30分）（二日目）避難小屋（10分）落合峠（1時間30分）前烏帽子（40分）烏帽子山（40分）前烏帽子（1時間40分）寒峰（1時間40分）住吉神社（1時間20分）下湯バス停

△地形図▽2万5千＝阿波古見・京上・阿波中津

昭文社＝「51四国剣山」

△問い合わせ先▽

剣山タクシー　0883（63）2055

四国交通バス　0883（72）1231

落合峠避難小屋（東祖谷山村役場）

0883（88）2211

＊小屋に泊まるのは10月までがよい。11月に入ると寒くなる。

連載

山岳夜話（第11回）

小泉誓純

水上に咲いた徒花（六）

新幹線の駅まで彼女を見送ることにしたが、あべの橋経由で新大阪駅へ行くのは、つまり大阪市内を通るのは、ぼくにとって“危険がアブナイ”という点で意見が一致して、鶴原神宮前で乗りかえ、京都駅から見送ることにする。

「御世話助という所を、あなたと腕を組んで歩いてみたいけど、永遠に実現しそうにないね」

「ハハハ、夜遅くなら、まあ大丈夫だと思うよ」

京都駅に近づくにつれて、彼女の心は変わってきた。今日は京都に泊まって、明日帰ろうかな……などと言う。

「あなたは今日帰らなきゃいけないの？」

「……必ずしもそうではないが……明日の朝までが限度だなあ……午後に来客のアポイントがあるから、遅くとも一時ごろには会社へ出たいんだ」

「家のほうも大丈夫？」

「明日は予備日になっている」

「じゃあ、今日は京都に泊まれる？」

「……うん。……初めて少しはマシなホテルに泊まるとするか。会社には、夕方にでも電話を入れておくよ」

こんなことを言ってしまった自分を、もう一人のぼくが嘲笑した。意志の弱いヤツだなあ、おまえは——。

「よかったア。……ごめんね、お引き止めしまして。でも、そんな贅沢はしないでェ。わたしはビジネスホテルでいい」

結局、ビジネスホテルの上等迎りにする。

忍び逢い

早くとも梅雨が明けて夏山シーズンに入るまでは、逢えないだろうとお互いに思っていた。彼女には家を空ける大義名分が無いし、また実際この時期には、まともな山行ができないからだ。そのうえ、ぼくはかなりの仕事を抱えていた。

しかし、その機会は思いがけなく早くやって来た。寮生活をしている長男と二人で、急に九州への短い旅に出かけることになったからだ。

鉄道写真を趣味としている彼の目的は、肥薩線の人吉から分岐している湧別線で、列車の走行写真を撮影することだった。近々に第三セクターになるからだとのこと。これでぼくに九州へ出かける名分ができた。そしてわずかばかりの時間をひねり出した。

西鹿児島行きの寝台特急で出かけて、撮影のあと、人吉温泉で一泊し、翌日は都城、宮崎、大分を経て小倉へ、ここから息子は寝台特急で福岡へ帰るのだが、ぼくは博多へ向かった。

ぼくは“急に思い出して、博多へ単身赴

任中の友人を訪ねることにしたのである。

「だから今日は博多に泊まって、明日の晩に帰る。おまえは一足先に帰ってくれ」

「えーっ？　ほんまかいなあ。自分だけ、何かええことしに行くのと違うか？　ハハハッ」

「バカ言うな。おまえと一緒にするな」

「それにしては、うれしそうな顔してるでえ」

「フフフッ、そう見えるか？　男はだまってサッポロビールだ。これで小倉で一杯飲んで帰れ」

ぼくは金二万円也の〝手切れ金〟を渡した。

その夜は博多駅近くのビジネスホテルに泊まった。彼女とは、明日の午前11時に駅で逢うことになっていた。

彼女は、ぼくが二ヶ月遅れの誕生日祝いとして、京都駅前のデパートで買った、小さなダイヤ入りの金の指輪とブラウスを身に着けていた。

沢登りの旅途の最後の夜に、京都で夕食をとった時、彼女は小箱を開けて、ぼくにそれをはめてほしいと言った。そしてぼくは彼女の右手の薬指にはめた。買う前に予算の限度を告げてのことではあったが、彼女自身が選んだ物なので、大層気に入っているようだ。そして彼女は最初、もったいないから要らないと遠慮したプレゼントでもあった。ただし、ブラウスはぼく自身のセンスで選んだ。

昼は、彼女の中華料理好きにつき合うことにする。

近々に、小学校の五～六年生の時のクラス会を、今春退職した担任の先生も迎えて開こうということになり、幹事三人のうちの女一人として打ち合わせに出ることになっているが、その時にこのブラウスを着て行くつもりだった。でもあなたに一番先に見てもらえることになってよかったとのことである。

夏用の着物は、浴衣は別として、持っていないから約束を果たせなかったと言いながら、彼女は数枚の写真をぼくに手渡した。

今年の四月にいとこの結婚式があって、その時のものだと言う結婚式姿の写真と、別の時に自宅で撮ったと言う、髪を垂らしたままでしゃぶい柚にかわいい感じの名古屋帯を締めた姿のものだった。

その写真によって、ぼくは初めて彼女の両親と兄の姿も見た。

「もらっておいていいのか？」

「うん。でも家には置かないでね」

「うん。会社の鍵のかかる引き出しに入れておくよ」

「わたしも、あなたの手紙や写真や借りている本などと……ウフッ……この前あなたと山へ行く時に買った下着類もみな一緒に、部屋の机の鍵のかかる引き出しに隠してあるの」

「つまり、目頭はそんな下着類を着けていないということだな？」

「そりゃそうよ。そんな物が干してあるのを母に見られたら、何と思われるかわからないもの」

「じゃあ、それはどうして乾かしたんだ？」

「わたしの部屋で干して、乾くまでは中からロックして、わたしもずっとそこにいたの、外からはロックできないから」

「ハッハッハッ、ご苦労さん！　世の中にはいろんな苦労があるもんだなあ。……それにしても、オレの写真は若い女性の下着なんかと同居させて頂いて、幸せと言うべきか惜けないと言うべきか……」

「アハハッごめんね。ほかに安全な隠し場所が無いんだもの……」

「マァ、仕方ないか――」

「今日はまた別の新しいのを買って持って来たのよ。どんな色だと思う？　ウフッ……」

「フフフッ、キミは変わったことを口にする女だねえ」

「だぶん女じゃないのよ。男の学校みたいな所にいたから。でも、好きになってしまったものは仕方がない。でしょ？　たとえ女でなかったとしても、ウフッ」

「ハハハッ、そもそも女子大を落ちてキミんとこの学校に受かることからして変わってるし、キミんとこで文学部を落ちて政経に受かるのがまた変わってるよ。一応は明治以来の老舗学部にね。……ところで、今日はシュバルツ（黒）辺りか？」

「アハハッ、ブーッ、残念でしたッ。あなたは黒が好きなの？」

「女によりけりだよ。キミには似合いそうにない」

「わたしもそう思う。色っぽい人でなきゃね」

「じゃあ、のちほど実地検分といこう。まずはしっかり飲んで食べろよ。市内見物を兼ねて、感じの良さそうなホテルでも物色しよう」

「ウフッ……」

中華レストランを出ると、彼女は腕をからませてきた。京都では夜にしかしなかったことだ。お互いにとって安心できる土地だからなのだろう。

「あなたの方から、こんなことしてくれたことないね。いやなの？　こんなことするの」

「いやと言うよりも、一度もしたことがないから　……されたことはあるけど。痛いっ！」

「奥さんにもしたことないの？」

「うん」

「されたことはあるんでしょ？」

「うん。遠い昔にね」

「……あなたはオール・オア・ナッスィングなのね、ウフッ」

「ハハハ、何事にもそういう傾向があるようだねえ、確かに」

ラブホテルに入ると、薄暗い廊下に各部屋のスライド写真があり、その中から好みの部屋を選ぶことになっていた。彼女に選ばせると、いかにも山屋らしく、丸太造りのロッジ風の部屋を選んだ。

部屋は確かに本物の木で内装されている。そして暖炉には、赤々と燃える（？）電灯の色があり、その前には、がっちりとした木製の素朴な三点セットのほか、なんとスイスの国旗が立てられていて、苦笑した。

「大使館が怒るぜ」

「ハハハ、ほんとだよね。なれど大使館員は、こういう所にはお出ましにならないんじゃない？」

「ハッハッハッ、言えてる」

「でもまじめな話、いい部屋だと思わない？」

「うん。なかなかのもんだ。いいねェ。枕許のスイッチを入れてみるよ。ヨーデルでも聴きたい気分だ。バロックでもいいぞ」

彼女は秋に見合いをすることに決心したと言う。それも二人と、二人とも、山登りには縁のない人だとのことである。そして近々二人分の釣書きのコピーを送るから、見てヒントを与えてほしいと言った。

「あなたにこんなことを頼むなんて、ごめんね。でも、わたしはあなたの意見が一番知りたいの」

「いや……そうか。……それはいいことだ。真剣に拝見するよ」

この日、彼女はぼくの思いもよらぬ物を持って来ていた。

中学校の一年生の時に、学校を通じて何かのコンクールに出した作文が新聞に掲載されたとのことで、その切り抜きと生原稿。

そして高校時代の書道の作品漁り。彼女は数名を専攻したそうだ。このほか、大学時代の古い日付の無効戸籍証明書だった。

「このころは、まだかわいい女の子らしいことを書いていたでしょ？」

「フフフッ、かわいい観察眼だねえ。それに、文章もしっかりしている。オレなんか小学校時代は特に作文が苦手で、遠足の紀行文を書けと原稿用紙を配られたら、上手下手以前の問題で、一枚目を書き終わらないうちにいつも時間切れで、完成して提出した憶えがないよ」

「アハハッ、ほんとに？」

「こんなカッコの悪い嘘は言わないよ。ハハハ」

「信じられない、ハハハッ」

「高校時代にラブレターを書くようになってから、必要にせまられて少し上達したというところだ。電車の中で知り合った私立の女学校の子にね。もちろん彼女からもよく届いて、映画にも一緒に行ったよ。あの女学校には美人が多かったなあ」

「ウフッ、あなたの時代にしては、おませだったのね。それに、あなたは元来血が熱いのよ。反面、あなたが本気で怒ったら恐いだろうね」

「ハハハ、どうですかねぇ。……こんな変体仮名と今のキミのペン字は、比較のしようもないなあ。同一人物の字だとは思えないよ」

次は単位成績証明書をじっくりと眺めて、ぼくはニヤニヤしながら言った。

「まあ、ご専門の科目につきましては、敬意を表してコメントを差し控えますが、キミの英語とドイツ語が驚くほどねえ、フッフッフッ……じゃあ、送ったコピーをもう少し正確に解釈してほしかったなあ。こっちは会話に弱いから、俺そうなことは言えないけどね」

「ウフッ、実はわたし、三年まで英語をやってたの」

「ハハハッ、落としたのか。それはまたご苦労なことだったなァ。山へばかり行ってたバチが当たったんだろ？」

「でもドイツ語は、正味当たったのよ。好きだったし、いい先生だったし」

――こんな物をいろいろと見せる気になったのは、彼女が、ぼくとの別れがそう遠くないと見込んで、ぼくの思い出の中により多く加えておいてほしいという気持ちからなのかな？　――ぼくは話しているうちに、だんだんとそんな気がしてきた。

そしてこんな話が一段落したときに、最長一ヶ月以内の予定でヨーロッパへ行こうと思っている、と彼女は切り出した。さらに、団体ツアーにではなく、パーソナルでと言う。

――山岳と結婚できる見込みはないから、たとえ新婚旅行でヨーロッパへ行くことになったとしても、アルプスのハイキングやトレッキングをするわけにはいかないだろう。ならば今シーズンに行っておかなければ永遠に、あるいは子育ての終わる年ごろになるまでは行けなくなる可能性が高い。このほかにも、旅の間に自分の気持ちを整理したい意味もある――彼女はおよそこんなことを言った。

「そうか……いつごろ出かけるつもりなんだ？」

「観光客が少なくなる八月末くらいからがいいんじゃないかと思ってるんだけど……九月末までなら低いコースに雪は来ないだろうし……」

「そうか……」

やはりぼくの予感は当たっていそうだった。――彼女はぼくとの決別の意思を固めようと努めているんだな――。じゃあ、オレも腹をくくらなければ――。

「それはいいことだ。行ける時に行っておくべきだよ。スイスとフランス辺りへか？」

「フランスへは行かない。シャモニくらいへは行くかもしれないけど。フランス語は簡単なあいさつくらいしかできないし、フランス人は、英語のできる人でも英語を使ってくれない人が多いと聞いてるから。……スイスと西ドイツ辺りにしようと思ってるの。それも大都会へは行きたくない。必要上、通過はしても」

「……わかった。……じゃあ、オレが往復の航空券を買ってやろう」

「いいよ。そんなことしてくれなくって」

「オレがそうしたいんだから、遠慮するな」

「まだそれくらいのおカネはあるからいい」

「それはわかってるが、それに現地での費用にまわせばいいじゃないか」

「ほんとにいいって……」

「お守り代わりに持って行け。これは命令だ」

「……」

「わかったな？」

彼女は目を伏せて、低目で小さくうなづいた。

「できる限り大阪発着で買って、オレが送迎してやる。まさか親が大阪まで出て来るとか、見送りが東京から見送りに来ることはないだろうなあ」

「大丈夫だと思うけど……見送りは絶対に来ることはない。そんなことしてくれる人間じゃないから……」

「……オレも一緒に行けたらいいんだけどねえ。宮仕えの身では、アコのようにはいかないよ」

「あなたはまったく行く気がないような言いかただったから、言いそびれてしまってたんだけど、わたしも、せめて最初の10日ほどだけでも、あなたと過ごしたいと思ってるんだけど。……炊事設備や食器類行きの部屋も借りてみたりして……」

「魚の腹わたを出す練習もお済みになったことだし、さぞかしオイシイ料理を食わせてくれることだろうなあ。塩っぽいスープとか焦げたムニエルとか、フフフッ」

「ウフッ、長崎へ帰ってからは、料理も手伝ってるのよ、本を見ながらだけど。下宿代払ってないから申し訳ないと思って。もちろん掃除もよ」

「じゃあ、学生時代の元セミプロバーテンが腕前を検分してやろうか？　ハハハ」

「ウフッ、あなたなら、今でも似合いそうな面があるわよ。……あなたは同年代の人と比べたら、ずいぶん遊んだ人だと思う。会社で見てきた人とは全然違うもの」

「山でばかり遊んでおりましたがね、ハイ」

「雪山じゃない白い山にもよく登ったりしてッ？　ウフッ」

「ハハハッ、よくも言ってくれたもんだなあ。……ところで、10日ほどねえ……行きたいのは山々だが……往復を入れると約二週間になるからなあ……」

「駄目なら、往復を入れて10日ほどでもいいけど……」

「八月の中旬になら、それくらいは何とでもできるけど、人が多すぎるだろう、知ってる日本人に出くわす率も高いだろうしねえ」

「……そのころは、わたしの病気とも重なりそうだし。……山歩きはできるけど……」

この日に結論は出せないので、とりあえず八月末か九月初めに出発するための一人分の航空券をぼくが手配することにして、もし一人で出発することになった場合でも、あとで追える可能性もあるのだから、その場合は現地からの連絡を密にするように言って、博多駅で西と東に別れた。

（次号へつづく）

沿線ハイキングガイド

近鉄　京阪　阪急　南海　神鉄　山陽電鉄　叡電　京福
公園ハイク　歩け歩け大会　文学散歩　歴史散歩　その他

近鉄

▽万歩ハイキング・てくてくまっぷ㊵奈良・高取コース「三輪神社から高取城跡へ」　9月10日(日)集合吉野線壺阪山駅前8時40分（コース）壺阪山駅―清水谷―壺阪寺―五百羅漢石―高取城跡―橿原神宮前駅（約11キロ）会費徴収、保険料は別途、参加自由、天王寺事業06（624）0382～3

▽読売ファミリーハイキング・てくてくまっぷ㊶高城の道コース「高鳴神社から一言主神社」　9月15日(日)集合御所駅怒海駅前9時20分（コース）怒海駅―風の森―高鳴神社―住吉神社―一言主神社―九品寺―近鉄御所駅（約10キロ）会費無料（バス代大人460円小人230円は別途）参加自由、天王寺事業06（624）0382～3

▽文学散歩・歴史街道を行く（古代）「初期古代王権の道―朝倉」　9月17日(日)集合大阪線朝倉駅前10時（コース）朝倉駅―玉列神社―池本―朝倉三笠宮池―舒明天皇陵―鏡女王墓―大伴皇女墓―石位寺―朝倉駅（約9キロ）会費300円参加自由、講師奈良女子大学教授千田稔氏、上本町事業06（775）35566

▽万歩ハイキング・てくてくまっぷウォーキング㊷敦盛ハイキング「歴史街道をたずねる・山の辺の道コース」　9月23日(日)集合大阪線桜井駅北改札前8時～10時（コース）桜井駅―金屋の石仏―大神神社（三輪明神）―檜原神社―長岳寺―念仏寺―竹之内町環濠集落―石上神宮―天理駅（約16キロ）会費無料、参加自由、上本町事業06（775）35566

▽ほのぼのツアー「吉野山散策と温泉目当ての旅」　9月24日(日)集合あべの橋駅東口テレメイトセンター8時40分（コース）あべの橋駅―吉野駅―蔵王堂―吉水神社―吉野山温泉湯元宝乃家（昼食）―温泉谷―吉野駅―あべの橋駅（雨天決行）採勝はオプションとなります。会費大人5250円小人4220円、定員100名先着申し込み制、あべの橋駅東口テレメイトセンター06（624）0026

阪急

▽日刊スポーツファミリーハイク「北摂初合掌谷・妙見山上コース」　9月10日(日)雨天中止阪急箕面線石橋駅9時40分（コース）石橋駅―合掌谷―妙見山上―妙見口駅（約12キロ）中級向）阪急電鉄山の係06（373）53226

京阪

▽スポニチファミリーハイク「鷲峰山・釜宗明神社コース」　9月10日(日)雨天中止集合（受付）宇治駅10時（コース）宇治駅―宇治田原工業団地―山道入口―金胎寺（山坊めぐりはいたしません）―鷲峰山頂上―味道出合―釜宗明神社―大福（昼食）―宇治駅（約10キロ）京阪電鉄事業部06（944）25525

▽比良連峰アタック「地蔵山・釣瓶岳コース」　9月24日(日)雨天中止集合（受付）JR近江高島駅10時（コース）近江高島駅―畑―ヨコタ峠―地蔵峠―地蔵山―イクワタ峠―釣瓶岳―細川越―イブルキのコバ―八雲ガ原―山上駅―山頂駅―比良駅（約8・5キロ往復向）京阪電鉄事業部06（944）25525

▽比良連峰アタック「ダケ道・武奈ガ岳コース」　10月15日(日)雨天中止集合（受付）JR比良駅9時50分（コース）北比良駅―イン谷口―（ダケ道）―北比良峠―イブルキのコバ―武奈ガ岳―細川越―広谷―八雲ガ原―山上駅―山頂駅―比良駅（約10キロ往復向）京阪電鉄事業部06（944）25525

▽スポニチファミリーハイク・東山三十六峰シリーズ㊷「瓜生山・吉田山コース」　10月29日(日)雨天中止集合（受付）叡山電鉄八瀬遊園駅10時（コース）八瀬遊園駅―赤山神院―寂光院跡地碑前―特仙窟前―興全不動院―瓜生山―北白川山―銀閣寺前―真如堂（釜茹山）―吉田神社（解散）―山町御駅京阪電鉄事業部06（944）25

26

南海

▽朝日ファミリーハイキング「九度山から丹生神社へ」　9月17日(日)雨天中止集合高野線九度山駅前9時30分（難波発8時45分高野山ゆき急行で）（コース）九度山駅前―二石橋―丹生神社―大師記念―学文路駅（約10キロ）参加自由、南海総合サービスセンター06（643）1005

▽南海沿線名所探訪「紀淡海峡に浮かぶ友ケ島の魅力を探る」　9月24日(日)雨天決行・荒天コース変更集合加太線加太駅前10時（コース）加太駅―加太港（船）友ケ島野奈浜桟橋―池尻浜―砲台跡―コウノ巣山展望台―加太港（船）淡島神社―加太駅（16時(解散)）参加自由、南海総合サービスセンター06（643）1005

▽登山ヘルシーハイク「天見から根古峰へ」　10月1日(日)雨天中止集合南海線天見駅前8時40分（コース）天見駅―井関谷―根古峰―越ケ滝―カラ滝―高山森林公園―紀見峠駅（約13キロ）参加自由、南海総合サービスセンター06（643）1005

▽朝日ファミリーハイキング「峠越えハイキング」　10月15日(日)雨天中止集合多奈川線多奈川駅前9時40分（難波発8時12分和歌山ゆき急行でみさき公園のりかえ）（コース）多奈川駅前―東畑―甲山―振飛峠―木ノ本八幡宮―八幡駅（約12キロ）参加自由、南海総合サービスセンター06（643）1005

＊右南海電車主催の当日の徒行・中止の問い合わせは難波駅駅長室（6時30分から）06（631）1351へ

京福

▽京福ハイク「火伏せの守護神・清滝権現宮山・月輪寺コース」　10月1日(日)雨天中止集合京福電車嵐山駅9時（コース）嵐山駅―渡月橋―渡月橋―水尾別れ―愛宕神社―月輪寺―梨ノ木谷出合―滝滝（一般向）京福電鉄鉄道管理課075（801）5315

山陽電鉄

▽山陽ハイキング「お旅山・麻生山（小倉十山）ハイク」　3月10日(日)集合姫路駅10時（コース）表鹿公民館―お旅山―麻生山―白鷺城（約10キロ一般向）山陽電車ハイキング係078（941）6915～6

▽山陽ハイキング「播州・松めぐりハイク」　9月24日(日)集合別府駅10時（コース）なかじま公園―住吉神社（手枕の松）―浜宮天神社（お手植の松）―尾上神社（尾上の松）―高砂駅（約11キロ家族向）山陽電車ハイキング係078（941）6915～6

▽山陽ハイキング「御津町イモ掘りハイク」　10月8日(日)雨天は15日(日)に、集合山陽網干駅10時（コース）網干駅―R250―岩見―成山新田―高岡神社―龍門寺―大覚寺―山陽網干駅（約10キロ家族向）山陽電車ハイキング係078（941）6915～6

神戸電鉄

▽丹生山田の秋まつり「六条八幡宮神幸祭見物ハイク」　3月15日(日)集合鈴蘭台駅10時10分（コース）鈴蘭台駅―長坂山越―六条八幡宮（神幸祭）―妻谷駅（約8キロ）一般向）神鉄観光事業部078（521）0321

▽秋のみのりを祝う「金心寺と天満神社秋まつりハイク」 10月1日(日)集合フラワータウン駅10時20分(コース)フラワータウン駅―三田谷公園―金心寺―天満神社(秋まつり)―三田駅(約7㌔)家族同 神鉄観光事業部078(521)0321

▽神鉄・山陽合同ハイキング「石切道と短葉谷短葉狩りハイク」 10月29日(日)集合深田池公園(阪急御影駅北約100㍍) 9時30分～10時(コース)阪急御影駅―深田池公園―白鶴美術館―石切道―波豆台―紅葉谷道―有馬温泉駅(約13㌔健脚向) 神鉄観光事業部078(521)0321

奈良交通

▽万葉の大和路を歩く会「豊浦瀬道から都祁野へ」 3月10日(日)集合JR・近鉄桜井駅北口9時30分(コース)桜井駅―橿原町八滝の文殊院―長谷寺中央の天神社―一本松―都祁水分神社―小倉田安万呂墓―三陵墓―桜井駅(バスツアー)講師甲斐学院同校教諭山田英正氏、会費570円(会員500円)

＊参加申し込み制10日前までに往復はがきで〒633奈良市大宮町1丁目1の25奈良交通「万葉の大和路を歩く会」宛(問い合わせ)0742(20)3100

▽万葉の大和路を歩く会「かぎろひ立つ宇陀・阿騎野」 12月23日(日)集合JR・近鉄桜井駅北口9時30分(コース)桜井駅―桜井市出雲―十二柱神社―初瀬上道―狛峠越え―女寄峠―淡河川―阿紀神社―かぎろひの丘・長山―榛原駅(約11㌔少々健脚向)講師武庫川女子大学教授高原和泰氏、参加費は無料ですがテキスト代(400円)のほかバス代と拝観料などが必要

＊参加申し込み制7日前までにはがきか電話で〒630奈良市大宮町1丁目1の25奈良交通「万葉の大和路を歩く会」宛0742(20)3100

三岐鉄道

▽鈴鹿の山を歩こう「宇賀渓沙山ハイキング(山沿いコース)」 9月10日(日)南大中止集合近鉄富田駅三岐線ホーム9時(コース)富田駅―宇賀渓キャンプ村―(山腹道)―五階滝―長尾滝―(砂山道)―砂山―宇賀渓キャンプ村―大安駅―近鉄富田駅(約9㌔)参加自由、会費200円、三岐鉄道運輸課観光係059３(64)2141

▽鈴鹿の山を歩こう「秋涼の藤原岳登山」 10月28日(日)雨天中止集合近鉄富田駅三岐線ホーム9時(コース)近鉄富田駅―西藤原駅―藤原山荘―展望丘―藤原山荘―(聖宝寺道)―西藤原駅―近鉄富田駅(約9㌔)参加自由、会費200円、三岐鉄道運輸課観光係059３(64)2141

□これ以外にも多数の催しがあります。各社の広報を見て下さい。

○新ハイ関西サービスチェーン

名鉄・三岐鉄道 小代駅―大白倉―甲子・藤須ヘ砂糖を基準 1名でも乗車 り駅近くまで(ガケ利) 最大幅広く内線

福島・二岐温泉 日観運 大和館

〒962―06 福島県岩瀬郡天栄村二岐温泉 0248―84―1203 FAX 0248―84―2705

峡父鉄道 クーポン券も東武鉄道 利用できます

秩父 不動の湯

〒368 埼玉県秩父市山田243―2 電 0494―23―1126

富士登山・富士五湖 東海道自然歩道 (石割山・ハリモミ納林)

三国山の麓 ペンション コットンテール

〒407―03 山梨県南都留郡山中湖村平野 電 0555―65―8515

太平洋側の中腹 かぶら峠展望台 開発・岩殿山 JR中央線鳥沢駅 タクシー10分 バス20分登山口 直後徒歩3時間

山小屋 福ちゃん荘

〒403 山梨県富士山麓上高馬 電(自宅)0553―33―4639 (山小屋)0370―14―7315

せせらぎ

題字・小林坡璃三

4月の中旬、午後3時から休暇をとって三郡山の中腹まで登った。

一本松の荘園遺跡近くにあるケヤキやモミジなどの新緑が美しい。一年で一番輝いている時である。登るにつれ、いろいろな樹木の若葉が色鮮やかである。歩きながら、新緑を愛でる。登山口の渓流はかろやかに流れ、穏かな音がする。降りて行き、大きな石の上に腰をかけ、コップで水を汲んで飲んだ。おいしいものである。時は春。晴天。新緑。どれもが美しい。「春の小川」をかぼそい声で歌った。

ウグイスが時々鳴く。まだ啼きかたは上手ではないが、この声を聞くと春が来たと感じられうれしくなる。

コブシの白い花が、道のそばや稜線の所々に咲いている。それは山の緑に斑ができたようなものである。目の前をミスジチョウが飛んでいった。ここは静かである。聞こえるのは渓流の音と時々啼くウグイスの声だけである。

5月の初旬にも、同じ三郡山の中腹まで登った。山の樹木に近づくと新緑の匂いがする。毎年この頃になると、この新緑の強い独特な匂いを嗅ぐ。そして季節を知るのである。4月中旬に見た新緑はすでに濃い色に変化しているが、今、新緑が美しい樹木もある。

道のそばのイロハカエデの花には、赤いジョウカイボンが五頭ほど飛んでいた。地には歩行虫であるマルガタオサムシが這っていた。

道のそばのいたるところでは、ヤマフジが咲いている。陽の当たらない杉の木に巻きついているヤマフジの紫色は特に美しい。

登山口のところでは一羽のウグイスの啼き声がする。ときどき啼くところが良い。4月中旬に比べ、啼きかたが上手になった。5月の晴天に、それは神様の音楽にも等しいものである。今日、山に登って良かったと思う一瞬である。道のそばにはアセビの白い円錐状の花が鈴なりに咲いていた。5月の到来を思わせる花である。下りの登山道にシロコブゾウムシが一頭歩いていた。

(武田 昭)

5月の黄金週間に中国地方の山へ遠征した。

以前、新ハイ誌に掲載されていた大黒日山をスタートに、五葉峯山、烏帽子山、北葵山、猿隠山、鍋ノ巣山、琴引山、大万木山、女亀山の九山をハシゴして来た。

特に、益政山は厳しきに始まり、雪渓の残る北面の急登を、立木に掴まりながら、胸突き八丁の思いで「よしのぼった」という表現が適切だったと思う。

山頂の1等三角点を見たときは、とても感激した。回行の友人と、

尾瀬・平ケ岳縦断とつりの山小屋 越後三山只見国定公園内

清四郎小屋

ほんものの手打そばと民宿は

樹海

〒946 新潟県北魚沼郡 湯之谷村優美の郷(浅貝線山) 電 025779―5―2836 025779―2―0906 または 2―5026

汗をたっぷり流せる温泉と 笹ケ峰牛のシャブシャブ 日本海の鮮魚と山の幸

ハイカーの宿 ナガサキロッジ

〒949―21 新潟県中頸城郡 妙高高原町池の平温泉 電 0255―86―2261

妙高の花、温泉の花 妙高山と火打山 百名山を二つ登れる山小屋

黒沢池ヒュッテ

〒949―21 新潟県中頸城郡妙高高原町 池の平温泉 ナガサキロッジ 電 0255―86―2261

海から昇る朝日と海に沈む夕日を眺め、山と海の両方が楽しめる、大佐渡縦走の拠点。昼と夜景に酔いながら語らいはほずむ

国民宿舎 大佐渡ロッジ

―泊2食付き 7200円

〒952 新潟県両津市椎 電 0259―27―4570

次は夏山、大山へ行くことを確認して、中国地方を後にした。

（吉武　洋一）

奥美濃の雄峰「能郷白山」の変遷

昭和57年5月、我が会のMさんの会社の先輩の出身地である岐阜県の徳山村に、日本一のダムが計画され、村はダム湖に水没することになった。水没前に、能郷白山を案内してくれるというMさんをリーダーに5人で、徳山村を車で出発。馬坂峠を越え隣村の根尾村能郷集落から能郷谷の源頭登山口に乗り入れた。都界尾根に取りつき、前山1481mの分岐から水無谷のながい吊り尾根や根曲がり竹のヤブ漕ぎ、既存の目印をトラバースして頂上を踏んだ時の、カタクリの花に迎えられた感激は今も脳裏を離れない。

その徳山村も、平成元年に藤橋村に吸収され、村の名も消えた。あの県下一広域の徳山村が消えたのだ……。

昭和63年5月、再び360度の眺望と感動を求め、Mさんが山行を組み、5人のパーティで、1さんのワゴン四駆で能郷谷奥へ乗り入れた。その日は幕営、翌早朝、前回通りのコースで登る。都界尾根より見る根尾西谷川沿いに、前回工事中だった国道157号線は貫通しており、車が温見峠の揖斐側に登るのが見えた。Mさんが、次回は温見峠から縦走尾根コースとなんて、とても行けるものではなかったが、15年の歳月に、山のルートも変われば変わるものだ。

この同じ日に、大阪のヒマラヤ協会が能郷谷コースをバスチャーターで行い、我が会のH・M・Iさんの3名が参加、頂上でMパーティに会ったとHさんからも報告があった。

35名のパーティで、バスも大型。能郷谷の砂防工事道は入れず、神社から登山口まで往復3時間の歩行オマケ付き、温見峠からはニライ違い。しかし、前山の分岐付近のブナ樹林の歩行、吊り尾根付近の植物や、左の白谷渓谷越えに見るイソクラの峰の景観は、苦労した能郷谷コースを踏んでこその醍醐味だと思う。

温見峠コースが拓かれて、今まで京都からは前後泊まりの能郷白山も、マイカー日帰りの山になったようだ。

（出口　憲次）

最初に行った昭和57年の際に見たガイド誌によれば、温見峠までイバラ根曲がり竹の藪漕ぎ、三角点より峠までは5時間のアルバイトで、峠から一番近い岐阜県根尾村の言場まででも4時間の歩行と記されていた。温見峠縦走尾根コースなんて、とても行けるものではなかったが、15年の歳月に、山のルートも変われば変わるものだ。

この同じ日に、大阪のヒマラヤ協会が能郷谷コースをバスチャーターで行い、我が会のH・M・Iさんの3名が参加、頂上でMパーティに会ったとHさんからも報告があった。

35名のパーティで、バスも大型。能郷谷の砂防工事道は入れず、神社から登山口まで往復3時間の歩行オマケ付き、温見峠からはニライ違い。しかし、前山の分岐付近のブナ樹林の歩行、吊り尾根付近の植物や、左の白谷渓谷越えに見るイソクラの峰の景観は、苦労した能郷谷コースを踏んでこその醍醐味だと思う。

温見峠コースが拓かれて、今まで京都からは前後泊まりの能郷白山も、マイカー日帰りの山になったようだ。

休憩&食入浴も歓迎
10名以上マイクロバスで送迎
箱根仙石原温泉
福　島　館
〒250-06 箱根町仙石原字下都
電話 0460-4-1904

四季織りなす表妙高高原のハイク
上越線・長野新幹線
けやき通りと咲の花・目の前
温泉旅館　けやき山荘
〒390-15
長野県松本市新安曇村字鍋倉高原
電話 0263-93-2555

さわやかな信州
露天風呂　山吹の湯
湯田中温泉（渋湯）
日野屋旅館
〒381-04 長野県下高井郡
山ノ内町湯田中温泉渋湯
電話 0269-33-3578

標高2000m以上の温泉
湯の丸高原自然休養林
ハイキングにスキー
高峰温泉
〒384
長野県小諸市高峰高原
電話 0267-25-2000

恵那山は、人気の高い山であり、熟知されておられる向きは多かろう。先日、ようやくその山に登った。実は一昨年の秋、登山口まで行きながら、引き返した経験があり、私にとっては、気になる山であった。

ただ、行きがけの駄賃といっては口はばったく、山に対して傲慢な物言いであるが、年も体力もわきまえないプランだったので、山頂には、余裕があれば登ろう。引き返すことになっても、仕方がない、また出直したらいいわ、くらいの軽い気持ちであった。

6月3日山から大崩れになる天気予報なので、1日目の夕刻に出発し、東濃駅5A（中央道）で仮眠後、登山口に入り、朝日が差す2日目の早朝に歩き始めた。

登山道はよく踏まれ、適度な間隔に指導標が設置されていて、迷うことはなかった。初級程度かとおもわれたが、しかし、私にとっては、手強い山ではなかった。

1等三角点の山頂は水平に開まれていて、眺望を楽しむには樹林越しになる。これも又、この山のありのままの姿ではある。

山頂の避難小屋はイメージを払拭するログハウスであった。入り口にある土間の休憩室にはストーブがあった。そういえば飯井沢登山口には、「山頂小屋で暖をとられる登山者の方は、この薪を使って下さい」の掲示板のそばに太めの薪が積まれていた。地元関係者の配慮、力の入れかたには頭が下がる。

だが気になるのは空き缶、カラ瓶、ゴミの類が、持ち帰られずにそのまま溜まっていることである。使用頻度に比例してゴミの量が増え目障りだ。途中の野熊の池清掃小屋も、こぢんまりとした小気味よい造作であるが、ここも同様にゴミで汚されていて、やりきれない思いになった。

余談になるが、以前遭遇になった登山者に菓子包みを差し出したところ、包みを破り捨て菓子を口にする所作が、きわめて自然なのに唖然としたことがある、ものを捨てる行為が彼にとっては日常のなかで当たり前のことだったのだろう。

数少ない私の山行経験からも、自主管理に委ねられている小屋などは芳論の歯止めがきかないのか、傷たりふったりである。

せめて自分たちだけでもゴミは出すまい、出さまいと大方の登山者は心がけておられるのだが。

閉館休憩

ともあれ、こだわった山を確かめたあとの、えも言われぬ充足感は、至福のひとときである。

足の痛みも年を忘れて、次なる山へ心は弾んで行く。

（藤村　勝彦）

私の生家は京都三条大橋東詰めにあった。三条通に出ると東山の栗田山から将軍塚辺りの濃い緑がすぐ目にとび込んできた。裏の物干し台からは大文字の右半分が見えた。三条大橋の上からは洛北の山々が眺められ、鴨川の流れと相まって山紫水明であった。

6歳の時、引っ越したが、いかにも洛東といった所で、東側の窓からは東山三十六峰の皆水山から稲荷山までが境界に入り、西側の窓からはほぼ京都市街が一望で、遠く御室辺りの山から愛宕山、そして大王山までの西山の全景が眺望できた。五山送り火は大文字と称く四山を拝することができた。

岐阜の長良川畔に五年ばかりい

日本最高位の温泉
（3400m）
立山・室堂平
みくりが池温泉
連絡先
〒930 富山市五福末広町
電話 0764-41-0434

ハイキングに！　スキーに！
志賀高原　石の湯ロッジ
バス　熊の湯駅下車ホ
電話 0269-24-2431
東京本社・東京都新宿区新宿3-20-5（新光第2ビル）
㈱スポーツサービス
電話 03-3341-0211

塩の道　千国街道
石八十七体「観音原」
ホテル
白馬ブランシェ
〒399-93
長野県北安曇郡白馬村いわたけ
電話 0261-72-1452

館内より日本アルプス毎日20頭
以上と、北アの雪形鑑賞、北アの
全体の大眺望の魅、春は山菜等
展望風呂・露天風呂
ふるさいと　満山荘
〒382 長野県上高井郡
高山村山田牧場・奥山田温泉
電話 0262-42-2527

たが、広い川原の向こうに岐阜城の建つ金華山が二階の部屋から見え、漆黒の闇に浮かぶ山のシルエットと鵜飼の篝火が風物詩を奏でていた。
　信州の松本に一年半住んだ。洗面所の窓から美ヶ原の王ヶ頭が、朝の挨拶がわりに顔を出す。美ヶ原はガスが濃く、ある時は放牧の牛の尻に衝突したことがあった。居間からは美ヶ原と尾根続きの三峰山・鉢伏山・高ボッチの峰々がいつも眺められた。
　今また京都に戻ってきて、洛北、洛西の山並みに囲まれて暮している。これからも私は山の景観の中で、静かに余生を楽しんで行こうと思う。
　そして、地獄へおちたら「針の山」を、もし極楽へ行けたら「須弥山」を仰いでいるだろう。

（芝野　泰明）

　夏山のガイドブックをひっくり返していると一枚の葉書。昨年の夏、白峰三山を一緒に縦走した人からのもので、すでになつかしい思い出。
　平成5年8月6日(金)、早朝、甲府からタクシーに女性3人パーティーと相乗りし広河原へ4時着。満天の星を仰いで出発。北岳山荘には正午に着いてしまうだろうと、大樺沢の二俣でのんびり休んでいたら、タクシーに同乗した女性3人が汗を拭き拭き二俣に着いた。聞かれて観音岳や地蔵岳のオベリスク、右手に仰ぎ見る北岳バットレスなど、有頂天で説明しているうちに北岳山荘まで呉越同舟で行くことと相なった。
　呼吸を合わせ、休憩をとりつつぐんぐん高度をかせぎ八本歯ノコルへ。昼食後、スリリングなハシゴを過ぎると、タカネツメクサ、ミヤマキンポウゲ、タカネビランジと咲き競う花に感嘆の声しきり。更に雄大な山岳景観に感動し、雷鳥の親子連れに感激したりで、感嘆符「!」の連続。
　道中、花の名前（51種）をメモし、コンパスを回して山を確認し、シャッターチャンスもお忙しく、足はついついスローペースに。ひと頑張りして待望の北岳山頂に立ち、バンザイ三唱して気分は最高潮。
　ガスってきた山頂を後に岩稜を彩るハクサンイチゲ、トウヤクリンドウ、チシマギキョウなどの可憐な花に相も変わらず歓声があがる。北岳山荘へは15時30分着。早々に宿泊手続きを済ませたが、すでに夕食にはありつけず。めげずに青空の下でカレーとシチューと冷えたビールで盛り上がり、「明日も頑張ろう」と気勢をあげる。
　部屋は一畳に3人という盛況だが、そこは昔とった杵柄、彼女達の為にも頑張らねばと素早く場所を確保して面目躍如。
　7日は池山吊尾根をくだる予定だったが、彼女達から「農鳥岳まで一緒に行きましょう」と言われ予備日を消して仕方なく？　オジンは誘惑にのる。その旨を、朝4時に家に電話すると、家内が寝ぼけ声で「朝早くから北岳山荘から電話なんて言うから何ごとかとビックリしたわョ」と驚く様子が伝わってくる。それでも「気をつけて」の一言に気分を新たに出発。
　日焼け止めで真っ白になった彼女達の顔に、ギョッ（すみません）として、稜線に出ると堂々たる富士がご挨拶。中白峰から[illegible]をバックに屹立する北岳を振り返りつつ、気温21度（この日京都は39・2度を記録）の稜線漫歩を満喫する。
　間ノ岳では地図を囲みながらの鳩首協議で塩見岳、空木岳、乗鞍岳、国師ヶ岳と四望万里の展望の中、山座同定を楽しむ。時間もあるので三峰岳に寄り、スケッチなどして1時間の大休止。再び三国根に戻り、学生の「コンチハー」の弾んだ声にも励まされ、爽快な気分で農鳥岳に。すっかり花博士となったなつかしの乙女達とはここでお別れして私は大門沢小屋へ。彼女達は手を振り振り農鳥小屋へ戻っていった。
　今、その時の礼の葉書を手にして、オジンは柄にもなく遠くなった夏の日の夢を見たのだった。今年の夏山はどんな出会いがあるのだろうか。「出会うのは熊だったりして」とは山友の若言葉。

（森生　功）

　私は金剛登山を楽しんでいますが、金剛山といえどもいろいろな花が咲いています。
　一輪草、九輪草、猩々袴の群落や、カタクリ、山吹草、山芍薬、ギボウシ、笹百合がかなりかたまって咲いている所もあります。
　又、ある谷ではイワタバコの大群落があり、近年は特に増えています。
　以前、知人に「此に花が咲いているよ」と教えられ、その場所へ行くとそれはサイハイランでした。花の形が戦国の武将が陣頭指揮に使う采配に似ているところから名付けられたそうです。この頃は、花期には葉が枯れているので、あたかも出りにある世の花のように見えるのです。
　以後、毎年恋人に会うような気持ちで、花の咲くのを楽しみに待っていましたが、他の登山道の水飲み場で、「ここで毎年咲いていたサイハイランを持ち帰った人はすぐに元に戻して下さい。楽しみを独り占めにするな」との札を見ていやな予感がし、今年いつもの場所へ行くとやはり無くなっており、がっかりしました。
　九輪草の群落はかなり整然としている所もあるので、どなたか手入れをされているのかと思っていました。ある時、その人に出会い話を聞きましたが、以前持ち帰ろうとする人に注意をしたら、「これはあんたのものか」と言われ、がく然とした、と言っておられました。
　この広い金剛山でも、山草にとっての適地は非常に少なく、かれんな花がいつまでも咲いていられる環境であってほしいものです。

（橋本　博光）

6月山行等報告

　2日　Ⅲ△大栓寺辻（2万5千「富田」）へ。
　4日　測量の日・ハイク。「地形図を持って奈良公園を歩こう」講師。参加400人。午後記念式典。
　5日　Ⅲ△小名（同「古市場」）再調査と高見越伊勢街道小名峠へ。
　6日　大和渓岳会例会。津風呂湖～吉野山口社～蜻蛉滝・寺並案内。参加25名。
　10日　Ⅲ△水ノ本（同「伯母子岳」）へ。小辺路を歩く。
　11日　やまと地形図の会例会。Ⅲ△鍋岳（同「伝留寺山」）案内。参加41名。
　16日　Ⅲ△小泉（同「大和郡山」）へ。計336点　86%。
　18日　点のつどい例会。Ⅲ△北山（同「五條」）案内。参加25名。
　21日　Ⅲ△高岳（同「大和白石」）再調査。
　28日　伏見公民館、「大和水紀行」講義。宇太水分社跡水、日張山青蓮寺案内。参加41名。

（上田　倖弘）

春・秋　小グループ
白馬の自然案内します
白馬ファミリーペンション
和　田　森
〒399－93　長野県北安曇郡
白馬村八方和田野
☎　0261－72－5351

登山歴20年のオーナーが白馬・小谷周辺のお花畑へ案内
テントキーパー
1泊2食付き　6500円から
〒399－93
長野県北安曇郡白馬村おちくら
☎　0261－72－2151

八ヶ岳南北縦走の中心地
59年秋新館増築完成全館暖房
水の香り新鮮高原野生水芭蕉
オーレン小屋
1泊2食付き　6000円
4月末～11月末開設
〒391－02
茅野市豊平2720　小平貞夫
☎　0266－72－1279

日本唯一の女人禁制の山「大峯山」（百名山）の登山口
稲村ヶ岳女人コースもあり
温泉・名水の里
旅館　紀の国屋甚八
1泊2食付　7,000円から
〒638－04
奈良県吉野郡天川村洞川
☎　07476－4－0309

九州の最高峰・日本百名山
宮之浦岳に一番近い宿
屋久島安房登山口
屋久島グリーンホテル
〒891－43
鹿児島県熊毛郡屋久町安房
☎　09974－6－3021

ハイキング・キャンプに！
鈴鹿国定公園
朝明渓谷　あさけ茶屋
〒510－12
三重県三重郡菰野町千草
☎　0593－93－1789

●山の本紹介（白賢山版）
三重県の山シリーズ　頒価各1200円
『度会・大宮・南伊勢の山　37山』
『海を眺める志摩の山　24山』
『飯高・美杉・松阪の山　26山』
『安濃・関・津周辺の山　23山』
『鈴鹿の山（中南部編）18山』最新刊
〈問い合わせ・申込み〉
伊勢市辻久留2-1-14（〒516）
福井正身　☎（0596）28・0075
・郵便小為替を利用してお申込み下さい（送料は負担します。本代のみ）

山行計画

新ハイキングクラブ協同

このページの山行計画には、「会員に限る」と記載してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって出発の7日前までに到着するように係あて申し込んでください。「往復」のほかに参加者代その他の資料代実費を頂くことがあります。

山行申し込み後参加できなくなった場合は速いで係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と乗り入りはお断りします。

例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発急呼の際、係に保険料（日額50円、旅行日帰りの場合は2日になり100円）を支出して頂きます。（JAIU保険会社と契約）

傷害保険特約内容は次の通りです。

	日額	日額
死亡・後遺障害保険金	1000万円	
入院保険金	5000円	
通院保険金	2500円	

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。①ロッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行、②スキー使用の山行、③沢・岩・氷雪登はんを目的とした山行、④宿泊施設内の事故、（詳細は係まで）

（記入例）

（往復ハガキを使用）

山行き申込み書

山行

期日

住所 〒

電話番号

氏名

会員番号

（会員でない方は会員外と記入）

生年月日

緊急時の連絡先

返信ハガキの宛て名欄にご自分の住所氏名を記入してください。

太田の滝から峰山高原

（一般向き）

期　日　8月3日(日)　日帰り

集　合　JR姫路駅南口9時10分姫路駅(車)JR長谷駅前(車)発電所下―太田の滝―太田の滝―峰山高原―時姫山―レクリエーションセンター(車)姫路駅

費　用　約2000円（車代・保険料）

地　図　2万5千＝長谷

係　◎姫路市仲　○今津省司

申込み　〒670―01 姫路市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

定員先着20名

播磨高原の中心をなす峰山高原。オシャレな雰囲気の太田ダム湖。1等三角点の時姫山からの展望を楽しむ。小雨決行

＊大阪・京都方面からマイカーで参加の人は、定員外で受付ます。播但道神崎所インターで降り、JR長谷駅前10時30分までに集合。「マイカー参加」と申し込みハガキに明記下さい。

山行計画の実施について

当会の山行計画は保険を掛けたり、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに規定通り、往復ハガキで申し込んで下さい。人数により前もって、バスなどをチャーターする必要もあります。また山ではいかなる事態が発生するかも。必ず緊急連絡先など、山行き申込みハガキに記載すべき事項は必ずご記入下さい。

申し込みの返信は案内の締日が決まり次第、遅くとも10日前までにはします。早くから申し込まれた方はしばらくお待ち下さい。

定員のある計画は先着順に受付ています。

山行計画欄に記載してあるグレードは、常日頃山歩きに親しんでおられることを前提に考えています。

（初級向）どなたでも歩けます

（一般向）ハイキングの標準コース

（中級向）かなり経験のいるコース

（やや健脚向）（健脚向）は、危険な所があり、キツイ登りや、下りが長く続くコースと、ご理解下さい。

地図読み山行12

丹波の山・白髪山（一般向き）

期　日　9月3日(日)　日帰り

集　合　JR福知山線古市駅8時45分（大阪駅7時30分発快速で）

コース　古市駅―住山―白髪山―松尾山分岐―四ツ辻―文保寺―JR篠山口駅

費　用　約2500円（大阪から交通費）

地　図　2万5千＝篠山

係　◎塚元一彦　○中村　登

申込み　〒536 大阪市城東区関目4の14の9の901　塚元まで　定員先着30名（初心者歓迎）

山頂からの展望は雄大で、南に北摂の山群、西に播州の山々を一望できます。地図読み山行にピッタリの山です。指定の地図とシルバ型コンパス持参のこと。雨天中止

京都北山歩き37

三谷山から天ケ森（一般向き）

期　日　9月10日(日)　日帰り

集　合　京阪出町柳駅バスターミナル9時

コース　出町柳駅（バス）三谷口―三谷山―三谷峠―天ケ森―小山右（バス）出町柳駅

費　用　約2000円（交通費）

地　図　昭文社＝「47京都北山1」

係　◎村田智彦　○山岡義治

申込み　〒610―01 城陽市寺田大畔10の10　村田まで

北山の樹林の水かけ道を歩きます。三谷山からのコースは本誌23号「北山やぶ漕ぎ縦断山行記」（43ページ）を参照。小雨決行

平日木曜ハイク14

桂敷ケ岳から狼尾根（一般向き）

期　日　8月14日(木)　日帰り

集　合　京都地下鉄北大路駅③出入口遊園銀行前8時40分

コース　北大路駅（タクシー）桂敷ケ岳―桂敷ケ岳―不動―桂敷峠―桂敷ケ岳―狼尾根―狼峠―鷲尾根―魚谷峠―オ梅谷―祖父谷林道―岩屋橋（バス）北大路駅・出町柳駅（解散13時30分）

費　用　保険代500円、他タクシー・バス代は約2000円

地　図　昭文社＝「47京都北山1」

係　◎前中　毅

申込み　〒610―01 城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

桂敷ケ岳へは尾根敷をじっくりと登る。狼尾根のまばら谷は北山一の落ち葉道です。雨天中止

奈良・竜門ケ岳（一般向き）

期　日　9月23日(祝)　日帰り

集　合　近鉄桜井駅8時45分

コース　桜井駅（バス）不動滝―大峰―三滝峠―竜門ケ岳―竜門瀧―吉野山口（バス）近鉄大和上市駅

費　用　約3500円（大阪から交通費・保険代）

地　図　2万5千＝古市場・新子

係　◎中西信行　○則元保夫

申込み　〒610―01 城陽市寺田大畔10の10　新ハイキング関西まで

音羽山・熊ケ岳につづく南の縦走コースを、大峰から竜門ケ岳をめざします。小雨決行

地図読み山行13

京都北山・魚谷山（一般向き）

期　日　10月1日(日)　日帰り

集　合　京阪出町柳駅バスターミナル8時30分

コース　出町柳駅（バス）岩屋橋―オ梅谷―魚谷山―魚谷峠―

●山の本の紹介

『京都府の三角点峰』横田和雄著
―全183座完登の記―　A5　392頁

京都山の会山版局　定価2900円
発売 ナカニシヤ出版　（書店発売中）

「三角点」から山を見つめると新たなフィールドが開けてくる。―京都府にある標高500メートル以上の三角点をすべて訪ねた登山歴です。

●新ハイキング選書　第17巻　最新刊

『城跡ハイキング』中山楠四郎著
―紀行と案内―　B6　354頁

新ハイキング社　定価1600円
（書店発売中）

新ハイ誌連載の「城跡のある散歩みち」から季節ごとに62城址を40編にまとめた。城跡をめぐる楽しさとロマンが語う。

●振替でのご注文は送料当社負担
振替口座 00130―9―146915 新ハイキング社

二ノ瀬エリー貴船口（電車）出町柳駅
費用　約1500円（交通費）
地図　2万5千＝大原・鞍山
係　◎原元一彦　○山村　登
申込み　〒536大阪市城東区関目6の14の9の901　原元まで　定員先着30名（初心者歓迎）

地図読みの勉強をしながら、静かな北山を歩きます。指定の地図とシルバ用型コンパス持参のこと。雨天中止

室生・亀山峠から吉光山
（中級向き）
期日　10月1日(日)　日帰り
集合　近鉄名張駅西口9時
コース　名張駅（バス）曽爾高原―お亀池―亀山峠―亀山―長尾峠―後吉光山―吉光山―南峠―大峠―曽爾村役場前（バス）名張駅
費用　約4000円（大阪から交通費）
地図　昭文社＝「58奈良・倶留尊高原」
係　◎村田智俊　○上村　換
申込み　〒610―01城陽市寺田大郎10の10　村田まで

ススキの高原から岩峰の吉光山へ、登り下りの急坂は岩場の通過もあり、変化の多いコースです。小雨決行

丹生山系・屏風谷（一般向き）
期日　10月8日(日)　日帰り
集合　JR大阪駅長距離ホーム8時30分
コース　JR大阪駅（バス）屏風谷―三田駅（バス）屏風谷―屏風谷遊行―太陽と緑の道―谷上古道―神鉄谷上駅（電車）三宮駅
費用　約2500円（大阪から交通費）
地図　2万5千＝有馬
係　◎久保省司　○村田智俊
申込み　〒610―01城陽市寺田大郎10の10　村田まで

北神戸に位置する丹生山系の屏風谷を歩きます。渓流と雑木林の静かなコースです。雨天中止

三嶽・自然山　（一般向き）
期日　10月6日(日)　日帰り
集合　近鉄松阪駅西口8時40分
コース　松阪駅（バス）大石木動院―北谷―都―自然山―夏明―中村―中西（バス）松阪駅（徒歩）
費用　保険50円（交通費各自）
地図　2万5千＝大河内・櫛野
係　◎稲垣英五　○長谷英五
申込み　〒519―03鈴鹿市大久保町2065　稲垣まで

都からのコースで登ります。今年のエトの山です。渓流沿からは眺めがよい。雨天決行

京都北山歩き38
芦生・三国岳　（一般向き）
期日　10月10日(祝)　日帰り
集合　JR湖西線安曇川駅8時（芦生駅発7時06分で）
コース　安曇川駅（バス）芦生―岩谷峠―三国岳―桑原（バス）安曇川駅
費用　約5000円（大阪から交通費）
地図　2万5千＝久多・芦生
係　◎村田智俊　○出口憲次
申込み　〒610―01城陽市寺田大郎10の10　村田まで

巧木山行会が整備された道を岩谷峠から三国岳へ。芦生コースガイド（64ページ）参照。小雨決行

＊マイカーの人は8時までに芦生の集落民宿付近に集合。「マイカー参加」と明記下さい。

平日木曜ハイク15
正面谷から武奈ケ岳
（やや健脚向き）
期日　10月12日(木)　日帰り
集合　JR比叡駅8時40分
コース　比叡駅（バス）イン谷口―大山口―青ガン―金毘羅―中峠―ワサビ峠―武奈ケ岳―イブルキのコバ―北比良峠―ダケ道―イン谷口（バス）比叡駅（解散17時20分頃）
費用　保険50円（交通費各自）
地図　昭文社＝「46比叡山系」
係　◎前中　毅
申込み　〒610―01城陽市寺田大郎10の10　新ハイキング幹西まで

比良の名門ルート正面谷を登る。武奈ケ岳山頂からの大展望を楽しむ。八雲ケ原も訪ねる。雨天中止

揖州・千ガ峰　（一般向き）
期日　10月15日(日)　日帰り
集合　JR新大阪駅正面口観光バスのりば7時30分
コース　新大阪駅（バス）JR西淡路市駅（バス）一門寺リンゴ園―登山口―七ケ峰―市原峠―丹治（バス）西脇市駅（バス）新大阪駅
費用　約5000円（交通費）
地図　2万5千＝丹波和田
係　◎井上　保　○須藤岡幹
申込み　〒674明石市大久保町高丘3の1の1井上まで

山頂直下のきつい登りは、体力試しにうってつけ。すばらしい山頂からの展望がその疲れをいやしてくれます。小雨決行

＊明石・加古川以西の人は、JR加古川線西脇市駅前に9時10分まで（加古川駅発8時06分で）に集合も可。申し込みハガキに「西脇市駅へ集合」と明記下さい。

鈴鹿・銚子ケ口山系
（一般向き）
期日　10月22日(日)　日帰り
集合　JR近江八幡駅前8時
コース　近江八幡駅（バス）江頭―長谷山登山口―長谷山―銚子ケ口―西峰―水谷ノ池―北峰―長尾山登山口―江頭峠―長尾峠登山口（バス）近江八幡駅
費用　約5000円（大阪から交通費）
地図　昭文社＝「46比叡山系・鈴ケ岳」
係　◎村田智俊　○岩野　明
申込み　〒610―01城陽市寺田大郎10の10　村田まで

5月の計画が雨で流れましたので、鈴鹿の展望を求めて再度計画しました。小雨決行

＊マイカーで参加の人は江頭尾登山口へ9時までに集合。申し込みハガキに「マイカー参加」と明記下さい。

文学歴史散歩28
南都山から天野山金剛寺
（初級向き）
期日　10月22日(日)　日帰り
集合　京北阪急千里線泉ケ丘駅改札口9時
コース　泉ケ丘駅前―鳴谷ケ丘―鳴谷山―大野―下里総合運動場―天野山金剛寺（拝観）天野山バス停（バス）河内長野駅（電車）庄海難波駅・近鉄河内長野駅
費用　約1500円（同海難波駅駅舎交通費・保険代）

冬ハイキング別企画

ニュージーランド・ハイキング
（一般向き）
期日　11月30日～12月9日
9泊10日
コース　成田＝（機内泊）＝オークランド＝クライストチャーチ＝クインズタウン（泊）＝スチール・クリーク小屋（泊）＝マッケーラー小屋（泊）＝マッケンジー小屋（泊）＝ルートバンフオールズ小屋（泊）＝クインズタウン（泊）＝クライストチャーチ＝オークランド（泊）＝（機内泊）＝成田
費用　約33万円（30名の場合の予定）
申込み　〒330大宮市宮原町4の87の1　高柳生雄（係）へ9月30日まで

申込み者には後日詳細を連絡します。今回はグリーンストンとルートバン・トラックとペンローモンド山に行きます。

会員募集「尾瀬の会」
尾瀬の秋・魅力再発見

（旅程）10月6日～10日
6日／大阪・京都夜発（夜行バス）
7日／鳩待峠～中ノ岡～アヤメ平～見晴（弥四郎小屋泊）
8日／下田代～温泉小屋～横田代～上田代～御池（バス）沼山峠～大江川湿原～尾瀬沼（尾瀬小屋泊）
9日／尾瀬沼一周～三平下～三平峠～大清水（バス）吹割の滝（バス）戸倉（ボナル玉城屋温泉入浴・夕食）夜発（夜行バス）
10日／早朝大阪・京都着
（会費）49,800円
（入会金500円含む）
（問い合わせ・申込み）
「尾瀬の会」　松下　清まで
〒596岸和田市大町3の11
TEL072(43)2870
○申込みの人には詳細を連絡します。

地　図　2万5千＝富田林・古市
係　◎松永恵一
申込み　〒580松原市阿2の2の22　松永まで

ファミリーハイクに最適な河内ふるさとの道を歩く。道の多くは歩きやすい。本誌（60ページ）参照。雨天中止

高野町石道　（やや健脚向き）

期　日　10月29日(日)　日帰り
集　合　南海高野線九度山駅改札口8時50分（難波駅発7時36分で）
コース　九度山駅－慈尊院－六本杉峠－二つ鳥居－子安地蔵－笠木峠－矢立－大門－根本大塔－千手院前（バス）高野山駅
費　用　約3000円（難波駅起点交通費）
地　図　四文社＝「55奥高野」
係　◎風村誠治
申込み　〒648和歌山市城山台2丁目39の7　奥村まで

180本の町石卒塔婆をたどる、高野山への信仰の道を登ります。旧跡をたずねるハイクですが、ロングコースです。小雨決行

山行報告

関ハイキングクラブ関西

平日木曜ハイク10
・雄滝山から竜王山
5月11日(水)　雨天で中止しました。
（係・前中）

溶岩流探索と蘇武岳
5月13日(日)～14日(月)　1泊2日
（13日）　曇りのち晴れ　JR江原駅10・30集合（車）横村直己宅　瑞鶴（車）十戸滝（昼食）乗本（2時間余りかけ溶岩流探索と八反の滝見学）（車）神鍋山（車）まるや山荘15・00（泊）
（14日）　雨　まるや山荘7・30－名色スキー場－借耐山9・10－登山口9・20－蘇武岳10・50～11・00－登山口12・00－（林道）－まるや山荘13・35（昼食・休憩）16・00（車）姫路駅18・00（解散）

横村直己宅瑞鶴では直己の作大きを賞味。溶岩流探索では三木武行先生（八鹿高校）の解説を受けながら八反の滝へ。神鍋山ゲレンデでは山菜採りを楽しむ。雨の中、一部コース変更で蘇武岳へ。雲の切れ間からの眺望を楽しんだ。三木先生、まるや山荘のご主人には大変お世話になりました。

（参加者）芝野泰明　西内英一　木島淑子　岡田　昇　西山忠孝　新田孝子　横村誠治　河部郁彦　山本武臣　山本今子　安田文英江　今津省司　野口　修　三木民子　栗間克子　兼田幸子　上井忠孝子　岡本敏三　○井上　保　（計20名）
◎須藤岡　耕

地図読み山行10
太神山から矢筈ケ岳
5月14日(日)　雨天で中止しました。
（係・壁元）

高野三山
5月21日(日)　雨天で中止しました。
（係・奥村）

鈴鹿・鎌ヶ谷ロ山系
5月21日(日)　雨天で中止しました。
（係・村田）

金剛山から葛城山
5月28日(日)　晴れ
河内長野駅8・50（集合）9・00（バス）高原9・20～30－ダンノ峠10・27～40－利部の滝11・20～30－廃村八丁12・00（昼食・散策）13・20－四郎五郎滝13・55－四郎五郎峠14・12～20－ダンノ峠15・00～05－楠峠15・30～45－高原16・05（バス）北大阪駅17・25（解散）

廃村内を散策し、往時を偲んだ。八丁廃墟の谷々は何れも美しかったが、雨の日に一際哀力を増す。幻の滝、四郎五郎滝へも足を延ばした。

（参加者）前田政雄　吉田その子　若木修二　辻村延夫　森田昭男　石田芳弘　上坂延枝　南　節子　岡本玫一　松井徳永　植田久子　紺井和子　林　勝子　東　真美　長沢佑美　北尾信板　窪田美奈子　城下太子　今西光男　小林伊佐子　村上春代　河野　弘　下川三千子　中村和子　青木一郎　永見貞雄子　本田輝子　明神感行　明神世輝子　上田亜子　川人都子　中上紀代子　永井智男　山口明治　大吉峰枝子　○渡辺次男　◎前中　毅　（計37名）

播磨国境・白山と妙見山
6月11日(日)　曇りのち晴れ
JR加古川駅8・59（電車）JR本黒田駅10・16～30－大歳神社11・

発（バス）ロープウェイ前9・50発－伏見峠（府民の森ログキャビン）10・40～55－金剛山・登出岳11・15－カヤンボウ休憩所12・10（昼食）13・00－水越峠13・25－ツツジ園14・25－葛城山頂15・00～20－ロープウェイ駅16・38～48（バス）近鉄御所駅17・05（解散）

久しぶりに晴れ渡った日曜日。思いきりいい汗をかきました。

金剛山頂で歓迎のツツジの歓迎をうけ、山のあちこちに藤の花が下がり、様々な緑の色を満喫。葛城山のツツジは1週間遅かった。武蔵のツツジは奥行までお預け。

（参加者）石田芳弘　水島治子　熊木秀雄　巻田芳伸　三木民子　井上　保　松井徳永　千葉千枝子　夏山春子　垣内繁世　佐古田文子　北野佳子　辻　静子　（計19名）
◎松永恵一

国見山から住森山（連続歩り11）
6月4日(日)　雨のち曇り
近鉄室生口大野駅9・15（集合）27発（バス）宇陀川橋9・50～10・10－大蔵神10・40～50－クマタワ11・35（昼食）12・40－国見山13・40～14・00－ゼニヤタワ14・15－住塚山14・40～50－高倉台分岐15・10－長野バス停15・55～57発（バス）近鉄名張駅16・50（解散）

天気予報の降水確率を信じて決行したものの、朝はまだ雨。しかし予想に反して集合された方々の数の多さに、係一同感激。歩き出してからは雨もほとんどなく、国見山からの見晴らしもまずまずで、山歩き同定も出来た。群馬岩はゆっくり眺める時間もなく、駆け足になって申し訳なし。

（参加者）石田和彦　石田輝子　下村和弘　川端　進　井上田紀瑞　三浦弘幸　山崎邦彦　向　章好　大井　洋　山木　勉　高橋綾治　辻村延夫　井上正恵　辻　嘉一郎　酒野良一　渡辺公男　佐古田文子　土肥三枝　鈴木春男　阪口千鶴子　道藤悦子　田中三恵子　○小金原敏子　◎松元一郎　（計24名）

小川新道から御殿山
6月4日(日)　曇り時々晴れ
出灯柳駅バスのりば8・00（集合）～10（バス）坊村9・05～25－キコバ10・10～15－奥の深谷出会11・10～20－小川新道登り口11・30－月見岩12・00－秘録広場12・20（昼食）13・00－シャクシコバの頭13・20－中峠13・25－口の深谷出会13・40～55－ウサギ峠14・10－御殿山14・30～30－坊村15・50～16・20（バス）山町柳駅17・15（解散）

小川新道の急登に汗を流した。シャクシコバの頭付近のブナ林の新緑や、左右に咲くドウダンツツジを愛賞しながら歩いた。

（参加者）近藤　恭　寺西　孝　紙谷敬子　二井　大　前田政雄　狩野東彦　野口　修　稲本芳雄　呉比松夫　金山正也　村上俊子　中川博史　飯田　昇　三宅　明　前田栄三　高橋　賀　千葉千枝子　平　幸子　植田久子　竹田利夫　中村英雄　吉田誠宏　永井哲男　宋　喜淑　奥村誠治　倉元ミツエ　松井徳永　家入章光　深坂　真　深坂百子　仲秋雅子　宮角季吉　中村静香　明神感行　米川大輔　中西　昭　堀　久子　上井忠夫子　平敬英子　小田勝子　田中喜美江　青木一雄　林　治子　中上紀代子　○上岩　孝　◎谷田哲夫　（計46名）

ダンノ峠から廃村八丁
（未曾ハイク11）
6月8日(水)　曇りのち雨
北大阪駅7・50（集合）8・00（バス）高原9・20～30－ダンノ峠10・27～40－利部の滝11・20～30－廃村八丁12・00（昼食・散策）13・20－四郎五郎滝13・55－四郎五郎峠14・12～20－ダンノ峠15・00～05－楠峠15・30～45－高原16・05（バス）北大阪駅17・25（解散）

廃村内を散策し、往時を偲んだ。八丁廃墟の谷々は何れも美しかったが、雨の日に一際哀力を増す。幻の滝、四郎五郎滝へも足を延ばした。

（参加者）前田政雄　吉田その子　若木修二　辻村延夫　森田昭男　石田芳弘　上坂延枝　南　節子　岡本玫一　松井徳永　植田久子　紺井和子　林　勝子　東　真美　長沢佑美　北尾信板　窪田美奈子　城下太子　今西光男　小林伊佐子　村上春代　河野　弘　下川三千子　中村和子　青木一郎　永見貞雄子　本田輝子　明神感行　明神世輝子　上田亜子　川人都子　中上紀代子　永井智男　山口明治　大吉峰枝子　○渡辺次男　◎前中　毅　（計37名）

播磨国境・白山と妙見山
6月11日(日)　曇りのち晴れ
JR加古川駅8・59（電車）JR本黒田駅10・16～30－大歳神社11・

会員募集
財大阪府社会体育研究所
「山の会」

山歩きを通じて健康体力づくりと仲間づくりをしてみませんか。

安全で楽しい山歩きを目的に、近郊ハイキングからアルプス登山まで、バラエティー豊かな活動を続けています。

毎月2～3回、どなたでも参加いただけるような企画を組み、お一人でも安心して参加いただけるようベテラン登山家が同行し、引率・案内しております。

むずかしい規則や制約のない、気軽なサークルです。

会について知りたい方、入会希望者は御連絡ください。

（事務局）
〒530
大阪府北区金屋町6の2
水野ビル四階
財大阪府社会体育研究所
「山の会」係まで
TEL06(375)1821

00—白山12・30（昼食）13・00—妙見山13・45—JR谷川駅15・45（解散）

午後から天候が怪しまれたが、妙見山を過ぎた頃から晴れ間も見え、高原神社に参拝する頃にはすっかり晴れて、久しぶりに気持ちのよい山行となった。

（参加者）中川法忠　横田日盟　今津宏司　野口　修　野口志津子　山本武臣　山本令子　藤原藤彦　海野次男　木島雅子　三木吳子　松田哲郎　松田静江　千葉千枝子　堀　久子　岡田　昇　岡田恵美子　高橋明美　吉田　進　森実喜美子　吉田誠宏　村上俊子　熊田千夜子　中村節香　小田和子　宗殿美智子　上田平子　森　裕起子　今西光男　関口沙千　上井崇美子　田中喜美江　中上紀代子　○須藤岡　昶　◎井上　保（計36名）

鈴鹿・竜ケ岳

6月18日(日)　曇りのち雨

宇賀渕バス停9・25—ホタガ谷登山口9・40—四大学生部森林組合作業小屋10・20～30—鈴鹿民宿合流分岐12・00—竜ケ岳12・20（昼食）13・00—石榑峠14・00—小峰14・15—長尾滝14・40～50—五階滝—魚止滝15・30—ホタガ谷登山口（林道）15・40—宇賀渕バス停16・30（解散）

分カン滝から魚止滝まで、滝の中には竜がいる。楽しくちょっぴりスリルのある渓谷でした。梅雨の最中に快晴の空を仰ぐなんて……。霧もまた好し。午後は雨。

（参加者）沼田隆一　紙谷博子　小林　稔　寺西　孝　垣内繁雄　福野真一　川端　進　呉比裕実　平　醒一　平　幸子　今村　真　本村好和　脇田和洋　森　美喜子　小堀哲男　本多郁子　石田真由美　山本雅子　高橋正人　福田恵美子　大野　博　大野美子　大野生福　大野時紀　高岡信男　大矢知正浩　大矢知田博子　○村田智俊　○福原誠夫　◎尾崎英五（計30名）

ジョーラク峠から城丹国境尾根

6月23日(日)　曇り時々晴れ

京都駅八条口バスターミナル8・00（バス）最寄寺バス停9・15～25—小野内谷林道口9・30—林道終点広場10・10～20—P671・4m（3等点）10・50～11・00—尾根展望地12・00（昼食）12・40—ジョーラク峠12・50～13・00—小野内谷林道終点13・20—城丹国境尾根14・00～20—六ノ谷林道起点14・40～50—六谷林道出合15・10—大森東田国鉄バス停転場16・00～50（バス）京都駅北西18・00（解散）

小野内谷からジョーラク峠への道は、頭頭域で廃道化しているので、林道を奥までつめて△671・4mへ登り、尾根を辿りジョーラク峠へ出た。小野内谷源頭も廃道化していた。今回は北山の薮こぎを楽しんだ。

（参加者）加藤吉彦　寺西　孝　紙谷悦子　前田政雄　野口　修　呉比裕実　吉原清夫　石田芳弘　前田栄三　三木吳子　渡辺俊二　南　寛子　小林仁幸　青木一雄　岡本政一　鈴木義雄　上井忠夫子　中村静香　三宅　明　眞田久子　東　寿淑　熊木秀雄　四ノ宮陽子　吉田生剛　吉田隆秀　佐古田文子　松井徳永　岩本いすゞ　若木修二　逸見千恵子　血原武男　吉田その子　寺本幸男　平敏吉子　辻　嘉一郎　渡辺逸郎　鷲山義治　内海幸三郎　青木和子　今西光男　岡田恵美子　中村和子　小田和子　倉元ミツエ　家入敏光　家入敏子　林　正義　仲秋一郎　仲秋美子　山本豊智子　堀　久子　淡坂　宗　深坂昌子　篠原忠明　篠原義子　上坂雄樹　山口ユキコ　岩城豊子　小西節雄　栗村孝治　栗村三枝　高橋恵治　吉田　進　福井清之　高橋恵紀子　武田俊子　富岡敏子　中井ひろみ　村上雅代　竹内正三　山崎加奈子　下村啓子　太全正秀　山崎多恵子　出口喜次　兼田幸子　千葉千枝子　○藤岡吉子○岡田　昇○山崎義治　○渡辺次男○高橋　寛◎村田智俊（計80名）

ボンボン山北鷹巣から駅迄

7月1日(土)　曇り

JR高槻駅5・30（タクシー）登山口9・30—沢との分岐10・10—尾根10・40—釈迦岳下の鉄塔11・30（昼食）12・10—山伏下山口分岐12・50—山伏13・30—高槻ショウ高園14・50～16・52（バス）高槻駅17・30（解散）

心配していた沢も水量が少なく20数回の渡渉も楽にこなせた。少人数だったので道草、寄り道思いのままに……。下山道も変更して百万本の花しょうぶを楽しんだ。

（参加者）木島雅子　橋本豊二郎　野口　修　仲秋美子　野口志津子　岡田　昇　岡田恵美子

山高多恵子　○山田義治　◎表敬弘子（計10名）

稲村ケ岳

7月8日(土)～9日(日)　1泊2日

（8日）曇り　近鉄下市口駅12・05（乗合）10（バス）洞川13・30—紀の国屋旅館13・40～14・00—龍泉寺—面不動鍾乳洞14・20—屋敷谷15・00—どろろう道15・30～16・00—ゴロゴロ水—宿16・30

（9日）晴れ　宿6・50（送迎マイクロバス）大峰大橋7・00—レンゲ辻9・10～20—山上辻10・00～15—稲村ケ岳10・40～11・00—大日山11・20—山上辻11・40（昼食）12・15—法力峠13・10～15—宿14・20（入浴・休憩）15・40—洞川15・50（バス）下市口駅17・20（解散）

梅雨明けを思わせる晴天に恵まれ、稲村ケ岳の展望を楽しんだ。オオヤマレンゲも咲いていた。

（参加者）眞田久子　上井崇美子　近藤　恭　山根邦彦　平敏吉子　高橋敏子　藤浅次男　青木和子　石田芳弘　三浦弘幸　藤岡　裕　加藤元彦　本島　修　前田政雄　三宅　明　永住勝美　千葉千枝子　呉比裕実　森　昌好　今村真智子　新田多恵子　岡田　昇　岡田恵美子　芙村二枝　細井和子　安田文美江　家入敏光　家入敏子　真村誠治　柿木克子　飯島敏子　佐古田文子　横井恭子　佐古田次男　竹田利夫　前田幸子　吉田　誠　福井清之　福井節子　○西嶋　寛　◎村田智俊（計32名）

新ハイキングクラブ関西

入会のすすめ

このページの山行例会を通じて正しい山歩きを、たのしい山仲間たちと味わいませんか。リーダー(係)はすべて無償の奉仕で、各自で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。

あなたも新ハイキングクラブ関西に入会してたのしいお仲間になりませんか。会員には毎号「新ハイキング・別冊関西の山」（年間隔月6号入会）をお届けします。会員は山行例会に優先参加できます。

入会金　500円（バッジ代）

年会費　2500円（送料込）

新ハイキングクラブ関西への入会申し込みはこの紙に新人の旨会用紙をご利用下さい。第何号から送本せよと明示下さい。

尚、定期購読を御希望される方も会員になって頂きますと、毎号確実にお手元に届きますので便利です。

山行リーダー募集

新ハイキングクラブ関西では、会員の増加に伴って、山行例会を増やす必要があります。リーダーは3か月に一回程度の山行計画を立案し、実施して頂きます。

申し込みの受け付けなど、いろいろな用件がありますが、経験のある方や、やってみたいと思われる方は事務局本部（村田）までご連絡下さい。

○新入会員紹介（2425まで）

後藤雅子　岩城豊子　三浦勝昭　小田和子　杉村安代　中谷　稔　東　邦子　森繁治之　藤本正雄　本間俊次　宗殿美智子　小早川　徹　荒堀平代　島田光子　黒田千夜子　強石智子　松井徳永　大村忠夫　吉田千恵　吉田隆秀　横田恭代　山内君枝　伊藤　茂　原田ユタカ　永井哲男　西條豊彦　林　冷子　渡辺光夫　佐藤春夜　栄山信夫　谷口　誠　長宜琢子　中戸利彦　牛谷保雄　三野　旭　藤城一成　渋谷健司　渋谷直文　虎塚正也　吉田文子　高橋助二　高木忠夫　前上　明　沙野純子　木金正秀　太西　明　大西トシ子　山川　浩　納越和明　船越みよ子　小田真澄　大城光子　田名網拓司　中山佳弘　陣　恵子　中村伸子　入江武史　山本孝子　藤谷信雄　御永安雄　白鳥良男　中野哲二　吉川忠文　小島一起　渡辺千恵子　森　雅彦　森実喜美子　吉田幸枝　山原満男　血原智子　三浦敏宏　山下恒夫　山下知余子　竹下昭年　佐賀幸一　佐賀久仁子　横山　昇　見上愛子　本間美智子　元吉　浄　内田義雄　江村忠雄　宮内健一　山崎真夫

訂正とお詫び

23号（盛夏）P48上段7行目治田峠は小峰が正しい。

23号（盛夏）P51上段16行目・01と線は431号線が正しい。P52の図面も同。（編集部）

毎号お求めになりたい方へ

前もって書店に毎号ほしいと「購読予約」をされますと、どこの書店でもお買い求めいただけます。偶数月の20日ごろ（隔月刊）の発売です。